



岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第163集

# 釜戸上平遺跡

2024

岐阜県文化財保護センター

かま 釜 戸 上 平 遺 跡  
ど うえ だいら

2024

岐阜県文化財保護センター





発掘区遠景（南から）



発掘区近景（北から）



S101 (北から)



S101 石囲炉 (北から)

## 序

岐阜県の南東部に位置する瑞浪市は「化石の町」として知られ、市の中央部を流れる土岐川に沿って国道19号や中央自動車道・JR中央本線が通じ、古来より東山道、中山道、下街道などの街道が整備された交通の要所です。

このたび、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所による国道19号瑞浪恵那道路事業に伴い、瑞浪市釜戸町にある釜戸上平遺跡の発掘調査を実施しました。釜戸上平遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡です。今回の発掘調査では、縄文時代中期の竪穴建物1軒のほか、時期を確定することはできませんでしたが、掘立柱建物を2棟確認し、縄文時代から集落が営まれていたことが分かりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、瑞浪市教育委員会、地元地区の皆様へ深く感謝申し上げます。

令和6年3月

岐阜県文化財保護センター  
所長 岡田 知也

## 例 言

- 1 本書は、岐阜県瑞浪市釜戸町に所在する釜戸上平遺跡(岐阜県遺跡番号21208-06160)の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、国道19号瑞浪恵那道路事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県文化財保護センターが委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 水ノ江和同同志社大学文学部教授の指導のもとに、発掘作業は令和3年度、整理等作業は令和4年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第1章第2節に一括して掲載した。
- 5 本書の執筆は、第1章と第3章1節を主に中野が行い、他は中野の所見を参考に春日井が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影、出土遺物の洗浄・注記などの支援業務は令和3年度に、整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、令和4年度に株式会社イビソクに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である(敬称略・五十音順)。  
長田友也、砂田晋司、高橋健太郎、瑞浪市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄2014『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

# 目次

巻頭図版

序

例言

目次

## 第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯……………1

第2節 調査の方法と経過……………4

## 第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境……………7

第2節 歴史的環境……………8

## 第3章 調査の成果

第1節 基本層序……………11

第2節 遺構の概要……………12

第3節 遺物の概要……………15

第4節 縄文時代の遺構と遺物……………21

第5節 その他の時代の遺構と遺物……………52

遺構全体図分割図……………61

遺構一覧表……………71

遺物観察表……………78

第4章 総括……………89

参考・引用文献……………97

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

図1	遺跡位置図	1	図26	SK167・SK184・SK284遺構図、SK184・SK284 出土遺物	41
図2	試掘調査坑と発掘区的位置	2	図27	SK290・SK299・SK367・SK407遺構図、SK 290・SK299出土遺物	42
図3	発掘区地区割図	4	図28	包含層等出土縄文土器(1)	44
図4	遺跡周辺の地形分類略図	7	図29	包含層等出土縄文土器(2)	45
図5	周辺遺跡位置図	8	図30	包含層等出土縄文土器(3)	46
図6	基本層序及びⅡ層残存範囲	11	図31	包含層等出土縄文土器(4)	47
図7	遺構配置図	13	図32	包含層等出土石器(1)	48
図8	遺構土層堆積状況及び断面形式図	14	図33	包含層等出土石器(2)	49
図9	I層及びⅡ層の遺物出土分布図	16	図34	包含層等出土石器(3)	50
図10	石畿分類模式図	19	図35	包含層等出土石器(4)	51
図11	SI01遺構図(1)	22	図36	SB01遺構図	53
図12	SI01遺構図(2)	23	図37	SB02遺構図	54
図13	SI01出土遺物(1)	24	図38	SA01遺構図	55
図14	SI01出土遺物(2)、SP01遺構図・出 土遺物	25	図39	古墳時代以降の土坑(1)	57
図15	SK002・SK004遺構図、SK002出土遺物	26	図40	古墳時代以降の土坑(2)、SK412出土 遺物	58
図16	SK010・SK022遺構図、SK010出土遺物	27	図41	包含層等出土古墳時代以降の遺物	60
図17	SK023・SK025・SK027・SK029・SK035・SK038 遺構図、SK023・SK027・SK029出土遺物	29	図42	遺構全体図分割図(1)	61
図18	SK039・SK041・SK042遺構図、出土遺物	30	図43	遺構全体図分割図(2)	62
図19	SK045・SK052・SK053遺構図、出土遺物	31	図44	遺構全体図分割図(3)	63
図20	SK054・SK056・SK062・SK069・SK073遺構図、 出土遺物	33	図45	遺構全体図分割図(4)	64
図21	SK076・SK077遺構図、SK077出土遺物	34	図46	遺構全体図分割図(5)	65
図22	SK078・SK080・SK098遺構図、SK078・SK098 出土遺物	36	図47	遺構全体図分割図(6)	66
図23	SK100・SK101・SK102遺構図、SK100・SK101 出土遺物	37	図48	遺構全体図分割図(7)	67
図24	SK103・SK104・SK108・SK110・SK116・SK120 遺構図、SK108・SK110・SK116・SK120出土 遺物	39	図49	遺構全体図分割図(8)	68
図25	SK149・SK159・SK165遺構図、SK159・SK165 出土遺物	40	図50	遺構全体図分割図(9)	69
			図51	遺構全体図分割図(10)	70
			図52	竪穴建物検出遺跡位置図	89
			図53	竪穴建物の柱穴配置例	93
			図54	打製石斧計測値相關図	94

## 表目次

表1	試掘・確認調査結果	3	表20	縄文土器観察表(2)	79
表2	周辺遺跡一覧	9	表21	縄文土器観察表(3)	80
表3	検出遺構数量表	12	表22	縄文土器観察表(4)	81
表4	出土遺物数量表	15	表23	縄文土器観察表(5)	82
表5	石器器種別数量表	17	表24	縄文土器観察表(6)	83
表6	器種別石材一覧	18	表25	縄文土器観察表(7)	84
表7	竪穴建物一覧	71	表26	古墳時代以降の土器観察表	85
表8	SI01柱穴等一覧	71	表27	石鏃一覧	86
表9	掘立柱建物一覧	71	表28	石錐一覧	86
表10	掘立柱建物柱穴一覧	71	表29	スクレイパー一覧	86
表11	櫛一覧	71	表30	楔形石器一覧	87
表12	櫛柱穴一覧	71	表31	打製石斧一覧	87
表13	単独柱穴、土坑一覧(1)	72	表32	石槌一覧	87
表14	土坑一覧(2)	73	表33	調整剥離を施す剥片(RF)一覧	87
表15	土坑一覧(3)	74	表34	微細な剥離痕を有する剥片(MF)一覧	88
表16	土坑一覧(4)	75	表35	磨石類一覧	88
表17	土坑一覧(5)	76	表36	銭貨一覧	88
表18	土坑一覧(6)	77	表37	縄文時代中期後葉の竪穴建物一覧(1)	90
表19	縄文土器観察表(1)	78	表38	縄文時代中期後葉の竪穴建物一覧(2)	91

## 挿入写真目次

写真1	発掘区調査前近景	3	写真3	遺構掘削作業風景	6
写真2	遺構出土遺物取上作業風景	6			

## 写真図版目次

巻頭図版1 発掘区遠景、発掘区近景

巻頭図版2 SI01、SI01石囲炉

図版1 発掘区遠景、近景

図版2 発掘区近景

図版3 SI01（1）

図版4 SI01（2）

図版5 SI01（3）

図版6 単独柱穴、土坑（1）

図版7 土坑（2）

図版8 土坑（3）

図版9 SB01、SB02、SA01

図版10 SB02、SA01、土坑（4）等

図版11 出土遺物（1）

図版12 出土遺物（2）

図版13 出土遺物（3）

図版14 出土遺物（4）

図版15 出土遺物（5）

図版16 出土遺物（6）

図版17 出土遺物（7）

図版18 出土遺物（8）

図版19 出土遺物（9）

図版20 出土遺物（10）

## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

釜戸上平遺跡は、瑞浪市東部の釜戸盆地に位置し、土岐川とその支流の佐々良木川によって形成された土岐川左岸の段丘上に立地する。遺跡が所在する瑞浪市釜戸町は市の東部に位置し、東側は恵那市と接する。当遺跡の対岸となる土岐川右岸には、中央自動車道や国道19号、JR中央本線が位置するなど、愛知県と長野県を結ぶ東西交通の中継点として重要な役割を果たしてきた。

国道19号の渋滞・事故等の交通課題の解消や、地域振興に寄与することを目的として、国道19号瑞浪恵那道路が計画された。しかし、この事業予定地内に釜戸上平遺跡が所在することから、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所（以下、「国道事務所」という。）から岐阜県知事（以下、「県知事」という。）宛てに、事業の進捗に合わせて3次に渡る試掘・確認調査の依頼があった。第1次は平成30年12月14日付け国部整多二工第50号で、第2次は平成31年1月24日付け国部整多計第68号で、第3次は令和2年5月11日付け国部整多計第27号であり、岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課はこれを受けて、平成30年12月25・26日に第1次（TP1～TP4）、平成31年1月29・30日に第2次（TP5～TP9）、令和2年6月15日～18日に第3次（TP10～TP24）の試掘・確認調査を実施した（図2）。その結果、一部の試掘調査坑において土坑を検出し、縄文土器や石器、山茶碗、中近世陶磁器類などの遺物が出土した（表1）。また、TP18においては良好な遺物包含層が残存していることが確認された。

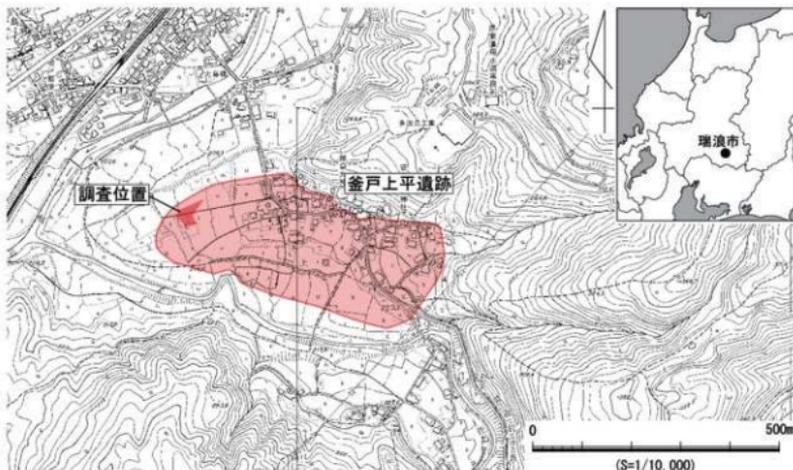


図1 遺跡位置図（国土地理院発行5千分1国土基本図「VII-ME 13」（昭和54年発行）、「VII-ME 23」（昭和47年発行）を1万分の1に縮小して使用）

## 2 第1章 調査の経緯

この試掘・確認調査の結果をもとに、令和2年8月4日に開催された令和2年度第1回岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、1,436.3㎡について保護措置が必要であると結論づけられた。本発掘調査は令和3年度に、岐阜県文化財保護センター（以下、「センター」という。）が国道事務所から、国道19号瑞浪恵那道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の依頼により、発掘調査を実施した。

本工事は、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、国道事務所長から県知事宛てに埋蔵文化財発掘通知（令和2年10月13日付け国部整多計第48号）が提出され、同条第4項の規定に基づき、県知事から国道事務所長宛てに発掘調査実施の勧告（令和2年10月13日付け文伝第104号の121）を通知した。国道事務所長は、センター所長に発掘調査の実施を依頼（令和3年1月14日付け国部整多国部整

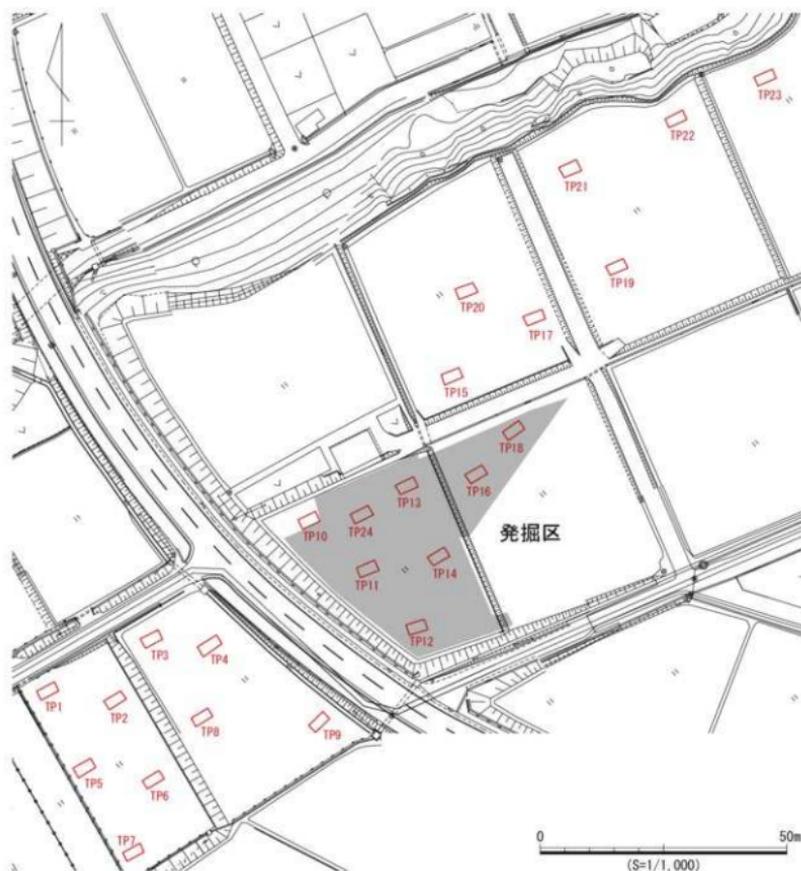


図2 試掘調査坑と発掘区の位置

多計第76号)した。センター所長は調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告(令和3年5月11日付け文財セ第74号)を県知事に提出した。

表1 試掘・確認調査結果

試掘調査坑	検出遺構	出土遺物(点数)					
		縄文土器	土師器	須恵器	山茶碗	陶磁器類	石器
TP1	なし	2				1	
TP2	なし						
TP3	なし			2			
TP4	なし						
TP5	なし				1		
TP6	なし					1	
TP7	なし						
TP8	なし				14	1	
TP9	なし						
TP10	なし	2	1		12	13	
TP11	土坑9	1			10		
TP12	土坑5				2		
TP13	土坑7	3	3				
TP14	土坑1				2	3	
TP15	なし	1			4	2	
TP16	土坑3	5	2	1	10	16	2
TP17	なし	10			9	4	
TP18	土坑8	47	3		1	1	2
TP19	なし	2					2
TP20	なし	4			3	6	
TP21	なし	2			12	10	
TP22	なし	1				5	
TP23	なし				6	6	
TP24	土坑2	1			1	1	



写真1 発掘区調査前近景

## 第2節 調査の方法と経過

## 1 調査の方法

発掘作業は、令和3年度に1,436.3m<sup>2</sup>を実施した。世界測地系座標のX=-65835、Y=12475を基点に5m単位の格子目状のグリッドを設定した(図3)。グリッドは、北から南へAからM、西から東へ1から14とし、グリッドに囲まれた5m四方の区画を調査グリッドと呼び、その呼称は北西角の杭番号を用いた。そのため、発掘区の西端の調査グリッドはG2、北東端の調査グリッドはB13、南端の調査グリッドはL7となる。

表土及び整地層の掘削は、重機を用いて行った。遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削は草削り鎌、移植ゴテ等を用いて人力で実施した。遺構埋土は、半截又は4分割して土層堆積状況などの必要な記録を作成した後、完掘した。検出した遺構は、原則として検出順に通番を付し、「S0001」のようにSと4桁の数字により表記した。この番号は、整理等作業時に遺構種別ごとの番号に付け替えた。

遺構等の実測作業は、原則として平面図をデジタル測量、断面図を手測り測量にて実施した。図面の縮尺は20分の1を基本として、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

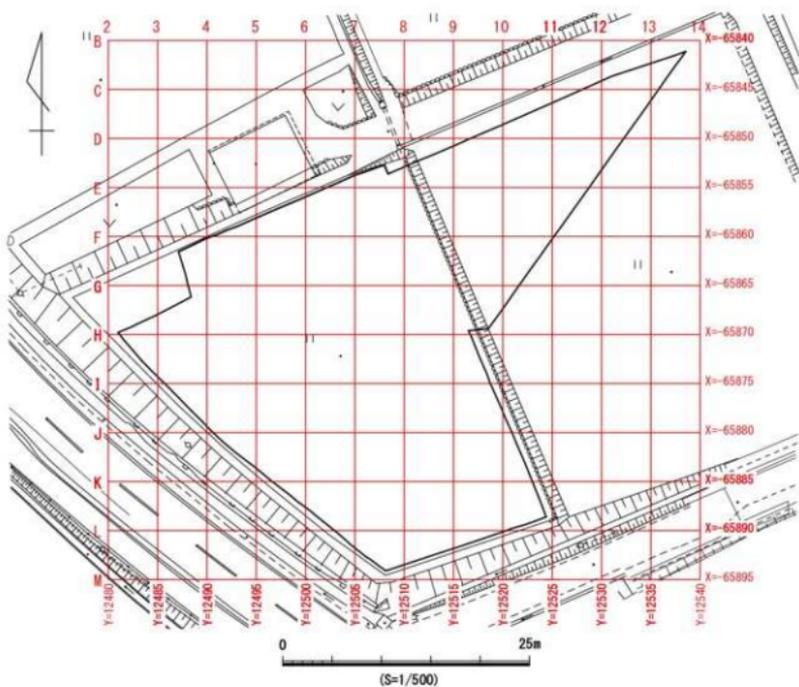


図3 発掘区地区割図

写真撮影は、デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区全体の景観写真撮影は、ラジオコントロールヘリコプターにより撮影した。

遺物包含層掘削及び遺構検出時に出土した遺物は、原則として調査グリッド単位、層位ごとに取り上げた。遺構出土遺物は、半截前後で取り上げ方法を変えた。半截前は、検出面から約5cmまでをa層、約5cm～約10cmをb層というように、遺構内を概ね5cm単位の人工層位で取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、出土状況図を作成した。遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「西層下二桁とKU(遺跡名略号)」「出土場所(遺構番号又は調査グリッド番号)」「出土層位」「取上日」「遺物取上番号」「備考」を記入し、この記録をもとに遺物台帳を作成した。

## 2 調査の経過

現地での調査経過は以下のとおりである。

- 第1週(5/6～5/7) 発掘区西側から表土掘削作業を開始。
- 第2週(5/10～5/14) 表土掘削作業は、TP16以西まで終了。
- 第3週(5/17～5/21) TP16以東の表土掘削作業を開始。表土掘削作業を終了。
- 第4週(5/24～5/28) 人力掘削作業を開始。発掘区北側壁面及び発掘区西側壁面の成形作業を実施。
- 第5週(5/31～6/4) 発掘区西側壁面の成形作業を実施。
- 第6週(6/7～6/11) SI01・SK078を検出。SK078縄文土器出土状況図を作成し取り上げる。
- 第7週(6/14～6/18) SK078を完掘。
- 第8週(6/21～6/25) D8・E9グリッドの遺構掘削作業終了。I5～I7・J4～I7・K5～K7グリッドの包含層掘削作業終了。
- 第9週(6/28～7/2) 長雨により作業中止。
- 第10週(7/5～7/9) SB02を検出。発掘区南側(I9グリッド～L9グリッド)において、整地土の取り残しがあると判断、安全に配慮し重機での掘削作業実施。
- 第11週(7/12～7/16) 発掘区南側の重機掘削作業終了。SI01-炉の炉石を確認。SB01(I9グリッド)を検出。SB01(I8グリッド)を検出。
- 第12週(7/19～7/23) SI01の掘削作業を実施。SA01(I6グリッド)を検出。
- 第13週(7/26～7/30) SB02・SA01(I7グリッド範囲)を検出。SB02を完掘。
- 第14週(8/2～8/6) SA01を完掘。
- 第15週(8/10～8/13) 夏期作業休止。
- 第16週(8/16～8/20) G9・10グリッドの包含層掘削作業、遺構検出作業終了。
- 第17週(8/23～8/27) SB01(H8グリッド)を検出。SI01と重複する遺構を調査。SB01を完掘。G3グリッドのI層から寛永通宝(237)出土。
- 第18週(8/30～9/3) SI01-炉の底面から縄文土器が出土。一次整理作業を開始。SI01-炉を完掘。
- 第19週(9/6～9/10) D6・E6・F6グリッドの包含層掘削作業、E5・F5・F6グリッド

の遺構検出作業終了。

- 第20週（9/13～9/17） 地元向け現地見学会の実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、地元自治会向けに発掘調査成果の周知を発掘調査だよりの回覧により行うことを決定。SI01埋土を完掘し、床面で柱穴などを検出し完掘。
- 第21週（9/21～9/24） E4・F4グリッドの遺構掘削作業を終了。
- 第22週（9/27～10/1） 地元自治会向けに発掘調査だよりを回覧。
- 第23週（10/4～10/8） 指導調査員水ノ江和同氏（同志社大学文学部教授）による現地指導。景観写真撮影実施。人力掘削作業を終了。
- 第24週（10/11～10/15） 全体図校正作業を実施。埋戻し作業を開始。
- 第25週（10/18～10/22） 埋戻し作業を実施。
- 第26週（10/25～10/30） 現場事務所を撤収。埋戻し作業を終了。
- 第27週（11/1） 一次整理作業を終了。

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は令和3年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は令和4年度に実施した。整理等作業時には、令和4年12月12日に水ノ江和同氏（同志社大学文学部教授）に調査成果に関する指導を受けた。なお、令和4年度に銭貨1点（237）の保存処理を実施した。

### 3 調査体制

発掘作業及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長	岡田知也（令和3・4年度）
総務課長	布施三千代（令和3年度）、中通珠子（令和3・4年度）
調査課長	三輪晃三（令和4年度）
調査担当課長補佐	大本直人（令和3・4年度）
調査担当職員	中野真吾（令和3年度）・春日井恒（令和4年度）



写真2 遺構出土遺物取上作業風景



写真3 遺構掘削作業風景

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境<sup>1)</sup>

当遺跡が所在する瑞浪市は岐阜県の南東部に位置し、東は権現山や屏風山などを境に恵那市に接し、西は丘陵部で土岐市、可児郡御嵩町に接している。北は木曾川を隔てて加茂郡八百津町や恵那市に対して。また、南は丘陵地帯を境に愛知県豊田市と隣接する。

市の面積の8割近くを恵那山系の一部である東濃丘陵地帯が占め、中津川市から恵那市に至る屏風山断層帯が市域の南西から北東に延びる。市域の中央を東西に横断するように西流する土岐川や、土岐川に合流する日吉川や佐々良木川、小里川などの小河川によって河岸段丘が形成され、集落を発達させてきた。

当遺跡は、瑞浪市釜戸町上平に所在し、土岐川と佐々良木川によって形成された河岸段丘上に位置する。遺跡範囲は東西約600m、南北約250mで、北から南へなだらかに傾斜する地形である。発掘区は、遺跡範囲の西端部となり（図1）、標高約220mで北側に流れる土岐川との比高差は10mほどである。

注

1) 瑞浪市1974『瑞浪市史』歴史編を参考にした。

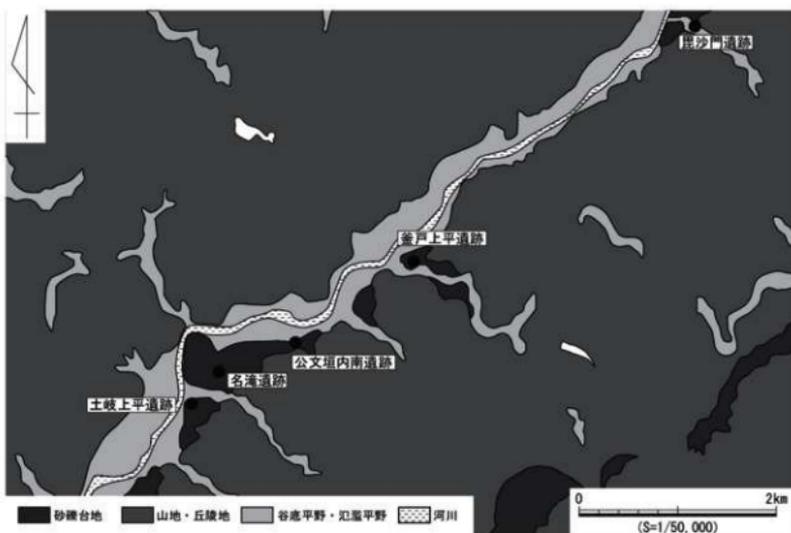


図4 遺跡周辺の地形分類略図（1:50,000、岐阜県1989『地形分類図恵那・中津川』を基に作成）

## 第2節 歴史的環境

当遺跡周辺では、土岐川の両岸に多くの遺跡が確認されているが、土岐川右岸には古墳群が、釜戸町公文垣内周辺には中世の遺跡が集中する。本節では、周辺の遺跡について、概要を時代順に記載する<sup>1)</sup>。なお、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2及び図5<sup>2)</sup>と一致する。

**旧石器時代** 当該期の遺跡は、釜戸上平遺跡(1)だけである。釜戸上平遺跡では、昭和50年に実施された圃場整備などの際に、多くの遺物が採集されている。瑞浪市陶磁資料館により、これらの遺物の整理が実施され、ナイフ形石器の存在が報告されている。

**縄文時代** 土岐川流域の河岸段丘上や丘陵上に遺跡が点在し、土岐川支流の佐々良木川や神徳川による河岸段丘上にも確認されている。釜戸上平遺跡では、草創期の可能性がある尖頭器等の石器や前期から晩期にかけての縄文土器が報告されている。中切上屋遺跡(5)は早期或いは前期以降の遺跡とされるが、瑞浪市教育委員会による中央自動車道の建設に伴う発掘調査では、後期の石組遺構が確認されたほか、中期から晩期にかけての縄文土器や石器が出土している。中切町裏遺跡(8)では、石器が採集されている。名滝遺跡(11)は前期以降の遺跡とされ、石鏃や石錘が出土している。釜戸裏山遺跡(12)は早期以降の遺跡と

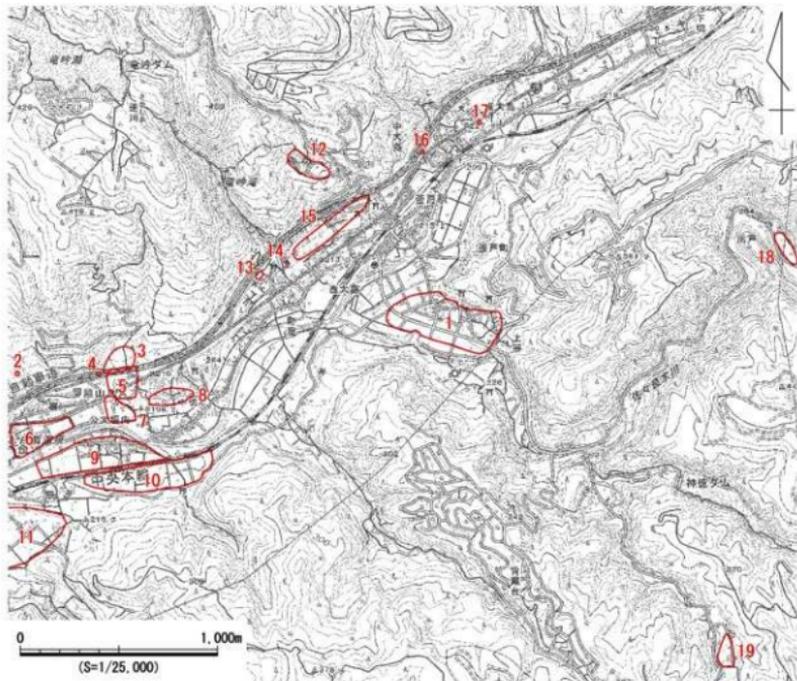


図5 周辺遺跡位置図(平成28年国土地理院発行2万5千分1地形図「瑞浪」を使用)

表2 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	釜戸上平遺跡	集落跡	旧石器・縄文・弥生・中世	R3一部発掘調査、本報告
2	岩倉古墳	古墳	古墳	
3	天徳古墳群	古墳	古墳	S46～S47発掘調査
4	大仙奈遺跡	不明	近世	S46墳発掘調査、滅失
5	中切上屋遺跡	散布地	縄文・古墳・中世	S46発掘調査
6	釜戸宿遺跡	散布地	中世	
7	釜戸陣屋跡	城館跡	中世・近世	
8	中切町裏遺跡	散布地	縄文・中世	
9	公文垣内遺跡	散布地	奈良・平安・中世	
10	公文垣内南遺跡	集落跡	古代・中世	R2一部発掘調査
11	名滝遺跡	散布地	縄文・中世	R元・R2一部発掘調査
12	釜戸裏山遺跡	散布地	縄文	
13	旗本馬場氏墓	その他の墓	近世	瑞浪市指定史跡
14	鉢伏古墳	古墳	古墳	
15	大島古墳群	古墳	古墳	S46～S47発掘調査、滅失
16	大島古墳群大島1号古墳	古墳	古墳	S46～S47発掘調査、滅失
17	津島古墳	古墳	古墳	S41発掘調査、滅失
18	川戸遺跡	散布地	縄文	
19	神徳遺跡	散布地	縄文	

され、石器や縄文土器が出土している。川戸遺跡(18)では石棒が、神徳遺跡(19)では石鏃が採集されている。このほか、大島1号古墳の発掘調査において、打製石斧が出土したことが報告されている。

**弥生時代** 釜戸上平遺跡は、弥生時代以降の遺物も散見できることが確認されているほか、大島1号古墳の発掘調査において、墳丘中から弥生土器が出土したことが報告されている。

**古墳時代** 土岐川右岸には岩倉古墳(2)、天徳古墳群(3)、鉢伏古墳(14)、大島古墳群(15・16)、津島古墳(17)などの古墳が造営されている。これらのうち、津島古墳は宅地造成に伴い、大島古墳群(大島1号・2号古墳)、天徳古墳群(天徳2号・7号古墳)は中央自動車道建設に伴い、それぞれ瑞浪市教育委員会が発掘調査を実施し、横穴石室を持つ後期の古墳であることが判明している。また、中切上屋遺跡では、中期と思われる土師器が出土している。

**古代** 公文垣内遺跡(9)、公文垣内南遺跡(10)において古代の遺物が確認されているが、令和2年度に実施された公文垣内南遺跡発掘調査では、掘立柱建物も検出され、集落跡であることが確認された。

**中世** 釜戸上平遺跡、中切上屋遺跡、釜戸宿遺跡(6)、中切町裏遺跡、公文垣内遺跡、釜戸陣屋跡(7)において中世の遺物が採集されている。また、近年の発掘調査により、公文垣内南遺跡や名滝遺跡において、遺構や遺物が確認されている。

**近世** 釜戸陣屋跡は、旗本馬場氏の陣屋跡で、関連する遺跡として旗本馬場氏墓(13)がある。また、大仙奈遺跡(4)では、発掘調査により炭焼き窯の可能性が考えられる遺構が検出されている。なお、17世紀初頭に中山道が整備され、恵那市の横ヶ根追分で中山道から分かれ、土岐川沿いに名古屋城下町に至る下街道がよく利用されたとされる。

以上、当遺跡周辺は、縄文時代及び中世の遺跡が多く確認されている。古墳群は土岐川右岸に展開するが、それを造営した集落遺跡は、弥生時代の集落跡と同様に未確認である。

注

1) 各遺跡の記述は、以下の文献を参考とした。

加藤寛治 1982『からむし』第2号

岐阜県教育委員会 2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集

岐阜県文化財保護センター 2023『公文垣内南遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第189集)

近藤行仁 2012『釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告』『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第14号

瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市教育委員会 1966『岐阜県瑞浪市釜戸町字吉原津島古墳発掘調査報告書』(瑞浪市史学研究報告書第4号)

瑞浪市教育委員会 1981『瑞浪市中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』

瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡地図』瑞浪市文化財調査報告第6集

2) 図5及び表2は瑞浪市教育委員会 2014を基に、新たな成果を踏まえて作成したが、時代については発掘調査報告書等の記載も参考にした。

### 第3章 調査の成果

#### 第1節 基本層序

発掘区の現況は2筆の耕作地であった。標高は東端が約218.9m、西端が217.7mと約1.2mの比高差があり、調査後の基盤層上面でも東から西に向かって標高は低くなる。基本層序は、令和2年度に実施した試掘・確認調査で確認された層序を基に、Ⅰ層からⅢ層を設定した。遺構はⅢ層上面で検出したが、Ⅱ層が残存した範囲を示した(図6)。

##### Ⅰ層 表土

**Ⅰa層** 現況の耕作土である。土色は黒褐色で、しまりはない。粘性は場所によって異なり、小礫を少量含む。

**Ⅰb層** 圃場整備時と思われる盛土である。土色は黒色から灰褐色で、土質や粘性は場所によって異なり、黄褐色土ブロックや黒褐色ブロック、亜円礫などを含む。

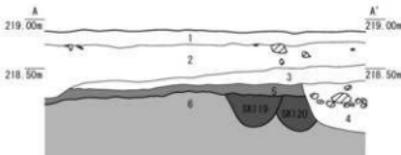
##### Ⅱ層 遺物包含層

土色は黒色で、ややしまり、やや粘性がある。小礫を少量含み、縄文時代から中世の遺物が出土した。圃場整備時と思われる土地改変の影響で、一部削平を受ける。

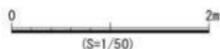
##### Ⅲ層 基盤層

土色は暗褐色～褐色で、土質や粘性、礫の含有状況は、場所によって異なる。上部ほど土壌化の影響により暗い色調となる。

発掘区北壁土層図



- 1 10YR3/1 黒褐色土 しまりなし 粘性ややあり Ⅰa層
- 2 10YR4/4 褐色砂質土 ややしまる 10YR2/2 黒褐色土ブロックを30%含む 径10～30mmの亜円礫を10%含む Ⅰb層
- 3 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 鉄分注着あり Ⅰb層
- 4 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 10YR2/3 暗褐色土ブロックを6%含む 径10～20mmの亜円礫を30%含む 覆土
- 5 10YR2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり Ⅱ層
- 6 10YR2/3 暗褐色砂質シルト ややしまる 粘性ややあり Ⅲ層



Ⅱ層残存範囲図



図6 基本層序及びⅡ層残存範囲

## 第2節 遺構の概要

### 1 概要

調査で検出した遺構には、縄文時代と古墳時代～古代、中世、近世のものがある(表3)。これらの遺構は、Ⅲ層(基盤層)の上面若しくは遺構埋土上面で検出しており、遺構内部から出土した遺物や、遺構の重複関係により時期決定を行った。しかし、遺構内部から遺物が出土せず、他の遺構との重複関係でも時期決定ができなかったものは、時期不明とした。検出した遺構の内訳は、竪穴建物1軒、掘立柱建物2棟、柵1列、単独柱穴1基、土坑412基である。

表3 検出遺構数量表

	縄文時代				古墳～ 古代	中世	近世	不明	合計
	早期	前期	中期						
竪穴建物	0	0	1	0	0	0	0	0	1
掘立柱建物	0	0	0	0	0	0	0	2	2
柵	0	0	0	0	0	0	0	1	1
単独柱穴	0	0	1	0	0	0	0	0	1
土坑	10	2	40	78	3	4	2	273	412

本書では、これらの遺構のうち、竪穴建物や掘立柱建物、柵は、遺跡の性格を反映するものとしてすべての遺構を報告した。土坑は、検出数が多いが時期不明のものも多いため、図を掲載した遺物が出土したものや、時期不明であっても特徴的な形状のものを抽出して報告した。

### 2 遺構の分類

調査で検出した遺構は、形状や規模、構造などから、竪穴建物、掘立柱建物、柵、単独柱穴、土坑に分類した。各遺構の分類基準は次のとおりである。

#### 竪穴建物(略号S1)

地表を掘り下げた位置に床面を持つ建物跡で、柱穴や炉、壁際溝など建物を構成する要素を確認できたもの。床面で検出した柱穴や土坑は略号をPとしたが、土坑は必ずしも竪穴建物に伴わないものが含まれている可能性がある。

#### 掘立柱建物(略号SB)

向かい合う2辺以上が確認できるように、規則的に並んだ複数の柱穴で構成される遺構を掘立柱建物とした。確認した柱穴の略号はPとした。

#### 柵(略号SA)

直線的あるいは、屈曲して並んだ3基以上の柱穴によって構成される遺構を柵とした。確認した柱穴の略号はPとした。

#### 単独柱穴(略号SP)

建物に伴う柱穴と同様の形状のものや、土層断面で柱痕跡が、底面で柱当たりが確認できるもので、規則的な配置が確認できず建物遺構として認定できなかったもの。

### 土坑（略号SK）

地面に掘りくぼめられた穴のうち、明確に性格付けができないものを土坑とした。遺物の出土状況や形状から墓坑や廃棄土坑といった可能性が考えられるものも含む。

### 3 遺構一覧表

各遺構の基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表（表7～表18）に示した。遺構種別によって、一覧表の項目はやや異なるが、共有する基本項目については次のとおりである。また、遺構全体図分割図において、重複した古い遺構を掘削したことにより、新しい遺構の上端・下端がなくなった場合は、淡色で表示した。このため、淡色で示した方が、重複関係は新しい。

**平面形** 円形及び方形、不定形を基本とし、さらに円形と方形は、長軸長と短軸長の比が1.2以上となるものを楕円形と長方形とし、次のように数字で表示した。なお、他の遺構との重複や発掘区外に続くため形状が明確でないものは不明とした。

1－円形 2－楕円形 3－方形 4－長方形 5－不定形 6－不明

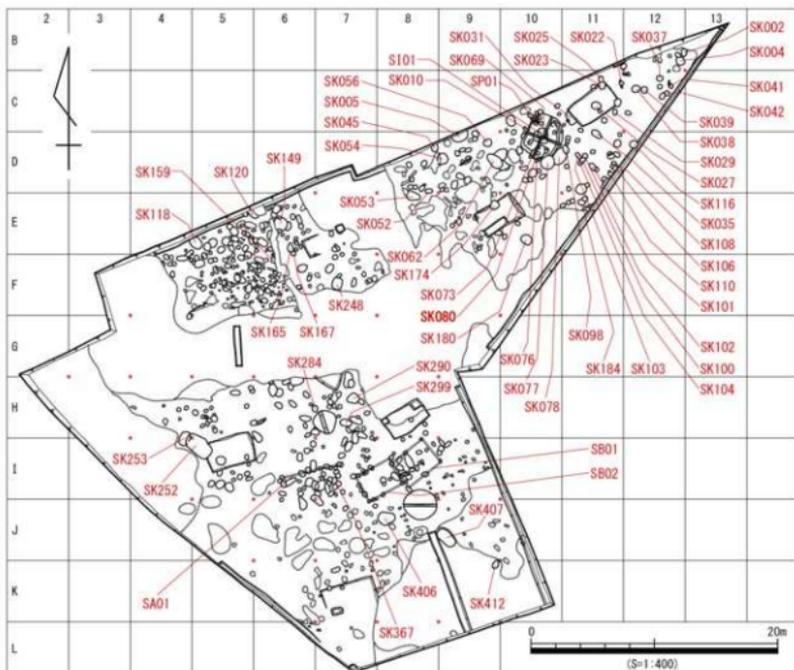


図7 遺構配置図

**遺構埋土** 分層した土層数と、堆積状況を次のように表示した(図8)。

A-単層 B-水平堆積 C-中央が凹む堆積 D-凹みが偏った堆積 E-その他

**断面形** 柱穴や土坑等の断面形を次のように表示した(図8)。

a-底面が丸い b-底面が平坦で壁面が垂直に立ち上がる c-底面が小さく尖る  
 d-底面が平坦で壁面が外側に開く e-底面が広がり袋状になる  
 f-不定形 h-不明

**遺構の大きさ** 単位は「m」であるが、( )で示したものは、全形が確認できなかったため、残存長を計測したものである。

**遺構の重複関係** 「新>古」の関係を示した。

**出土遺物** 次のように記号化して示した。

縄文土器：J 土師器：H 須恵器：P 山茶碗：Y 陶磁器類：T 石器類：S

土層堆積状況



断面形

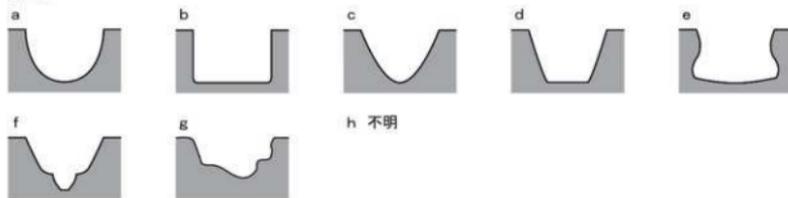


図8 遺構土層堆積状況及び断面形模式図

## 第3節 遺物の概要

### 1 概要

調査で出土した遺物には、縄文土器、土師器、須恵器、山茶碗、陶磁器類、石器、金属製品がある。その数量は、接合前の破片数で5,045点である（表4）。

表4 出土遺物数量表

	縄文土器	土師器	須恵器	山茶碗	陶磁器類	石器	金属製品	合計
I層	672	27	10	253	137	176	1	1,276
割合(%)	52.7	2.1	0.8	19.8	10.7	13.8	0.1	100
II層	2,817	24	1	34	7	114	0	2,997
割合(%)	94.0	0.8	0.0	1.1	0.2	3.8	0.0	100
遺構	689	18	0	2	2	61	0	772
割合(%)	89.2	2.3	0.0	0.3	0.3	7.9	0.0	100
合計	4,178	69	11	289	146	351	1	5,045
割合(%)	82.8	1.4	0.2	5.7	2.9	7.0	0.0	100

※ I層は、表土層や整地層の他、攪乱坑出土や排土採集遺物を含む。

※割合は、小数点以下第2位を四捨五入して表示。

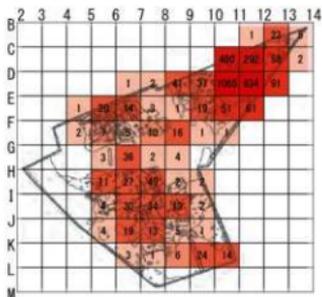
出土した遺物は、縄文時代の土器や石器が多く、9割近くを占める。古墳時代以降の遺物として、土師器や須恵器、山茶碗、陶磁器類が出土したほか、金属製品が1点ある。出土層位の傾向として、縄文土器は遺物包含層（II層）や遺構内から出土したものが多く、古墳時代以降の遺物は、I層とした表土層や整地層（攪乱坑、排土を含む）から出土したものが9割前後となり非常に多い。これは、発掘区内で確認した圃場整備時の攪乱の影響による可能性が考えられる。石器はI層から50%近くが出土したが、小さなものが多いため掘削作業時に見落とし、排土で採集したものが多くなった結果と思われる。

I層及びII層から出土した遺物の平面的な出土傾向は、種類によって異なる（図9）。縄文土器は、発掘区西端部など一部の調査グリッドを除き、各所で出土した。特に堅穴建物を検出した調査グリッドに集中し、その周囲からも多く出土している。また、柵を検出した調査グリッド近辺でも比較的多く出土した。石器は、堅穴建物を検出した調査グリッドに多いが、他は比較的散漫となる。土師器や須恵器は出土量が少なく、傾向として捉えにくい。発掘区北東部にややまとまる。これに対して山茶碗や陶磁器類は、攪乱坑を検出したG5～G8で多い。しかし、その南側の掘立柱建物や柵を検出した調査グリッドでは出土していない。

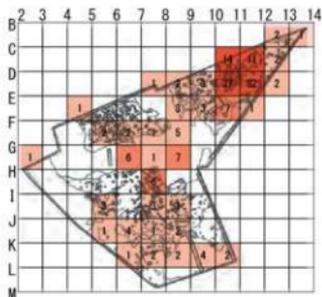
### 2 土器類

接合前の破片数で、4,693点出土した。縄文土器が最も多く、山茶碗、陶磁器類、土師器、須恵器の順となる。古墳時代以降の土器は、量的に少ないため分類は行っていないが、それぞれの年代観は既存の研究成果を利用した<sup>1)</sup>。

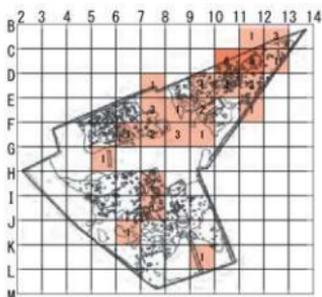
縄文土器



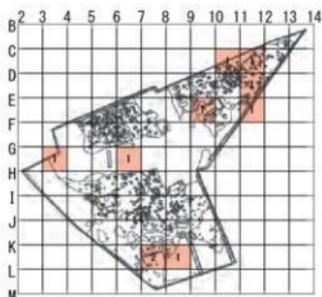
石器



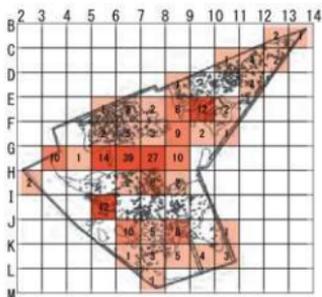
土師器



須恵器



山茶碗



陶磁器類

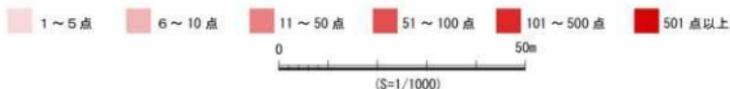
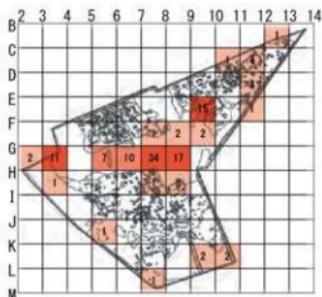


図9 I層及びII層の遺物出土分布図

縄文土器は、4,178点が出土したが、大半が中期後葉のもので、他に早期、前期、中期前葉から中葉の土器がある。既存の研究成果を参考にして、有文土器を中心に器形や文様などの特徴から、必要に応じて分類を行った。

早期の土器は、押型文土器がある。前期の土器は、いわゆる諸磯式土器や北白川下層式土器に類似する在地の土器などがある。

中期の土器は、前葉から後葉のものがあるが少量出土しただけで、東海地方の山田平式土器や北屋敷式土器、同じ頃の信州地方の土器がある。中期後葉の土器は、中富式土器、咲畑式土器、神明式土器、取組式土器、島崎Ⅲ式土器などと呼ばれるものがあるが、特に主体となるのは取組式土器から島崎Ⅲ式土器であり、深鉢を以下のように分類した<sup>2)</sup>。

深鉢A類 有文深鉢で口縁部に隆帯と沈線で文様を描くもの。

深鉢B類 有文深鉢で口縁部に沈線で文様を描くもの。

深鉢C類 有文深鉢で口縁部に立体的な装飾を施すもの。

深鉢D類 頸部が括れ、口縁部が外反する有文深鉢で、口縁部文様がないもの。頸部には把手を持つものがある。

深鉢E類 無文深鉢で、器面調整に縄文や撫でなどを施すもの。

深鉢F類 胴部だけの有文深鉢で、口縁部形態が不明なもの。胴部区画が隆帯のものをF1類、沈線のものをF2類とした。

その他 分類しないものとして、底部や脚台部、把手がある。

土師器は、69点出土したが、その多くは甕で、古墳時代後期から奈良時代のものと思われる。

須恵器は、11点出土したが、その多くは甕の胴部片である。7世紀～9世紀と思われる。

山茶碗は、289点出土した。いわゆる北部系のものばかりで、南部系の山茶碗は出土していない。およそ13世紀のものを主体とし、15世紀のものまでである。

陶磁器類は、146点出土した。大半が近世以降のものと思われる。

### 3 石器類

石器は、351点出土した。器種別数量は表5のとおりである。今回の調査では、石匙や磨製石斧、石錘、石皿といった河岸段丘上に営まれた集落跡でよくみられる石器が出土していないが、圃場整備事業の際に採集された遺物には、これらの石器が含まれており、特に打製石斧と石錘の量が多いことが指摘されている<sup>3)</sup>。器種毎の概要は次のとおりである<sup>4)</sup>。なお、石材はチャートが最も多く、次いで黒曜石であった(表6)。

表5 石器器種別数量表

	石鏃	石錘	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	石核	剥片類	RF	MF	磨石類	合計
点数	21	5	5	1	18	1	276	7	11	6	351
割合(%)	6.0	1.4	1.4	0.3	5.1	0.3	78.6	2.0	3.1	1.7	100

※割合は、小数点以下第2位を四捨五入して表示。

表6 器種別石材一覧

	石鏃	石錐	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	石核	剥片類	R F	M F	磨石類	合計
チャート	12	4	5	1	0	0	168	6	10	0	206
黒曜石	5	0	0	0	0	1	75	1	0	0	82
下呂石	3	1	0	0	0	0	18	0	1	0	23
砂岩	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
石英	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
安山岩	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
泥岩	0	0	0	0	18	0	8	0	0	0	26
砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
粘板岩	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
瑪瑙	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

## 石鏃（表27）

鋭利な先端部と柄に装着するための基部を作り出した小型の石器で、21点出土した。石材はチャートが12点と多く、次いで黒曜石が5点、下呂石が3点である。有茎石鏃はなく、基部の形態が凹基となるものを1類、平基若しくはやや外湾するものを2類とし、さらに1類を基部の挟りの形状と深さからa～dに細分した。なお、一覧表には、側縁部や脚部の形状、欠損部位についても図10に基づいて記号を記載した。

## 石錐（表28）

鋭利で細い先端部を作り出した石器で、5点出土した。石材はチャート4点、下呂石1点であった。不定形な剥片を素材とし、その一端に簡単な調整を加えて、短い錐部を作り出したものが4点、素材となる剥片のほぼ全周に調整を加えたものが1点である。

## スクレイパー（表29）

素材剥片の縁辺部に連続した剥離を施して、一辺の1/2以上の範囲に刃部を作り出した石器で、5点出土した。石材はすべてチャートであった。縦長の剥片の側面背面側に剥離調整を行い、刃部を作り出すものが多い。

## 楔形石器（表30）

剥片の相対する二縁辺に、潰れ状あるいは階段状の剥離痕が発達する石器で、1点出土した。石材はチャートである。

## 打製石斧（表31）

略長方形の形態で、ほぼ全周を二次加工し、長軸の一端に刃部を持つ石器で、18点出土した。石材はすべて泥岩である。

なお、平面形態及び刃部形態は以下のように記号化し、一覧表に記載した。刃部使用痕はあまり明瞭ではなく、摩耗や刃毀れが確認できる程度で、線状痕は1点しか確認できなかった。

## 平面形態

- 1 短冊形    2 撥型    0 折損により形態不明

## 刃部形態

- 1 平らなもの(直刃)    2 外湾するもの(円刃)    3 尖るもの(尖刃)  
4 中心軸に対して傾くもの(偏刃)

## 石核(表32)

素材剥片を剥離した残核を石核とし、1点出土した。石材は黒曜石である。

## 調整剥離を施す剥片(RF、表33)

素材剥片の縁辺部に二次加工を施すものうち、スクレイパーに含めなかったもので、7点出土した。石材はチャートが6点、黒曜石が1点である。

## 微細な剥離痕を有する剥片(MF、表34)

剥片の縁辺に微細な剥離痕が確認できる剥片で、11点出土した。石材はチャートが10点、下呂石が1点である。微細な剥離痕は便宜的に長さ2mm未満のものとした。素材となる剥片は、縦長が5点、横長が6点である。

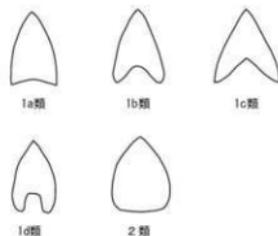
## 磨石類(表35)

握り拳大から手のひら大の大きさで、扁平な楕円形の川原石(円礫)を用い、表面に磨痕や敲き痕、凹みなどが観察できる石器で、6点出土した。石材は、安山岩と砂岩が3点ずつである。

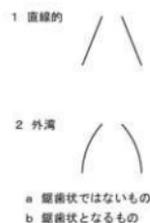
## 4 金属製品(表36)

金属製品は、I層から銭貨が1点出土した。

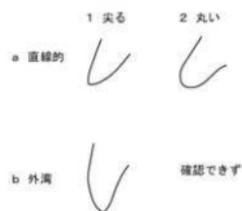
## 基部による分類模式図



## 側縁部形態模式図



## 脚部形態模式図



## 折損部位の分類



図10 石鏃分類模式図

## 5 遺物一覧表

図示した遺物は、遺構や包含層から出土した時期判別がある程度可能なものや、特徴的なものを抽出し、一覧表（表19～表36）に掲載した。土器や石器の一览表には、個々の遺物の基礎的情報を記載したが、石器は図示したもの以外の、器種が判明したものも掲載した。遺物の種別によって、一覧表の項目は異なるが、共有する基本項目については次のとおりである。

**掲載No・整理No** 「掲載No」は本文中の通し番号、「整理No」は発掘調査時の取上番号である。

**地区・遺構** 遺物が出土した調査グリッド若しくは遺構番号、試掘調査坑番号で、複数の地区や遺構から出土した遺物が接合した場合には、複数の調査グリッドや遺構番号を記入している。

**層位** 表土や遺物包含層などから出土したものは、基本層序番号（Ⅰ、Ⅱ）を、遺構から出土したものは、土層番号（1、2やa、bなど）を記入した。

**大きさ** 口径、底径、器高、長さ、幅、厚さなどの単位はcm、重さの単位はグラムである。

### 注

- 1) 土師器は、内堀信雄・井川祥子1996「美濃における古代煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会、山茶碗は、藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター編を参考にした。
- 2) 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『東野遺跡』（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第104集）の調査土器分類を参考にしたが、一部内容は異なる。また、撫糸文を地文とする土器を中富式とし、いわゆる加畑式、咲畑式、神明式、中富Ⅳ式、中富Ⅴ式などと呼ばれる土器群は、本書ではとりあえず咲畑式と呼称しておく。
- 3) 近藤行仁2012「釜戸土平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪市陶磁資料館研究紀要』第14号、瑞浪市陶磁資料館
- 4) 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『尾元遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第82集）を参考にした。

## 第4節 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代の遺構と遺物が他の時代と比較して最も多く、竪穴建物や土坑を検出した。調査で出土した遺物の多くが縄文時代のものであることから、遺物を伴わず、時期不明とした遺構の中にも、縄文時代のもが含まれる可能性がある。

### 1 竪穴建物

縄文時代中期後葉の竪穴建物を1軒検出した。

#### SI01 (図11～図14)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後III層上面で検出した。検出時にSI01よりも新しい遺構として検出した単独柱穴や土坑があるが、類似した時期の土器が出土したものが多く、検出時も重複関係は不明瞭であった。平面形は、長軸長3.75m、短軸長2.94mで長方形に近い形状となるが、東辺部は半径1.7mの弧を描き、北辺や西辺は直線的である。南辺はSK073などと重複して不明瞭であるが、やや弧を描くようにも見える。

**埋土** 2層に分層したが、ほぼ水平な堆積である。埋土中には褐色土ブロックを含む。埋土2層を除去した面を床面としたが、2層は比較的薄く全体的に堆積しており、しまりがあることから貼床層の可能性はある。

**壁** III層を掘り込んでいるが、東壁で0.08m、南壁で0.16mの深さがあり、東辺部が比較的立ち上がるのに対し、他辺では傾斜がある。

**床面** 比較的平坦であるが、石囲炉よりも北側がやや高くなる。床面において、ほぼ中央に石囲炉、四隅に柱穴(P1～P4)、P3とP4の間に小穴(P5)を検出した。他にも、南壁近くでSK080を検出した。SK073底面にあたることから、SI01とは直接関係のないものとして扱ったが、位置的には埋甕が設置される場所に近い。なお、東壁に沿うように、壁際溝を検出した。東辺中央で途切れているが、深さは0.06mである。

**柱穴** 検出した柱穴(P1～P4)は、石囲炉南辺に置かれた炉石の北辺部中央を竪穴建物の中心とした場合の、ほぼ同心円上に配置される。平面形はほぼ円形で、直径0.28m～0.36m、深さ0.16m～0.30mである。遺物は出土しなかった。

**炉** 床面の中央やや北寄りの位置に、4個の川原石を方形に配置した石囲炉を検出した。南側の炉石は扁平な面を上に向け、他の3個の川原石は扁平な面を炉内に向けて設置していた。炉内部には焼土面は確認できなかったが、炉石には被熱による赤色化や割れが認められた。埋土は2層に分層し、2層中に焼土ブロックが少量含まれていた。3層は炉石を据え付けた際の掘方埋土である。炉内には、土器片や割れた炉石が落ち込んでいた。

**竪穴周囲の遺構** 竪穴掘方の周囲に、小土坑を8基検出した。平面形はほぼ円形で、直径0.23m～0.37m、深さ0.07m～0.21mである。SK075とSK076は、南辺のやや膨らみを持つあたりに接して検出した。石囲炉の位置から、このあたりに入口を想定することが可能と考えられる。SK010は西辺の中央部外側に位置する。また、SK014、SK032、SK095、SK096、SK097は、弧状となる北辺から東辺に沿うように検出した。このうちSK095～SK097は重複しており、いずれかの小穴がSI01に関連するのではないかと思

## S11

## 掘方完掘

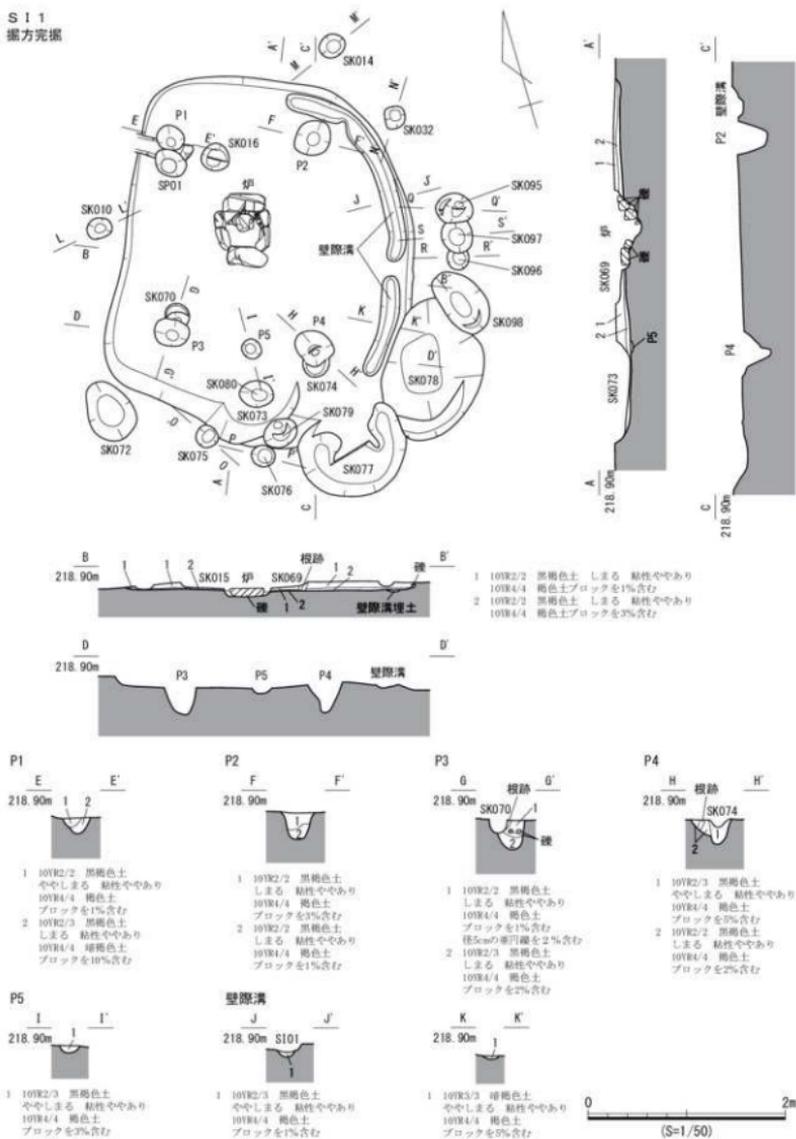


図11 S101遺構図(1)



思われる。

**遺物出土状況** SI01を検出した調査グリッドの包含層掘削や遺構検出作業時から、縄文土器や石器が多く出土している。まとまりを持った出土状況を示すものはなく、散在した状況ではあるが、遺物量は多い。なお、6はSK069出土破片と接合し、2は包含層出土破片と接合した。また、13はSK073出土の48、49と胎土や文様がよく似ており、同一個体の可能性がある。

SI01炉内部からは、3～5の縄文土器や18・20の石鏝が出土した。

**出土遺物** 1～16は中期後葉の土器である。1は地文にR1の燃糸文を施す中富式深鉢で、刺突列を施す。2は咲畑式と思われる深鉢で、外反する口縁部に渦巻文と横線文を施す。渦巻文の下は突起状となり、弧状の文様を施す。横線文の下には、区画状の文様を描き、空間を斜線列で埋める。3～5は炉内から出土した深鉢A類で、口縁部に隆帯と沈線により渦巻区画文を施す。区画内は斜線列で埋める。胴部は無文で、4と5は3の胴部片と思われる。6も深鉢A類であるが、器面が剥落し文様が不明瞭である。胴部は隆帯と沈線により縦位に区画し、区画内に縄文を施す。7と8は深鉢B類の口縁部片で、沈線により区画状の文様を施し、7は区画内に縄文を施す。9は深鉢C類と思われ、袋状の口縁となる。10は深鉢D類の口縁部片と思われ、口縁端部を拡張して面をなす。11は深鉢E類であるが、口径が小さく、口縁端部がやや内湾する。12～14は深鉢F 1類で、区画内に12と13は縄文、14は沈線を施す。12は6の胴部片で、13はSK073出土の48や49、包含層出土の132～135と同一個体である。

#### SI01出土遺物

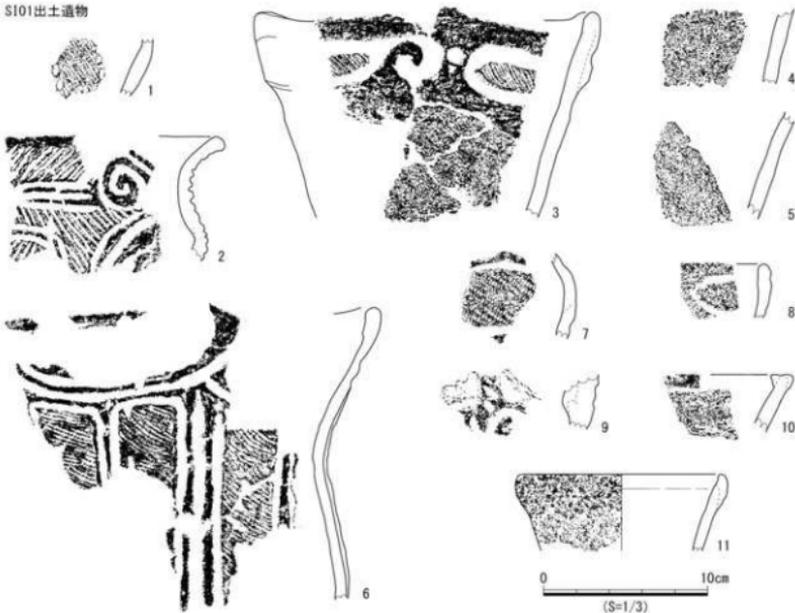


図13 SI01出土遺物 (1)

15は深鉢F2類で、沈線により縦位に区画し、区画内には羽状沈線を施す。16は深鉢の脚台部で、上下2段の円形の透かし孔を開ける。17と18は、基部の挟りが浅い石鏃である。19は基部の挟りがやや深い石鏃で、先端部を欠く。20は基部が平基となる石鏃で、先端部を欠く。21はRFで、側辺の打点部側に剥離調整する。

時期 炉内から出土した土器から、縄文時代中期後葉と思われる。

## 2 単独柱穴

建物跡の柱穴と同様の形状であるが、他に対応する柱穴がないため、建物遺構として確認できなかった柱穴を単独柱穴としたが、1基のみ確認した。

### SP01 (図14)

検出状況 発掘区の北東部において、SI01埋土上面で検出した。SI01埋土と色調や土質が類似しており、平面形は不明瞭であった。また、SI01と重複していたため、底面をとらえることが難しかった。

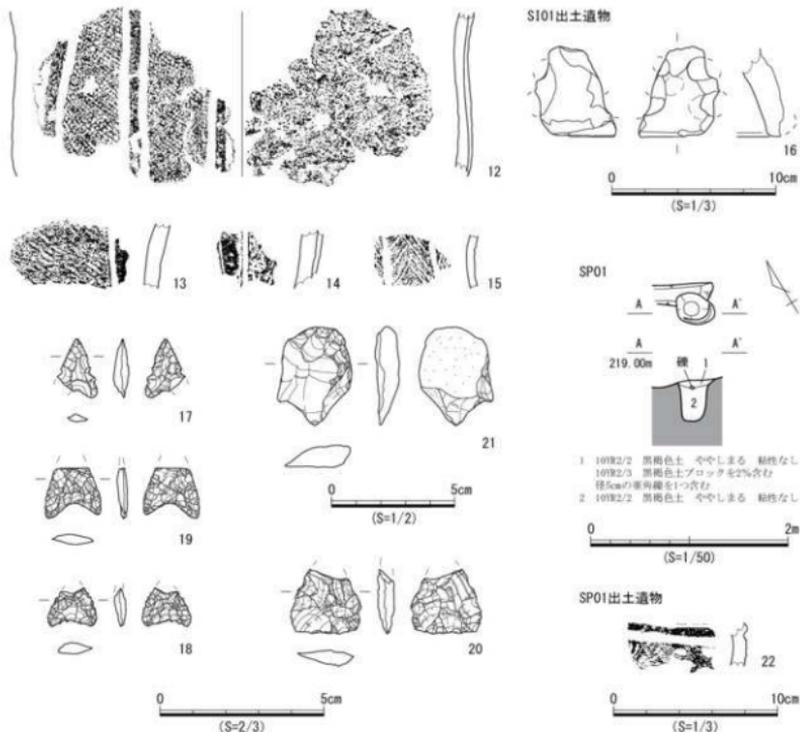


図14 SI01出土遺物 (2)、SP01遺構図・出土遺物

形状は、上端では不定形であるが、底面では円形となる。また、壁面は立ち上がり、底面は比較的平坦である。規則的な配置となる他の穴が確認できなかったため、単独の柱穴とした。

**遺物出土状況** 埋土中から縄文土器片が3点出土した。SI01と重複しているため、SI01からの混入とも考えられる。

**出土遺物** 22は口縁部片で、中期後葉の深鉢B類と思われる。沈線により横位の文様を施し、空間に櫛状工具による弧状の文様や扇形文を施す。

**時期** 重複関係からSI01よりも新しい時期と思われるが、出土した遺物から縄文時代中期後葉と思われる。

### 3 土坑

縄文時代と思われる土坑を130基検出した。このうち、出土した遺物から、早期と思われるものは10基、前期と思われるものは2基、中期と思われるものは40基である。残りの78基については、細別時期不明のものである。

#### SK002 (図15)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は明瞭で、北側の壁はやや直立気味となるが、南側は緩やかな傾斜となる。底面はやや丸みを持つ。

**埋土** 単層であるが、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器3点、石器3点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 23は中期後葉の深鉢E2類の口縁部片で、直線的に開く。24は深鉢F2類で、縦位沈線で区画するが、区画内は無文である。25は基部が欠損した石鏃であるが、やや大型で側辺が比較的直線的である。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK004 (図15)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は明瞭であったが、SK003と北端部が重複し、検出状況からそれよりも古い。壁は傾斜し、底面は平坦である。検出時に、長さ

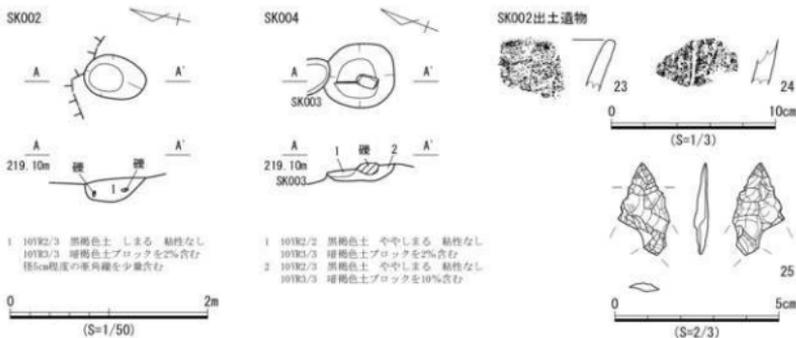


図15 SK002・SK004遺構図、SK002出土遺物

約20cm、幅約12cmの礫を確認した。この礫は、埋土中に浮いた状態で出土しており、意図的に置かれた可能性がある。

**埋土** 2層に分層したが、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器4点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代と思われる。

#### SK010 (図16)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は明瞭でほぼ円形の浅い穴である。壁は緩やかに傾斜し、底面は丸みを持つ。SI01との位置関係から、SI01に付属する可能性があると思われる。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを多く含む。

**遺物出土状況** 埋土中から石器が1点出土した。

**出土遺物** 26は下呂石製の石錐で、縦長の剥片の側面に調整を加えて錐部を作り出している。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代と思われる。

#### SK022 (図16)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、当初は楕円形の穴として認識したが、誤認であり円形の深い穴となった、底面は小さく、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

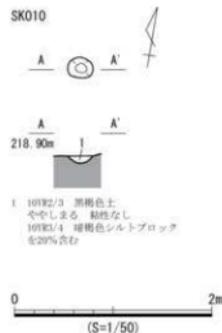
**遺物出土状況** 縄文土器2点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

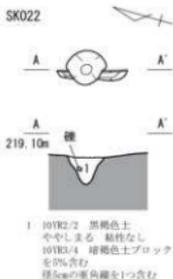
#### SK023 (図17)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭であったが、方形に近い形状で、壁は傾斜して開き、底面は小さい。SK025と重複するが、検出状況からそれよりも新しい。

SK010



SK022



SK010出土遺物

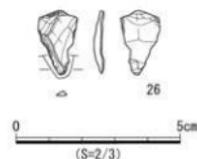


図16 SK010・SK022遺構図、SK010出土遺物

**埋土** 2層に分層したが、埋土中に褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器12点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 27は中期後葉の深鉢F2類で、縦位沈線により区画し、区画内にR1縄文を縦方向に施す。縄文にはS字状の結節がある。28は深鉢F類で、S字状の結節を2つ持つ縄文を縦方向に施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK025 (図17)

**検出状況** 試掘・確認調査で確認していた遺構で、発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。当初は、SK023として認識していたが、精査により別の遺構で、SK023よりも古いと判断した。平面形は不明瞭であったが、楕円形で壁は開き、底面は丸みを持つ。

**埋土** 単層で、暗褐色砂質土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 埋土中から縄文土器が1点出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 重複するSK023よりも古い、出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK027 (図17)

**検出状況** 試掘・確認調査で確認していた遺構で、発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は比較的明瞭で、壁はやや立ち上がる。底面は西側が浅く、東側が深い。

**埋土** 単層で、埋土中に礫を含む。

**遺物出土状況** 埋土中から石器が1点出土した。

**出土遺物** 29は、平坦な面に磨痕が確認できる磨石類である。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代と思われる。

SK029 (図17)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭であったが、楕円形で浅い穴である。壁は大きく開き、底面は丸みを持つ。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器4点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 30は中期後葉の深鉢F2類で、縦位沈線により区画する。区画内は器面が磨滅しており、調整等不明である。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK035 (図17)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭であったが、中央部がやや深くなる穴である。

**埋土** 単層で、黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器4点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK038 (図17)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は比較的明瞭で、壁は開き、底面は丸みを持つ。

**埋土** 単層で褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器9点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

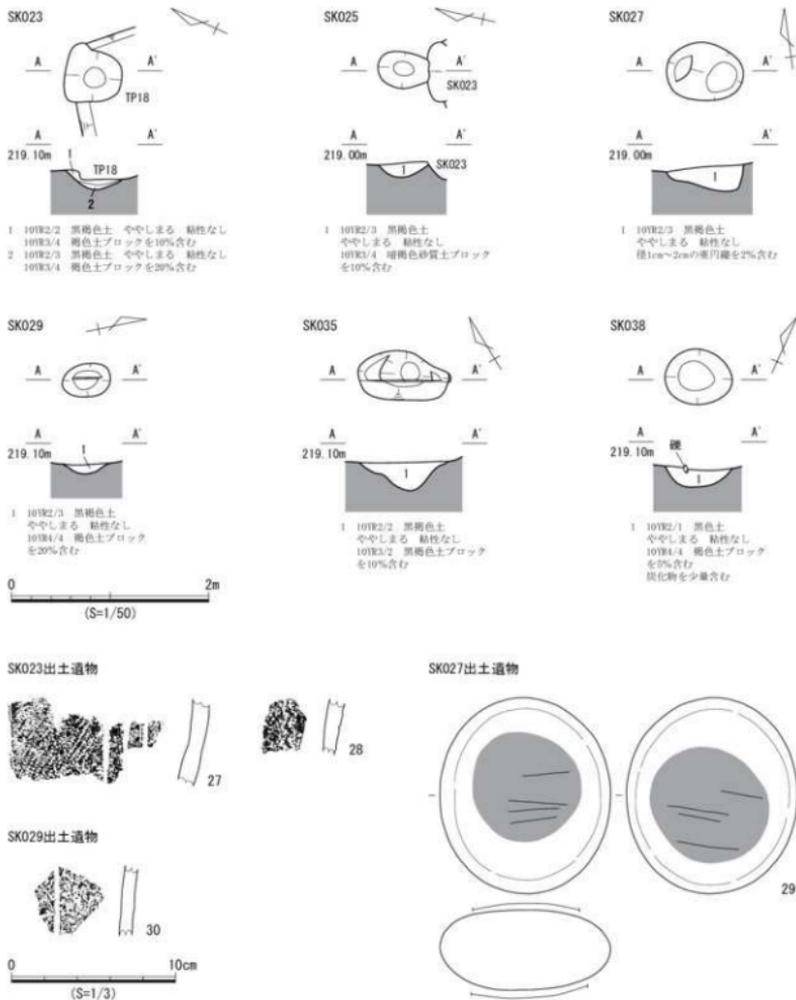


図17 SK023・SK025・SK027・SK029・SK035・SK038遺構図、SK023・SK027・SK029出土遺物

## SK039 (図18)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は比較的明瞭で、底面は丸みを持ち、壁は比較的立ち上がる。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 31は中期後葉の中富式深鉢の胴部片で、地文に燃糸文R1を縦位に施し、半截竹管沈線で連弧文を描く。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK041 (図18)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、当初検出した範囲よりも、掘削した結果は小さくなった。底面は丸みを持ち、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器5点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 32は中期後葉の深鉢脚台部片で、円形の透かし孔がある。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK042 (図18)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭であるが、円形の浅い穴である。底面は丸みを持ち、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器1点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 33は早期の押型文土器深鉢の胴部片で、平行四辺形となる格子目文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代早期と思われる。

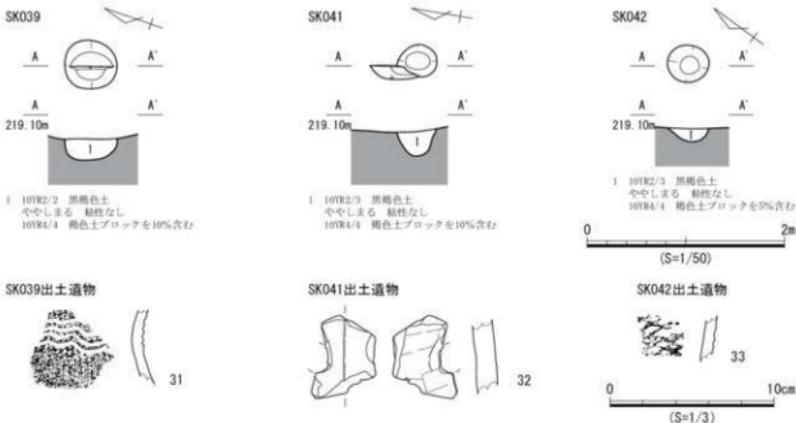


図18 SK039・SK041・SK042遺構図、出土遺物

## SK045 (図19)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、底面は丸みを持ち、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器6点、石器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 34は、中期後葉の深鉢A類と思われる口縁部である。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK052 (図19)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、底面に凹凸があり、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器9点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 35は中期後葉の深鉢F2類で、垂下する沈線で区画し、区画内は斜行する沈線を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK053 (図19)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、底面はテラス上の段を持って一部深くなる。壁はやや開き、底面で長さ約25cmの礫が出土した。

**埋土** 3層に分層したが、2層と3層には褐色土ブロック、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 36は、中期後葉の咲畑式土器で、強く内湾するキャリバー形深鉢の口縁部片である。沈線による曲線的な文様と横線文を施し、空間を竹管状工具による刺突で埋める。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

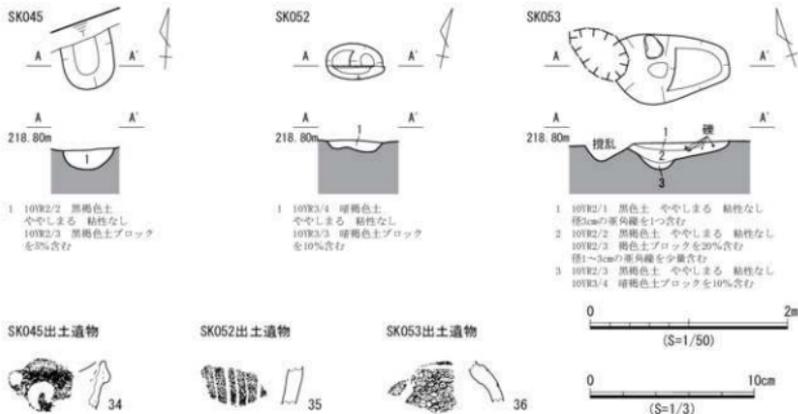


図19 SK045・SK052・SK053遺構図、出土遺物

## SK054 (図20)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で西側の一部を攪乱坑により削平されている。底面は丸みを持ち、壁は開く。

**埋土** 2層に分層した。

**遺物出土状況** 縄文土器9点、石器4点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 37～39は早期の押型文土器深鉢の胴部片である。37と38は格子目文、39は山形文を施す。40は中期中葉の深鉢口縁部片と思われるが、横位の沈線の下に、縦位の沈線列を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期中葉と思われる。

## SK056 (図20)

**検出状況** 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。平面形は比較的明瞭で、底面は丸みを持ち、壁はやや開く。

**埋土** 2層に分層したが、いずれも暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器が1点、埋土中から出土した。

**出土遺物** 41は中期後葉の中富式土器で、地文に燃糸文Lrを施し、沈線による横位の文様を描く。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK062 (図20)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、他の遺構との重複関係もあまり明確ではなかった。やや大型の土坑であるが、底面は凹凸があり、壁は開く。SK063やSK064と重複するが、検出状況からこれらよりも新しい。

**埋土** 2層に分層したが、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器9点、石器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 42は早期の押型文土器の深鉢で、底部に近い胴部片と思われる。43は、基部の挟りがやや深い石鏃で、脚部と先端部を欠く。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代早期と思われる。

## SK069 (図20)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にSI01埋土上面で検出した。平面形は不明瞭で、重複するSI01やSK015と判別が困難であったが、SK015よりも古く、SI01よりも新しいと判断した。底面は平坦で、壁は開く。

**埋土** 単層で黒褐色土ブロックを含む。

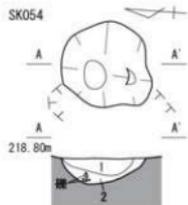
**遺物出土状況** 埋土上面で土器片がまとまって出土した(図20)が、SI01出土土器(6)と接合しており、土坑と考えるよりもSI01埋土の一部である可能性がある。

**出土遺物** 44は中期後葉の深鉢F1類で、隆帯を縦位に施し区画する。区画内にLR縄文を縦方向に施し、隆帯脇を沈線でなぞる。45は中期後葉の深鉢底部片で、脚台部が欠損している。

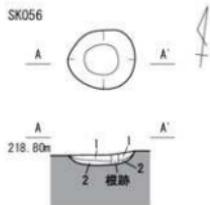
**時期** 出土した遺物やSK015、SI01との重複関係から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK073 (図20)

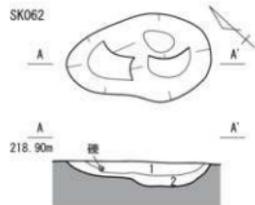
**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面及びSI01上面で検出したが、大半はSI01上面であった。平面形は不明瞭で、重複するSI01やSK074、SK075との判別も困難であったが、いずれの



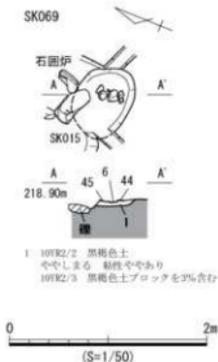
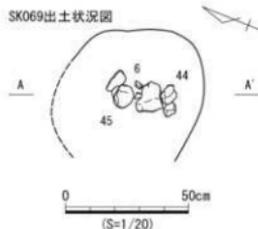
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
2 10YR2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
径5cm~10cmの準円礫を2つ含む



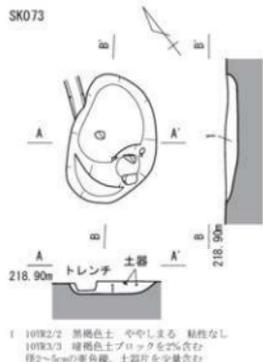
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
10YR3/3 暗褐色土ブロックを10%含む  
2 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
10YR3/4 暗褐色土ブロックを20%含む



- 1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
10YR3/3 暗褐色土ブロックを5%含む  
径5cmの準角礫を1つ含む  
2 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
10YR3/4 暗褐色土ブロックを20%含む

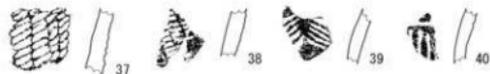


- 1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり  
10YR2/3 黒褐色土ブロックを3%含む



- 1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
10YR3/3 暗褐色土ブロックを2%含む  
径2~3cmの準角礫、土器片を少量含む

## SK054出土遺物



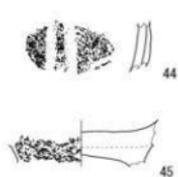
## SK056出土遺物



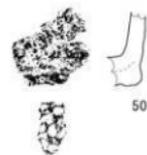
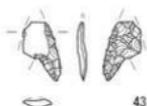
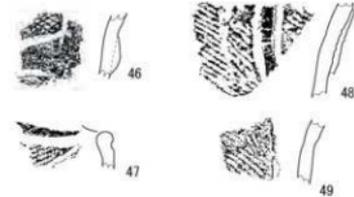
## SK062出土遺物



## SK069出土遺物



## SK073出土遺物



0 10cm  
(土器: S=1/3)

0 5cm  
(石器: S=2/3)

図20 SK054・SK056・SK062・SK069・SK073遺構図、出土遺物

遺構よりも新しいと判断した。このため、SI01完掘後に検出したSK079やSK080も、SK073より古いと判断した。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器74点、石器4点が、埋土中から散在した状態で出土した

**出土遺物** 46は中期後葉の深鉢A類の口縁部片と思われる。隆帯による区画内に、LR縄文を施した後、隆帯脇を沈線でなぞる。47は深鉢B類の口縁部片で、沈線による文様を施し、空間をLR縄文で埋める。48と49は深鉢F1類で、隆帯を縦位に施して区画し、区画内を無節縄文Lrで埋めた後、隆帯脇を沈線でなぞる。SI01出土土器の13と胎土や文様が非常に似ており、同一個体の可能性が高い。50は深鉢底部片で、底部外面に網代痕が残る。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK76 (図11・12・21)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面及びSI01上面で検出したが、大半はIII層上面であった。III層上面での平面形は明瞭で、重複範囲が僅かなSI01との判別は困難であったが、現地調査時にはSI01よりも新しいと判断した。しかし、SI01との位置関係から、SI01と関連性のある穴の可能性も考えられる。

**埋土** 2層に分層したが、いずれにもぶい黄褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器が1点出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

SK077 (図21)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面及びSI01上面で検出したが、大半はIII層上面であった。平面形は不明瞭で、SI01やSK078との重複関係も判別は困難であったが、これらよりも新しいと判断した。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 3層に分層したが、いずれにも黒褐色土若しくは暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器7点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 51は中期後葉の深鉢A類の口縁部片で、隆帯を胴部との境に横位に貼り付け、その下側に

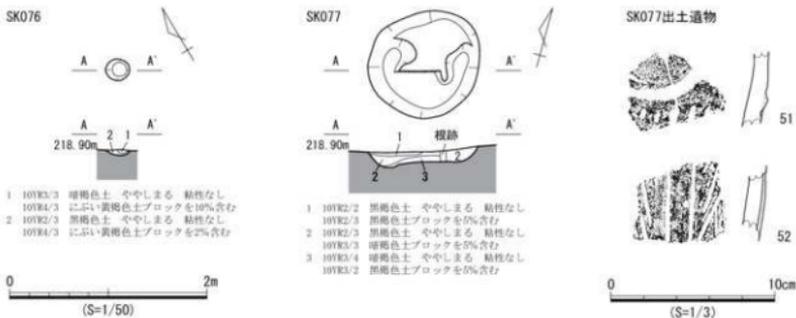


図21 SK076・SK077遺構図、SK077出土遺物

刺突列を施す。陸帯の上側は沈線によりなぞる。52は深鉢F1類で、陸帯の両脇を沈線でなぞり、区画内は羽状沈線を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK078 (図22)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面及びSI01埋土上面で検出したが、平面形は不明瞭であった。重複するSI01やSK077、SK098との判別は困難であったが、SK077より古く、SI01やSK098より新しいと判断した。底面は平坦で、壁は南東側にテラス状の段を持って開く。土器の出土状況や埋土から土坑墓の可能性が考えられる。

**埋土** 3層に分層したが、土器が出土した1層、テラス状の段にかけて堆積する2層があり、これらが3層を掘りこむようにも観察できることから、別の土坑が存在した可能性も考えられるが、平面での検出状況では、一つの土坑と判断した。

**遺物出土状況** 埋土1層から、胴部下半から底部にかけて残存する縄文土器(54)が横に寝た状態で出土した。他に埋土1層及び2層から、縄文土器21点、石器3点が埋土中に散在した状態で出土した。埋土3層からは遺物は出土しなかった。

**出土遺物** 53は早期の押型土器の深鉢胴部片で、格子目文を施す。54は中期後葉の深鉢E1類で、胴部のほぼ全面にLR縄文を縦方向に施す。口縁部を欠くため、無文のE1類とした。55は中期後葉の浅鉢と思われる口縁部片である。口縁端部は面取りして平坦に仕上げ、外面にはRL縄文を施す。内面は丁寧に磨き調整される。56は微細な剥離痕を有する剥片で、末端辺の両側にまばらに剥離痕が認められる。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK080 (図22)

**検出状況** 発掘区北東部のSK073底面(SI01床面)で検出した。平面形は明瞭で、底面は丸みがあり、壁は開く。SI01と関係する遺構であれば、位置的に埋甕が設置されていた穴の可能性が考えられるが浅い。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器が1点埋土中から出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK098 (図22)

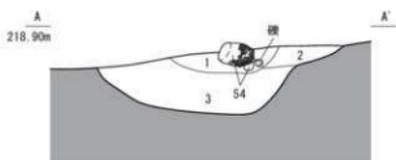
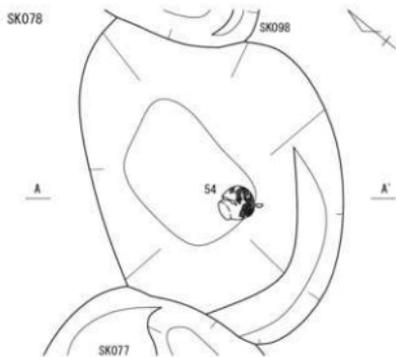
**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、重複するSK078との判別は困難であった。現地調査では、SK078が古いと判断し、調査を行ったが、出土した遺物の検討から、SK098が古いと考えられる。検出時に長さ0.16mほどの礫が確認できたが、埋土1層に含まれる。

**埋土** 3層に分層したが、埋土1層及び3層は黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 1層及び3層から縄文土器が3点出土した。

**出土遺物** 57は早期の押型土器の深鉢胴部片で、大ぶりの山形文と市松文を施す。58と59も早期の押型土器の深鉢胴部片で、大ぶりの山形文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代早期と思われる。

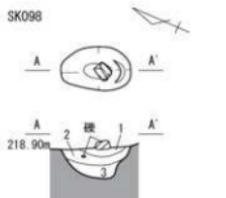
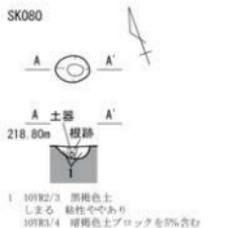
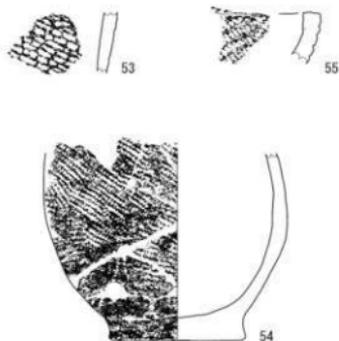


- 1 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
径3cmの準角礫を1つ含む 土器を含む
- 2 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 3 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R3/3 暗褐色土ブロックを5%含む

土器内  
101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし

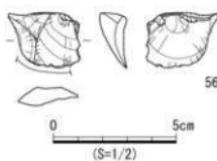
0 50cm  
(S=1/20)

SK078出土遺物



- 1 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R2/2 黒褐色土ブロックを2%含む  
径5cmの準角礫を1つ含む
- 2 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
径5cmの準角礫を1つ含む
- 3 101R2/1 黒色土 ややしまる 粘性なし  
101R2/2 黒褐色土ブロックを5%含む

0 2m  
(S=1/50)



SK098出土遺物

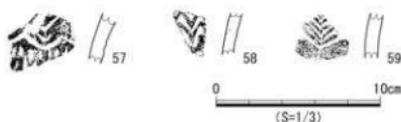


図22 SK078・SK080・SK098遺構図、SK078・SK098出土遺物

## SK100 (図23)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、重複するSK102やSK103、SK104の存在は、SK100完掘後に壁面で確認したことからSK100を最も新しいと判断した。底面は平坦で、壁はやや開く。

**埋土** 2層に分層したが、埋土1層には黒褐色土ブロックを、埋土2層には暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器1点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 60は早期の押型文土器の深鉢胴部片で、市松文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代早期と思われる。

## SK101 (図23)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。平面形は不明瞭で、当初の範囲は誤りであったため、掘り過ぎとなった。また、重複するSK109は、当初認識できなかったが、SK101完掘後に壁面で掘り込みがあることを確認したため、SK109よりも新しいと判断した。浅い皿状の穴である。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 61は中期後葉の深鉢F2類で、縦位に沈線を施して区画し、区画内は羽状沈線を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK102 (図23)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。SK100掘削によりその壁面で掘り込みが見られたことから、再度精査して平面形を確認したものであり、平面形は不明瞭であった。底面は平坦で、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 検出状況から、重複するSK100よりも古いと思われることから、縄文時代早期と思われる。

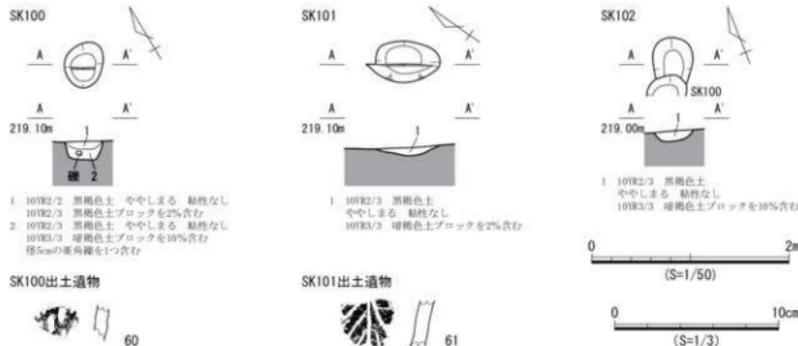


図23 SK100・SK101・SK102遺構図、SK100・SK101出土遺物

## SK103 (図24)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。SK100掘削によりその壁面で掘り込みが見られたことから、再度精査して平面形を確認したものであり、平面形は不明瞭であった。底面は平坦で、壁は立ち上がる。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 検出状況から、重複するSK100よりも古いと思われることから、縄文時代早期と思われる。

## SK104 (図24)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。SK100掘削によりその壁面で掘り込みが見られたことから、再度精査して平面形を確認したものであり、平面形は不明瞭であった。底面は平坦で、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 検出状況から、重複するSK100よりも古いと思われることから、縄文時代早期と思われる。

## SK108 (図24)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。SK107掘削によりその壁面で掘り込みが見られたことから、再度精査して平面形を確認したものであり、平面形は不明瞭であった。このため、SK106やSK107よりも古いと判断した。底面は丸みがあり、壁はやや開く。

**埋土** 2層に分層したが、埋土1層には黒褐色土ブロックを、埋土2層には暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器3点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 62は前期後葉の深鉢胴部片で、半截竹管による弧状の沈線文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代前期後葉と思われる。

## SK110 (図24)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。平面形は不明瞭で、一部攪乱坑による削平を受ける。底面は小さく、壁は開く。

**埋土** 単層で、黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器22点、石器1点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 63は前期後葉の深鉢胴部片で、突帯を細長い眼鏡状に施す。64は中期後葉の中富式の深鉢胴部片で、縵糸文Lを施す。65は中期後葉の深鉢F2類で、縦位に2条の沈線を施して区画し、区画内に2つの結節を持つ縄文を縦方向に施す。66は深鉢F2類で、2条単位の沈線を縦位に施して区画する。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK116 (図24)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出したが、平面形は不明瞭であった。底面は平坦で、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器6点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 67は口縁端部に欠く口縁部片で、強く内湾するキャリパー形の深鉢である。波頂部に渦巻文を配置し、左右に弧状線を展開し、空間に竹管状工具による刺突文を埋めており、いわゆる咲畑式と思われる。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK120 (図24)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。SK119と重複するが、発掘区北壁において、SK119が新しいことを確認した。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 2層に分層したが、黒褐色土ブロック、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器4点が埋土1層から、散在した状態で出土した。

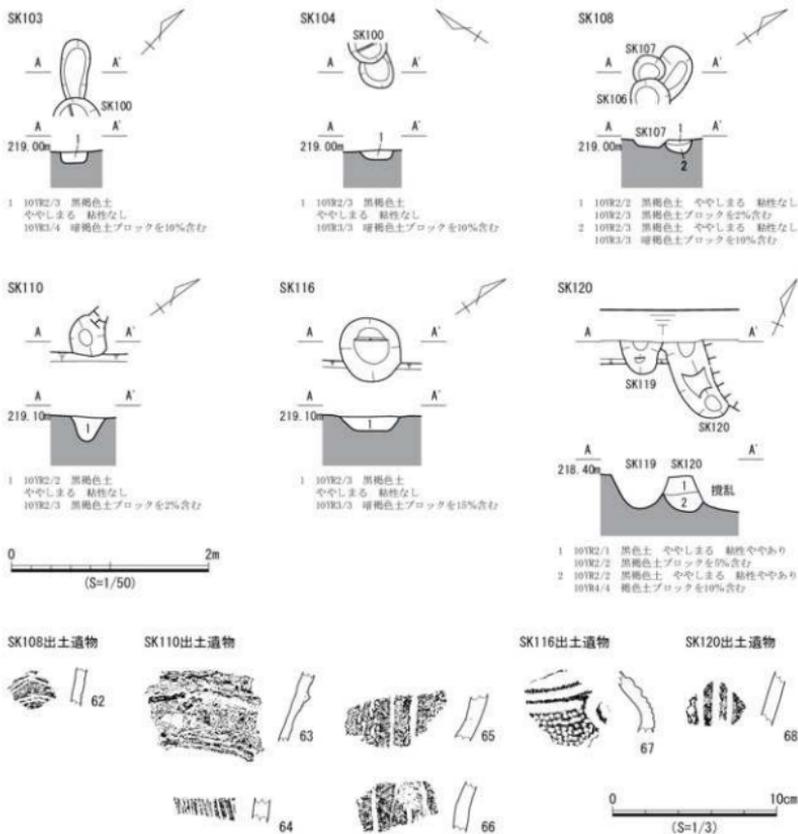


図24 SK103・SK104・SK108・SK110・SK116・SK120遺構図、SK108・SK110・SK116・SK120出土遺物

**出土遺物** 68は中期後葉の深鉢F2類で、縦位の沈線及び刺突列を施す。

**時期** 出土遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK149 (図25)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。重複するSK150とSK151とは判別は困難であったが、SK150が新しく、SK151が古いと判断した。底面は2段となり、壁は開く。

**埋土** 3層に分層したが、いずれにも暗褐色土ブロック若しくは褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複するSK150から縄文土器が出土しており、それよりも古い本遺構も縄文時代と思われる。

#### SK159 (図25)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。重複するSK160は、検出状況からSK159よりも古いと判断した。底面は狭く、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器が1点出土した。

**出土遺物** 69は前期後葉の深鉢口縁部片で、外面にLR縄文を施した後、突帯を貼り付け、その上にC字状の押しきを施す。また、口縁端部にも同様の押しきを施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代前期後葉と思われる。

#### SK165 (図25)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。SK167と重複し、検出状況からそれよりも新しいと判断した。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 2層に分層したが、いずれにも褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器が1点出土した。

**出土遺物** 70は早期の押型文土器の深鉢胴部片で、市松文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代早期と思われる。

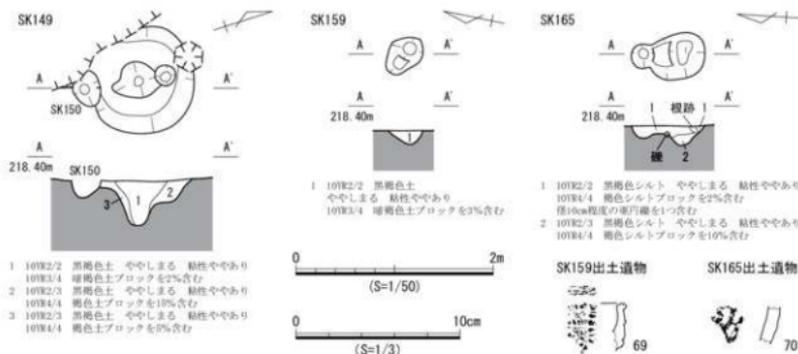


図25 SK149・SK159・SK165遺構図、SK159・SK165出土遺物

## SK167 (図26)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。SK165と重複し、検出状況からそれよりも古いと判断した。底面は丸みがあり、壁は開く。

**埋土** 単層で暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複するSK165よりも古いことから、縄文時代早期と思われる。

## SK184 (図26)

**検出状況** 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は不明瞭であった。SK185との重複関係も不明瞭であったが、検出状況からSK184が新しいと判断した。底面は丸みがあり、壁は開く。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 埋土中から石器が1点出土した。

**出土遺物** 71は微細な剥離痕を有する剥片で、左辺の背面側にまばらに剥離痕が認められる。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代と思われる。

## SK284 (図26)

**検出状況** 発掘区中央部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 2層に分層したが、埋土2層には黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器4点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 72は中期後葉の深鉢E類の口縁部片で、結節を持つLR縄文を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

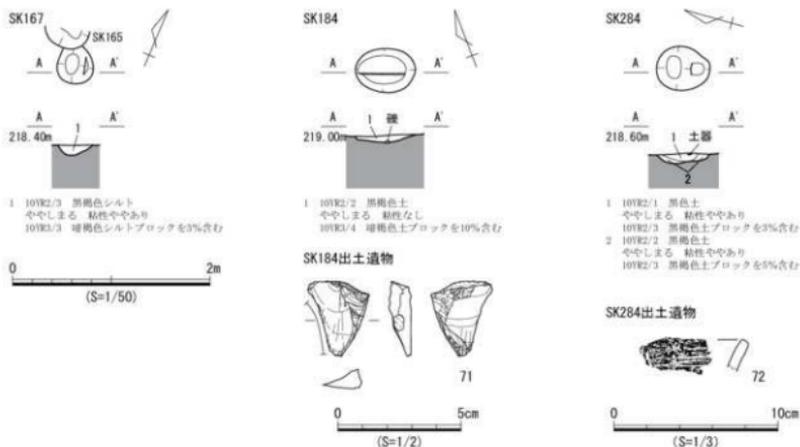


図26 SK167・SK184・SK284遺構図、SK184・SK284出土遺物

## SK290 (図27)

**検出状況** 発掘区中央部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は凹凸があり、壁は開く。SK289と重複するが、検出状況からそれよりも古い。

**埋土** 単層で、黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 73は前期後葉の深鉢胴部片で、突帯を横位に貼り付け、その上に逆C字状の押しきを施す。74は中期後葉の深鉢F2類で、垂下沈線を施す。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

## SK299 (図27)

**検出状況** 発掘区中央部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は凹凸があり、壁は開く。

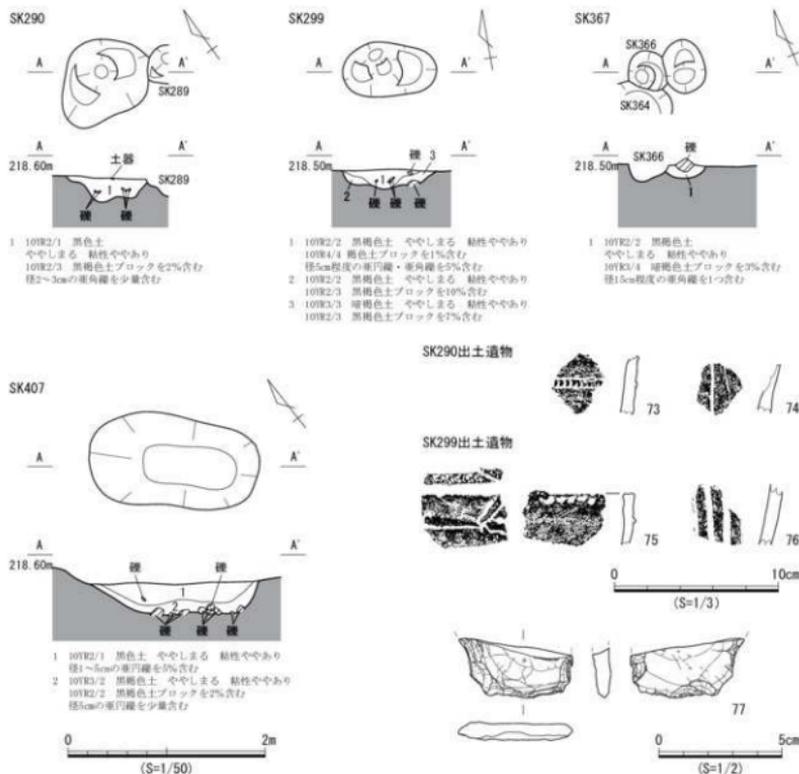


図27 SK290・SK299・SK367・SK407遺構図、SK290・SK299出土遺物

**埋土** 3層に分層したが、埋土1層には褐色土ブロック、埋土2層と3層には黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器3点、石器1点が、埋土1層中から散在した状態で出土した。

**出土遺物** 75は前期後葉の深鉢口縁部片で、口縁端部にLR縄文を施す。口縁部外面には横位に突帯を貼り付け、要所に口縁端部から横位の突帯にかけて斜めに突帯を貼り付ける。この斜位の突帯上には、縄文を施す。76は中期後葉の深鉢F2類で、垂下する沈線を施す。77は調整剥離を施す剥片であるが、1/2以上を欠損していると思われる。末端辺に粗い両面調整が施される。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

#### SK367 (図27)

**検出状況** 発掘区中央部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。SK366やSK368、SK369との重複関係は判別が困難であったが、検出状況からSK366よりも古く、SK368やSK369よりも新しいと判断した。底面は凹凸があり、壁はやや開く。検出時に長さ0.2mほどの礫が認められたが、埋土上部に浮いた状態であった。

**埋土** 単層で、暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複する遺構の時期から、縄文時代と思われる。

#### SK407 (図27)

**検出状況** 発掘区南部において、I層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は礫が露出するが比較的平坦で、壁は開く。

**埋土** 2層に分層したが、埋土2層に黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 埋土中から石器が1点出土したが、剥片であり図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、縄文時代と思われる。

## 4 包含層等出土遺物

包含層(II層)及び表土(I a層)や整地層(I b層)からも、遺構と同様に縄文時代早期、前期、中期の土器と石器が出土した。

### (1) 早期の土器

早期の土器は、すべて押型文土器である。出土点数は少ないが、その多くは発掘区の北東部から出土した。78~80は市松文、81は格子目文である。

### (2) 前期の土器

前期の土器は、すべて後葉のものである。出土点数は少ないが、発掘区の中央部で出土点数が多く、南部と北東部からも出土した。しかし、中央部から南部では、前期の遺構を確認していない。82と83は突帯により文様を施す深鉢の口縁部片である。82は、口縁端部を拡張して両端に刻みを施し、口縁端部には波状に突帯を貼り付ける。83は口縁部外面にLR縄文を施した後、横位の突帯を3条貼り付ける。口縁端部にも波状の突帯を貼り付ける。84と85は同一個体と思われる深鉢の口縁部片と胴部片である。外面にLR縄文とRL縄文で羽状縄文を施す。86は横位の突帯を貼り付け、突帯上にC字状押しきを施す。深鉢の口縁部片と思われるが、下面2/3程度が平滑な面を残し、透かし状の孔が空いていたか、

把手状のものである可能性も考えられる。87は胴部が屈曲し、屈曲部に刻みを施す鉢若しくは深鉢である。88は口縁部が強く内湾する器形の深鉢で、刻みを持つ低い突帯で文様を施す。89は低い突帯を横位に貼り付け、細い沈線を羽状に施す深鉢と思われる。90と91は、口縁部から底部にかけて強い屈曲部や突出部を持つ乳浅鉢の胴部片と思われる。90には部分的に赤彩が残る。

### (3) 中期の土器

中期の土器は、前葉から中葉のものを少量含むが、大半が後葉のものである。SI01を検出した調査グリッドを中心に発掘区北東部に集中して出土している。92は中期前葉と思われる浅鉢で、口縁部内面を肥厚させ、C字状爪形文を施す。93と94は中期中葉と思われる深鉢である。95～98は、いわゆる咲畑式土器に類するもので、口縁部が強く内湾する深鉢である。99～107は、隆帯と沈線による文様を施す中期後葉の深鉢A類である。107は隆帯を格子目状に貼り付ける。108～119は中期後葉の深鉢B類で、口縁部に沈線による文様を施す。108と109は同一個体と思われ、口縁部に楕円形と眼鏡状の区画文を配置し、胴部との境に刺突を施す隆帯を巡らせる。110～115は、沈線で渦巻状や区画状の文様を描き、区画内に縄文を施す。縄文の撚りは、112のみR縄文で、他はLR縄文である。116は渦巻区画文を展開すると思われ、区画内には条線を施す。117と118は同一個体で、口縁部がやや外反し、方形の区画内は斜線列で埋める。119は沈線により区画文等を施す。120は中期後葉の深鉢C類で、口縁部に隆帯を立体的に貼り付け、隆帯上に沈線列を施す。121と122は中期後葉の深鉢D類で、121は口縁端部を肥厚させる。122は上胴部片であるが、口縁部との境に刺突を持つ隆帯を巡らせ、そこに刺突を施す把手を貼り付ける。123～127は中期後葉の深鉢E類で、127は条線を施し、口縁端部に浅い刻みを施す。128～137は中期後葉の深鉢F1類で、区画内に縄文(128～135)や条線(136)を施すもの、無文(137)

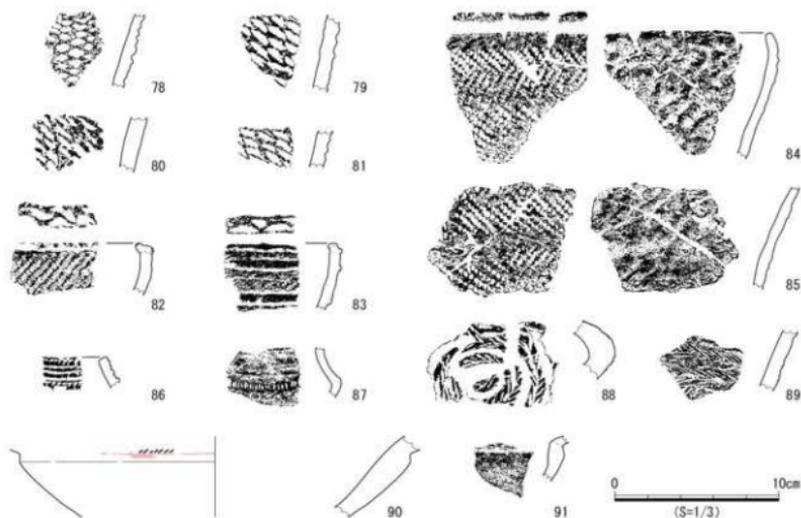


図28 包含層等出土縄文土器(1)

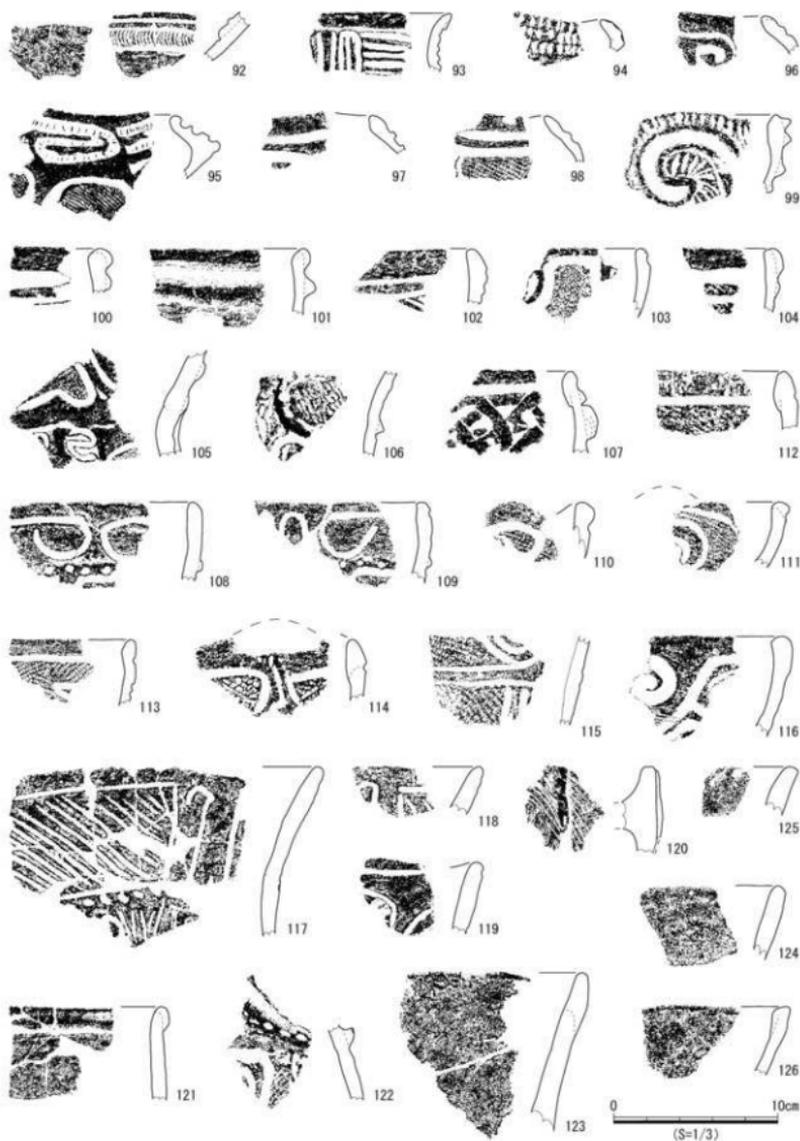


図29 包含層等出土縄文土器(2)

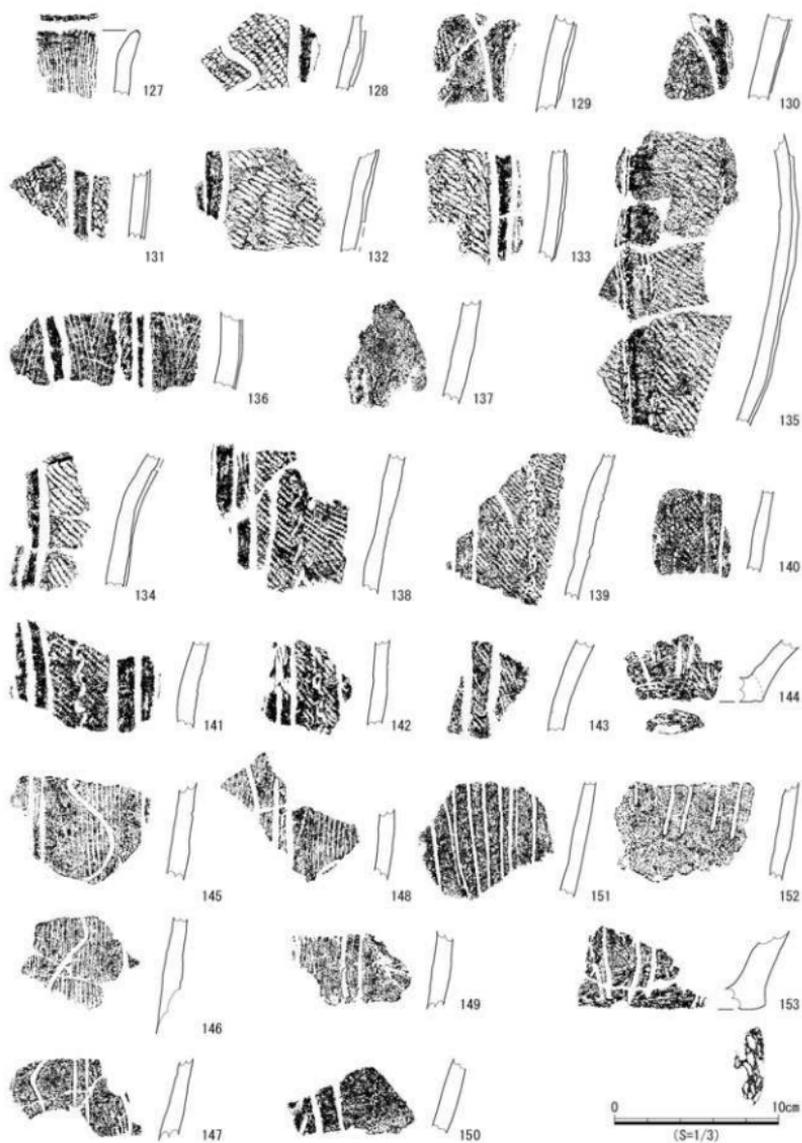


図30 包含層等出土縄文土器（3）

のものがある。また、結節縄文となるものが多く、縄文の撓りもLR縄文の他反撓りのLL縄文が少量ある。138～153は中期後葉の深鉢F2類で、区画内が縄文（138～144）や条線（145～149）、沈線列（150・151）、無文（152・153）のものがある。縄文の撓りはLR縄文で、結節縄文となるものが多い。153の底部外面には、網代痕が残る。154～157は中期後葉の深鉢F類で、隆帯による区画や胴部の区画の有無

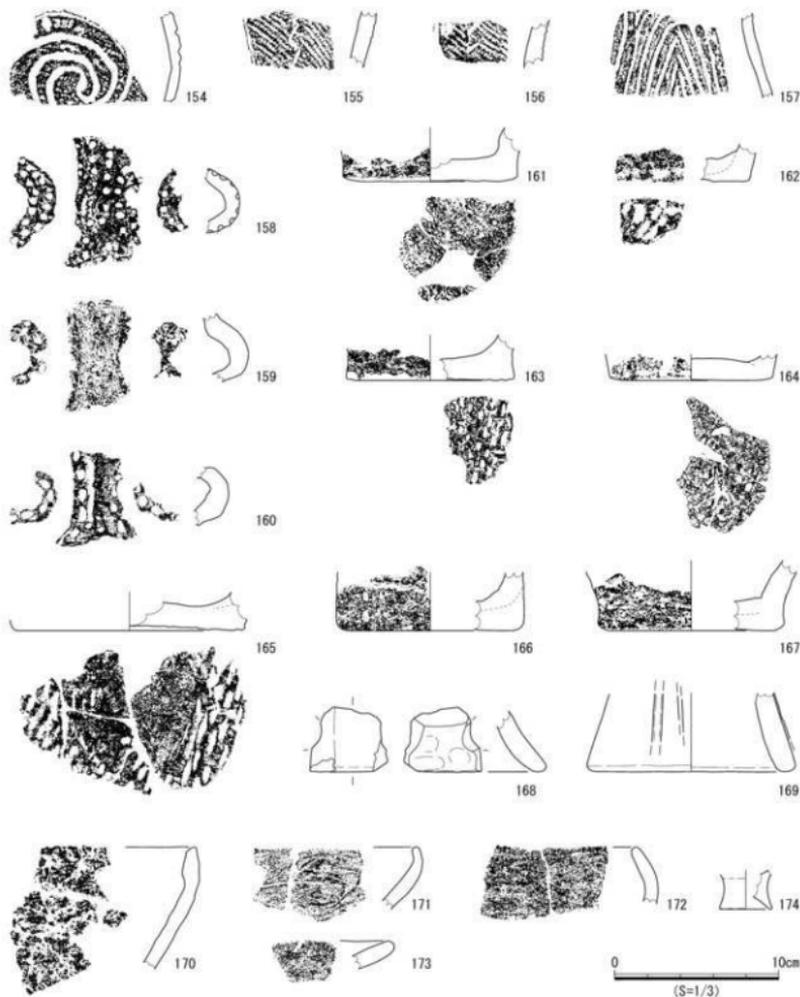


図31 包含層等出土縄文土器（4）

が不明なものである。154は胴部にLR縄文を施し、その上から大柄の渦巻文を描く。155と156は、結節を持つLR縄文を区画内に施す。157は羽状沈線を施す。158～160は中期後葉の深鉢の把手で、側面や表面に刺突を施す。161～167は中期後葉の深鉢の底部片で、161～165の底部外面には網代痕が残る。168と169は中期後葉の深鉢の脚台部片で、168には円形の透かし孔をあげ、169には縦位の隆帯を施す。170～173は中期後葉の浅鉢で、170～172は口縁部がやや内湾する。174はミニチュア土器で、中期後葉のものと思われる。

#### (4) 石器

##### 石鏃

175と176は基部が1 a類で、長さとの差が小さい。また、素材の剥離面が表裏面に残る小型の石鏃である。177と178は基部が1 b類で、長さとの差が小さい。177の側辺は直線的で、178はやや湾曲する。179は基部が1 b類で、側辺は直線的である。180は基部が1 c類で、長さとの差が大きい。181も基部が1 c類であるが、長さとの差が小さい。182は基部が1 d類で、長さとの差が大きい。183と184は基部が2類で、長さとの差が小さく、側辺はやや湾曲する。185も基部が2類であるが、長さとの差が大きく、側辺はやや湾曲する。

##### 石鏃

186と187は、剥片の両側辺の一端に簡単な調整を加えて、鏃部を作り出している。鏃部の断面形は、186が六角形、187が三角形に近い形状である。188は小型で、側辺の両面に調整を加えて鏃部を作り出す。

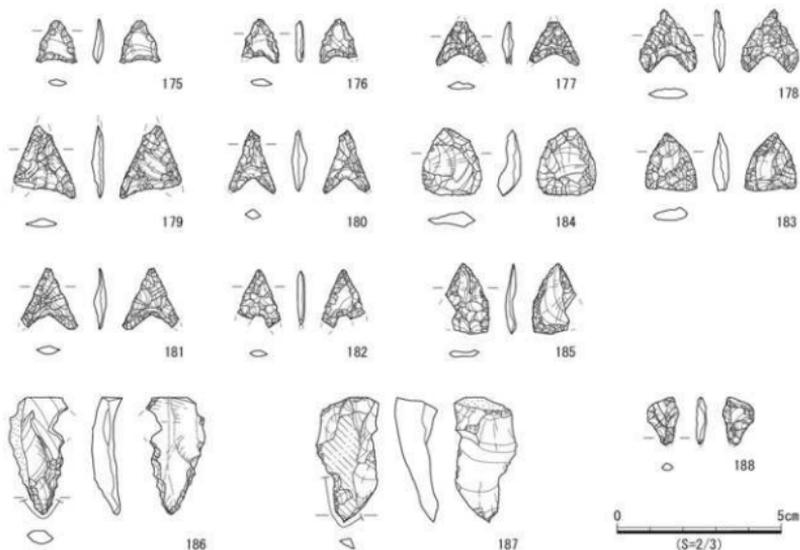


図32 包含層等出土石器(1)

## スクレイパー

189は、縦長の剥片の基辺から左辺に刃部を作り出す。基辺は腹面側に、左辺は背面側に調整剥離を施す。190は、縦長の剥片の基辺から右辺にかけて、両面に調整剥離を施し、刃部を作り出す。191は、横長の剥片の末端辺の両面に剥離調整を施し、刃部を作り出す。

## 楔形石器

192は、上辺に階段状の剥離が認められるが、下辺では明瞭でない。

## 打製石斧

193と194は、幅が狭い短冊形で、刃部は偏刃となり、先端部は少し摩耗している。195～199は短冊形で、195は刃部が尖り、196は刃部が円く、先端部は少し摩耗している。197も刃部が円いが、全

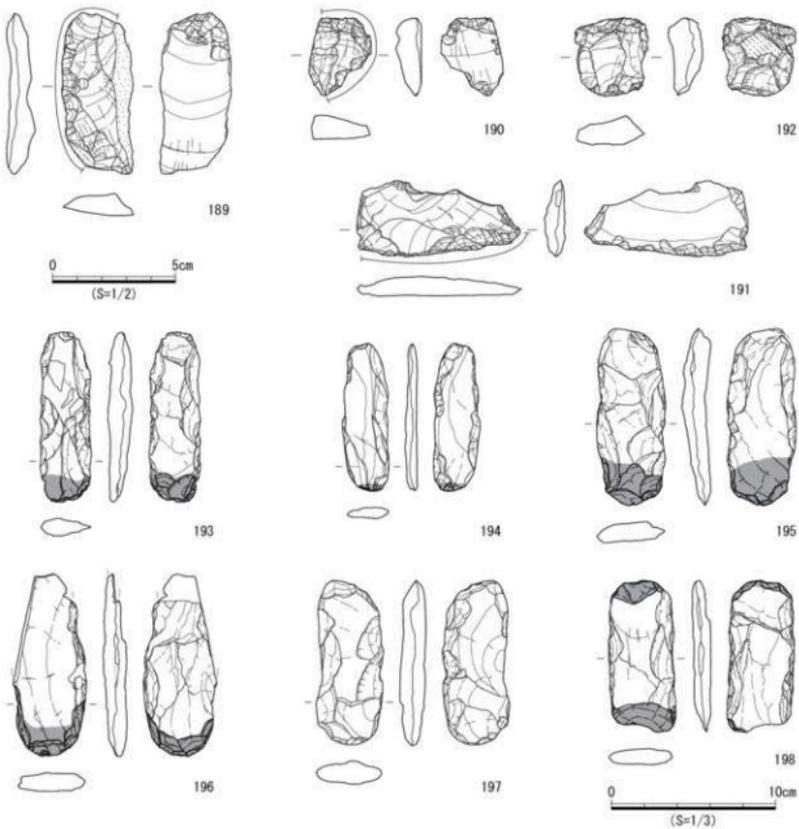


図33 包含層等出土石器(2)

体的に摩耗しており、使用痕は不明である。198は両端に刃部を持ち、199は刃部を欠損する。200は小型の擡型で、刃部は尖刃となり、先端部は少し摩耗している。201は先端部だけの破片で形態は不明であるが、刃部は偏刃となり、先端部は少し摩耗し、線状痕が僅かに確認できる。

### 石核

202は、剥離面を打面とし、作業面を2面持つ。

### 調整剥離を施す剥片 (RF)

203はスクレイパーの一部の可能性があるが、大半を欠損しているためRFとした。側辺から末端辺にかけて調整剥離を施す。

### 微細な剥離痕を有する剥片 (MF)

204は、縦長の剥片の両側辺から末端にかけて、微細な剥離痕が確認できる。剥離痕は、左辺が背面側に連続して、右辺が両面にまばらである。205は縦長の剥片右側辺の両面に、微細な剥離痕が確認できる。206は縦長の剥片の左側辺下部の両面に、微細な剥離痕が確認できる。207は、横長の剥片の両側辺に微細な剥離痕が確認できる。左側辺は両面に大小の剥離痕が混在し、右辺は剥離痕がまばらである。208は、自然面が残る横長の剥片の末端辺に微細な剥離痕が確認できる。剥離痕は、両面に連続している。

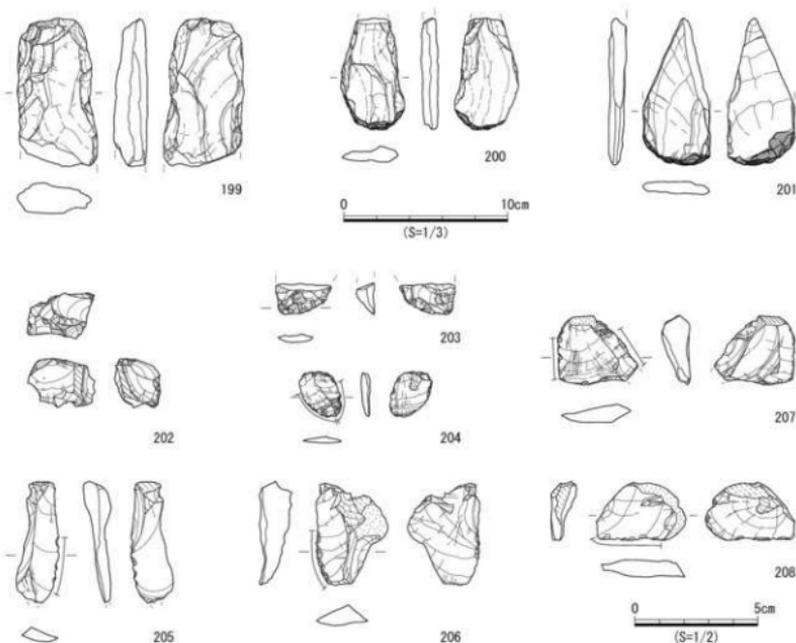


図34 包含層等出土石器(3)

## 磨石類

209は扁平な楕円礫で、両面に磨痕や細長い線状や粗い敲打痕が確認できる。また、側面には平坦な面が形成されている。210は扁平な円礫で、片面に磨痕や粗い敲打痕が確認できる。粗い敲打痕は側面にも及ぶ。211は、小型の扁平な楕円礫で、長軸の一端に敲打痕が確認できる。212はやや細長い棒状の礫で、粗い敲打による凹みが両面に確認できる。

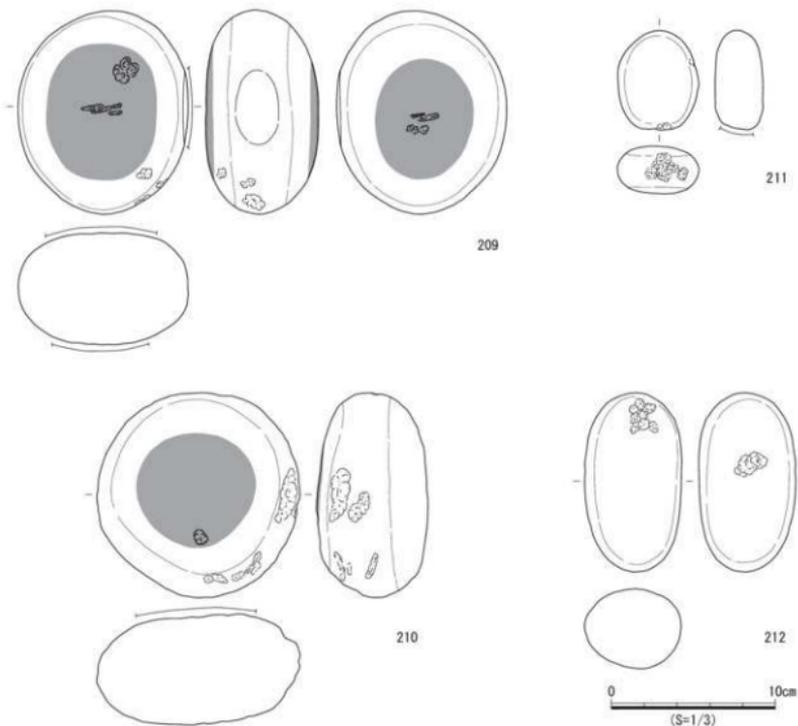


図35 包含層等出土石器(4)

## 第5節 その他の時代の遺構と遺物

時期不明の遺構を含め、縄文時代以外の遺構として掘立柱建物や柵、土坑を検出した。遺物は、古墳時代から近世に及ぶが、その数量は縄文時代のものに比較して少ない。

### 1 掘立柱建物

遺物を伴わないため時期不明であるが、掘立柱建物を2棟検出した。掘立柱建物を検出した調査グリッドからは、縄文土器や石器の出土点数が多く、中世から近世の遺物が出土していない。

#### SB01 (図36)

**検出状況** 発掘区南部において、II層除去後のIII層上面で検出した。なお、SB01の東半部は部分的にII層が残存しないため、I層除去後のIII層上面で検出した。調査時には十分な検討ができなかったが、平面図上で6基の柱穴が、1間×2間の長方形に配置された状態であることから、掘立柱建物と考えた。長軸方向はN50°Eとなり、桁行3.30m(1.65m-1.65m)、梁行2.30mである。

**柱穴** 6基の柱穴を検出したが、長軸長0.24m～0.61mとばらつきがあり、深さも0.05m～0.19mと浅い柱穴が多い。

**遺物出土状況** いずれの柱穴からも遺物は出土しなかった。

**時期** 出土した遺物がなく、他の遺構との重複関係もないことから、時期不明である。

#### SB02 (図37)

**検出状況** 発掘区南部において、II層除去後のIII層上面で検出した。SB01西側に位置し、一部重複する。調査時には十分な検討ができなかったが、平面図上で6基の柱穴が、1間×2間の長方形に配置された状態であることから、掘立柱建物と考えた。長軸方向はN60°Eとなり、桁行3.10m(1.70m-1.40m)、梁行2.30mである。

**柱穴** 6基の柱穴を検出したが、長軸長0.30m～0.45mとややばらつきがあり、深さも0.07m～0.17mと浅い柱穴が多い。

**遺物出土状況** いずれの柱穴からも遺物は出土しなかった。

**時期** 出土した遺物がなく、重複するSK360とSK361も時期不明の遺構であるため、時期不明である。

### 2 柵

遺物を伴わないため、時期不明であるが、柵を1列検出した。2棟の掘立柱建物の西側に位置するが、長軸方位は異なることから、関係性は不明である。

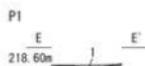
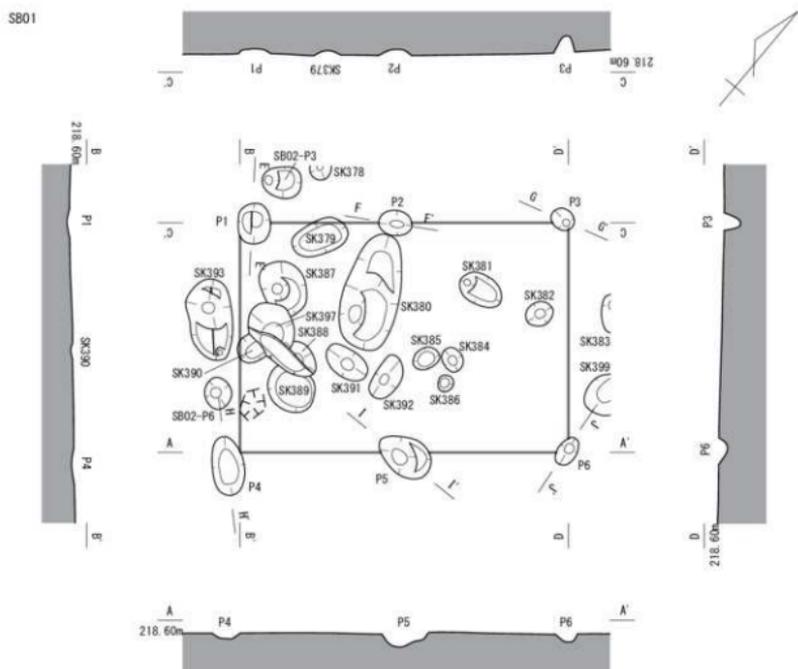
#### SA01 (図38)

**検出状況** 発掘区南部のSB02西側において、II層除去後のIII層上面で検出した。調査時には十分な検討ができなかったが、平面図上で4基の柱穴が、ほぼ等間隔で直線上に配置された状態であることから、柵と考えた。長軸方向はN73°Eとなる。

**柱穴** 4基の柱穴を検出したが、長軸長0.37m～0.59mとややばらつきがあり、深さも0.07m～0.19mと浅い柱穴が多い。

**遺物出土状況** いずれの柱穴からも遺物は出土しなかった。

SB01



1 10YR2/3 黒褐色土  
ややしめる 粘性あり  
10YR4/4 褐色砂質土  
ブロックを10%含む



1 10YR2/3 黒褐色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR3/3 暗褐色土  
ブロックを20%含む



1 10YR2/3 黒褐色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR4/4 褐色土ブロック  
を5%含む



1 10YR2/2 黒褐色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR3/4 暗褐色土  
ブロックを5%含む  
10YR4/3 にぶい黄褐色土  
ブロックを2%含む



1 10YR2/2 黒褐色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR2/3 黒褐色土  
ブロックを10%含む  
2 10YR2/3 黒褐色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR4/4 褐色土ブロック  
を20%含む



1 10YR2/1 黒色土  
ややしめる 粘性ややあり  
10YR3/3 暗褐色砂質土  
ブロックを2%含む



図36 SB01遺構図

SB02

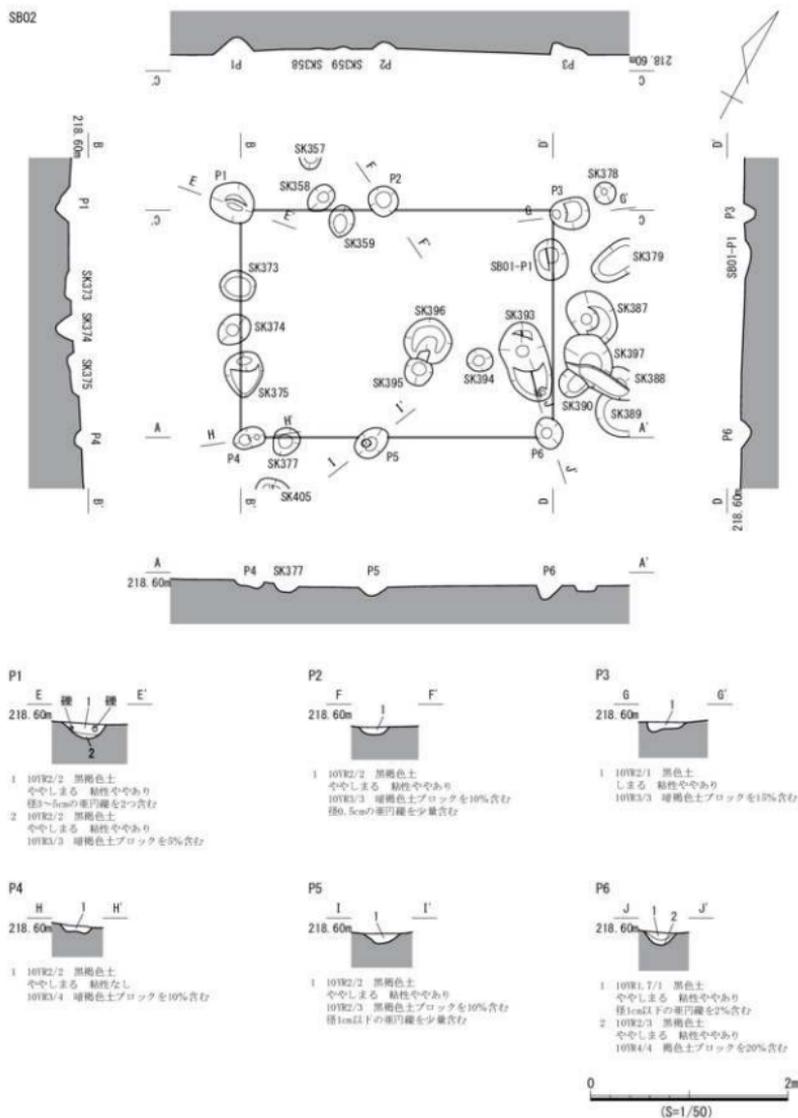


図37 SB02遺構図

時期 出土した遺物がなく、重複するSK353も時期不明の遺構であるため、時期不明である。

### 3 土坑

古墳時代以降と思われる土坑を9基検出した。このうち、出土した遺物や時期のわかる遺構との重複関係から、古墳時代～古代と思われるものは3基、中世と思われるものは4基、近世と思われるものは2基である。他に、出土遺物がなく、他の遺構との重複関係においても時期が決定できない土坑は、273基であった。

#### SK005 (図39)

検出状況 発掘区北東部において、I層除去後にIII層上面で検出した。1/2以上が発掘区外となるため、全体の形状は不明であるが、検出した部分からは円形に近い形状のものと思われる。壁面は立ち上がり、底面は平坦である。

埋土 単層であるが、黒味が強い黒色で、混入物はない。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 出土した遺物がなく、重複する遺構もないため、不明である。

#### SK031 (図39)

検出状況 発掘区北東部において、II層除去後にIII層上面で検出した。TP18により一部削平されてしまっているが、試掘・確認調査時には確認できなかった。平面形は不明瞭で、一部削平されているが長方形に近い形状と思われる。壁はやや開き、底面は平坦である。SK033と重複するが、検出状況から

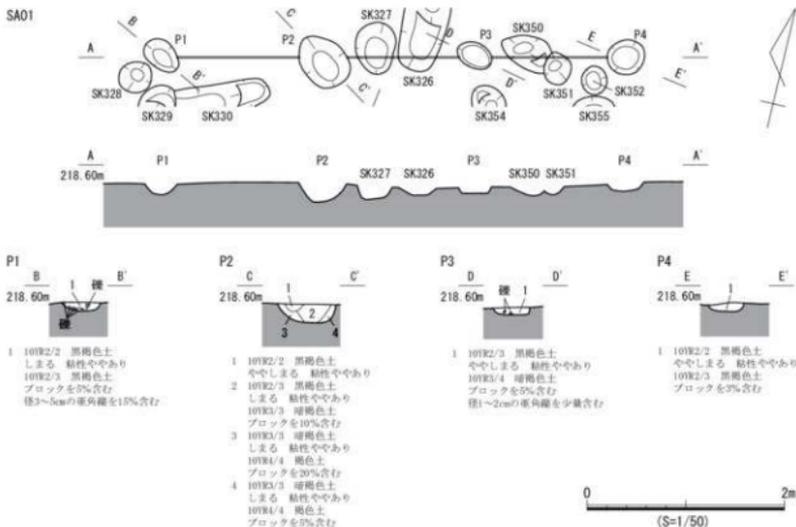


図38 SA01遺構図

それよりも新しい。

**埋土** 2層に分層したが、ほぼ水平堆積で、黒褐色土ブロックや暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点と土師器1点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、古墳時代から古代と思われる。

SK037 (図39)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。平面形は不明瞭であったが、壁はやや開き、底面は平坦である。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。埋土下部から、長さ約20cm、幅約13cmの長方形の礫が出土した。

**遺物出土状況** 縄文土器1点、土師器10点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、古墳時代から古代と思われる。

SK106 (図39)

**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出した。平面形は不明瞭で、重複するSK107やSK108との判別は困難であったが、SK106が最も新しいと判断した。底面は丸みがあり、壁はやや開く。

**埋土** 単層で、褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 山茶碗の小破片が1点出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、中世と思われる。

SK118 (図39)

**検出状況** 発掘区北西部において、Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は比較的平坦で、壁が開く大型の土坑である。

**埋土** 2層に分層したが、いずれにも礫を少量含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 出土遺物がなく、他の遺構とも重複関係がないことから、時期は不明である。

SK174 (図39)

**検出状況** 発掘区北東部において、検出したが、試掘・確認調査のTP16において確認していたものである。Ⅱ層除去後にⅢ層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は北側で一段深くなり、壁は開く。

**埋土** 単層である。

**遺物出土状況** 縄文土器2点、施釉陶器1点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

**時期** 出土した遺物から、中世と思われる。

SK180 (図39)

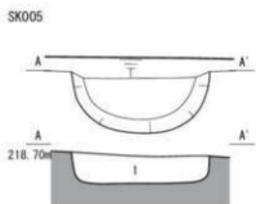
**検出状況** 発掘区北東部において、Ⅰ層除去後にⅢ層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は比較的平坦で、壁がやや開くやや大型の土坑である。

埋土 2層に分層したが、いずれにも暗褐色土ブロックを含む。

遺物出土状況 縄文土器4点、山茶碗1点が、埋土中から散在した状態で出土したが、小破片のため図示しなかった。

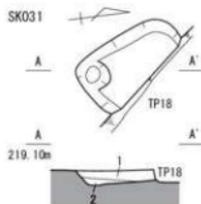
時期 出土した遺物から、中世と思われる。

SK005



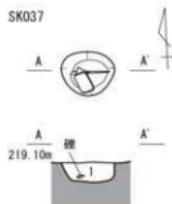
1 101R1.7/1 黒色土 ややしまる 粘性なし

SK031



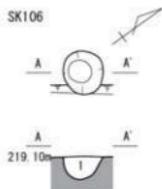
1 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R2/2 黒褐色土ブロックを3%含む  
2 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R3/3 暗褐色土ブロックを20%含む

SK037



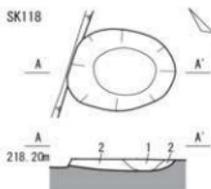
1 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R3/4 褐色土ブロックを10%含む  
径10cmの葦筒竈を1つ含む

SK106



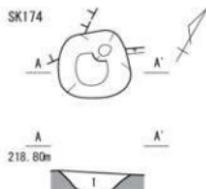
1 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R4/4 褐色土ブロックを2%含む

SK118



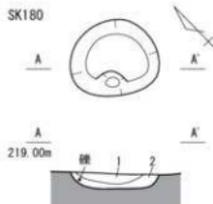
1 101R1.7/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり  
径1cm以下の葦筒竈を少量含む  
2 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり  
径1cm以下の葦筒竈を少量含む

SK174



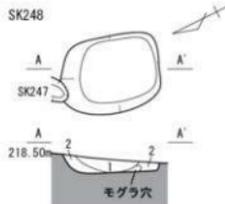
1 2.314/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり

SK180



1 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R3/3 暗褐色土ブロックを2%含む  
2 101R2/3 黒褐色土 ややしまる 粘性なし  
101R3/4 暗褐色土ブロックを5%含む

SK248



1 101R2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり  
101R2/2 黒褐色土ブロックを2%含む  
2 101R2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり  
101R3/3 暗褐色土ブロックを9%含む



図39 古墳時代以降の土坑 (1)

## SK248 (図39)

**検出状況** 発掘区北西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。SK247と重複するが、検出状況からそれよりも古い。底面は平坦で、壁が比較的開く大型の土坑である。

**埋土** 2層に分層したが、埋土1層に黒褐色土ブロック、埋土2層に暗褐色土ブロックを含む。

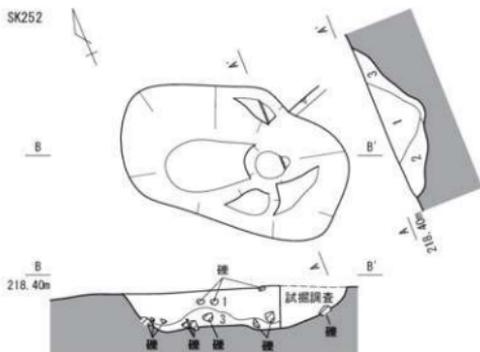
**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複する遺構からも遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

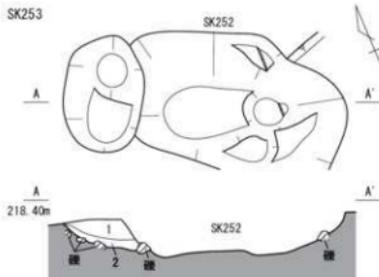
## SK252 (図40)

**検出状況** 発掘区西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。試掘・確認調査のTP11で一部確認していたものである。底面は凹凸があり、壁が開く、大型の土坑である。

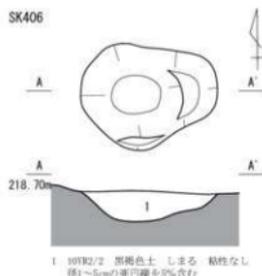
SK253と重複するが、検出状況からそれよりも新しい。



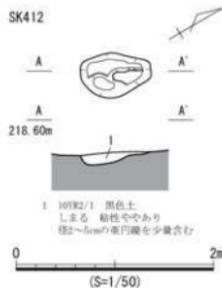
- 10YR1.7/1 黒色土 しまる 粘性ややあり
- 10YR3/1 黒褐色土ブロックを9%含む 径1~5cmの重円礫を2%含む
- 10YR2/2 黒褐色土 しまる 粘性ややあり
- 10YR2/3 黒褐色土ブロックを9%含む 径1~5cmの重円礫を9%含む
- 10YR2/1 黒色土 しまる 粘性ややあり
- 10YR2/3 黒褐色土ブロックを9%含む



- 10YR1.7/1 黒色土 しまる 粘性ややあり
- 10YR2/2 黒褐色土ブロックを10%含む 径1~3cmの重円礫を2%含む
- 10YR2/2 黒褐色土 しまる 粘性ややあり
- 10YR3/4 暗褐色土ブロックを9%含む



- 10YR2/2 黒褐色土 しまる 粘性なし
- 径1~5cmの重円礫を9%含む



- 10YR2/1 黒色土 しまる 粘性ややあり
- 径2~5cmの重円礫を少量含む

## SK412出土土器



図40 古墳時代以降の土坑(2)、SK412出土遺物

**埋土** 3層に分層したが、いずれからも黒褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複する遺構からも遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

#### SK253 (図40)

**検出状況** 発掘区西部において、II層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は不明瞭であった。底面は比較的平坦であるが、北側が一段深くなり、壁は開く。SK252と重複するが、検出状況からそれよりも古い。

**埋土** 2層に分層したが、埋土1層には黒褐色土ブロック、埋土2層には暗褐色土ブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 重複する遺構からも遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

#### SK406 (図40)

**検出状況** 発掘区南部において、I層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は丸みがあり、壁が段を持って開く、大型の土坑である。

**埋土** 単層で、礫を含む。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

#### SK412 (図40)

**検出状況** 発掘区南部において、I層除去後にIII層上面で検出したが、平面形は明瞭であった。底面は凹凸があり、壁は開く。

**埋土** 単層で、礫を少し含む。

**遺物出土状況** 縄文土器2点、土師器2点が、埋土中から散在した状態で出土した。また、被熱した痕跡のある礫も出土した。

**出土遺物** 213は土師器甕の頸部片で、頸部は外反する。

**時期** 出土した遺物から、古墳時代から古代と思われる。

## 4 包含層等出土遺物

包含層 (II層) 及び表土 (I a層)、整地層 (I b層) から、土師器や須恵器、山茶碗、陶器などが出土した。

214は小型の土師器甕で、出土した土師器の中では最も残存状態が良い。頸部が「く」字状に屈曲し、口縁端部がやや内湾する。胴部はあまり張らず、胴部最大径は口径よりも小さい。7世紀頃のものと思われる。215・216は須恵器で、7世紀～9世紀頃の坏の底部片と思われる。217～219は白土原1号窯式の碗で、217の底部内面は若干摩耗している。220は白土原1号窯式の小皿である。221～226は明和1号窯式の碗で、221の底部内面は若干摩耗している。222の内面には、重ね焼きの痕跡が残る。223の内外面には煤が付着している。227は碗で、底部外面に墨痕が残る。228～233は明和1号窯式の小皿である。230と233の底部外面には板目状圧痕が残る。234は大洞東1号窯式の碗で、高台径がかなり小さくなっている。235は脇之島3号窯式の碗で、無高台である。236は17世紀頃の丸碗で、鉄軸を施す。高台は削り出しにより、見込み部は深い。237は寛永通宝である。

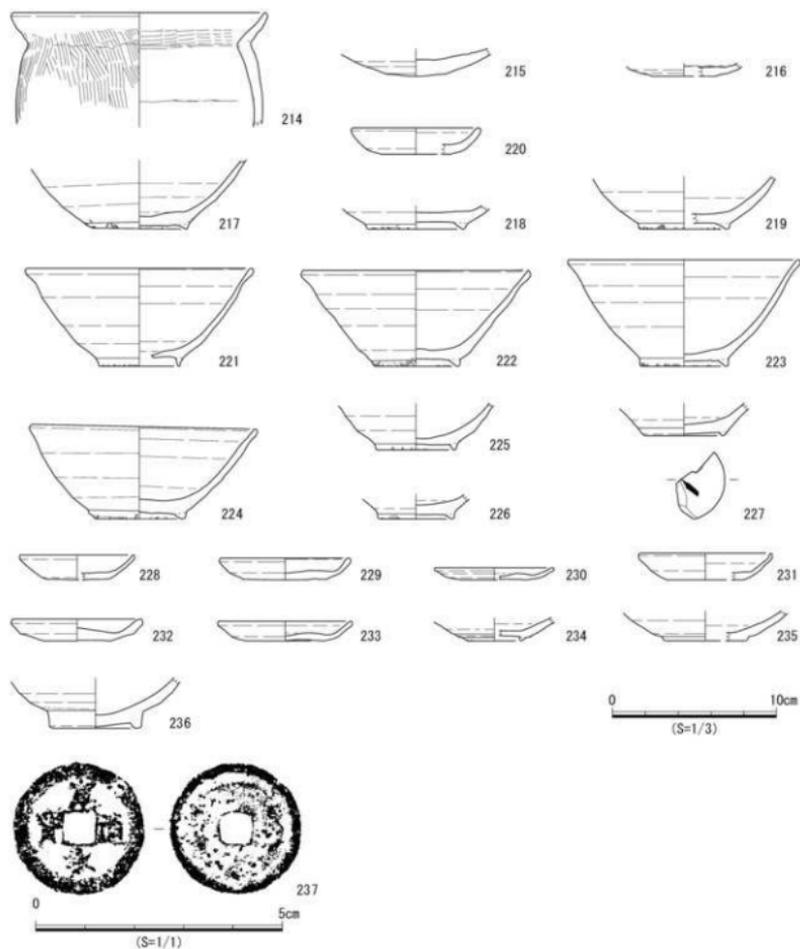


図41 包含層等出土古墳時代以降の遺物

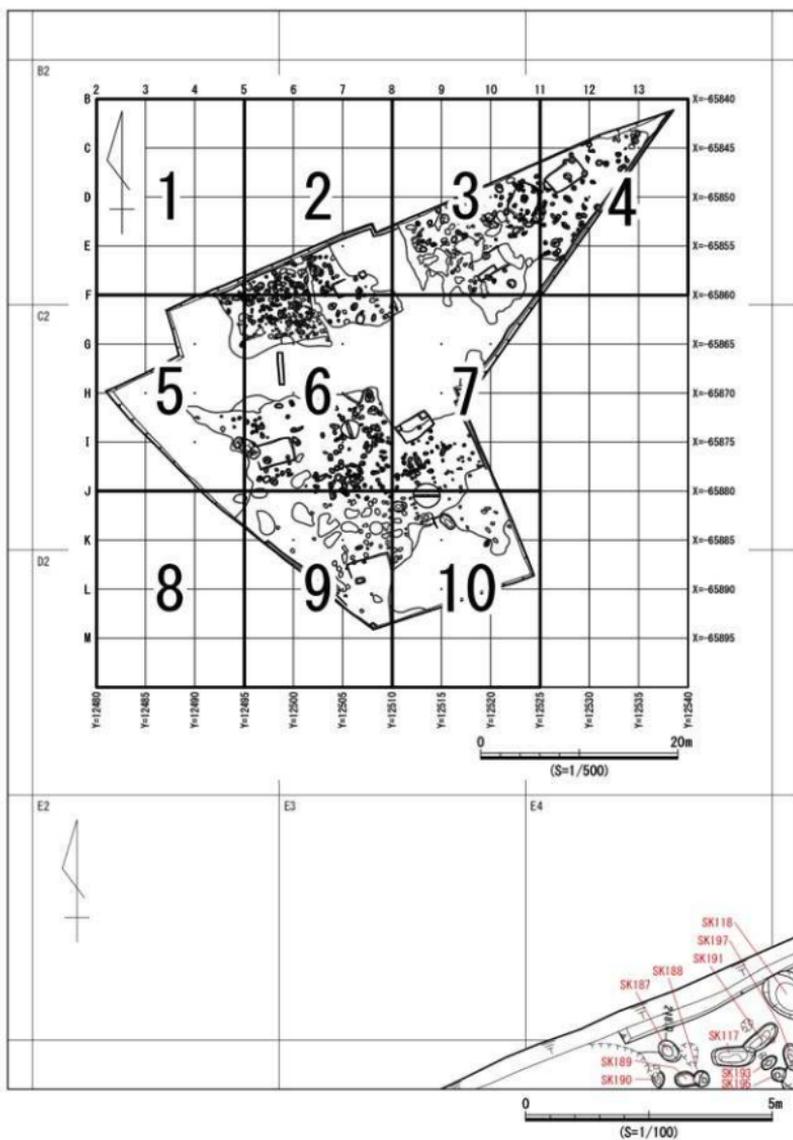


图42 遺構全体図分割図(1)

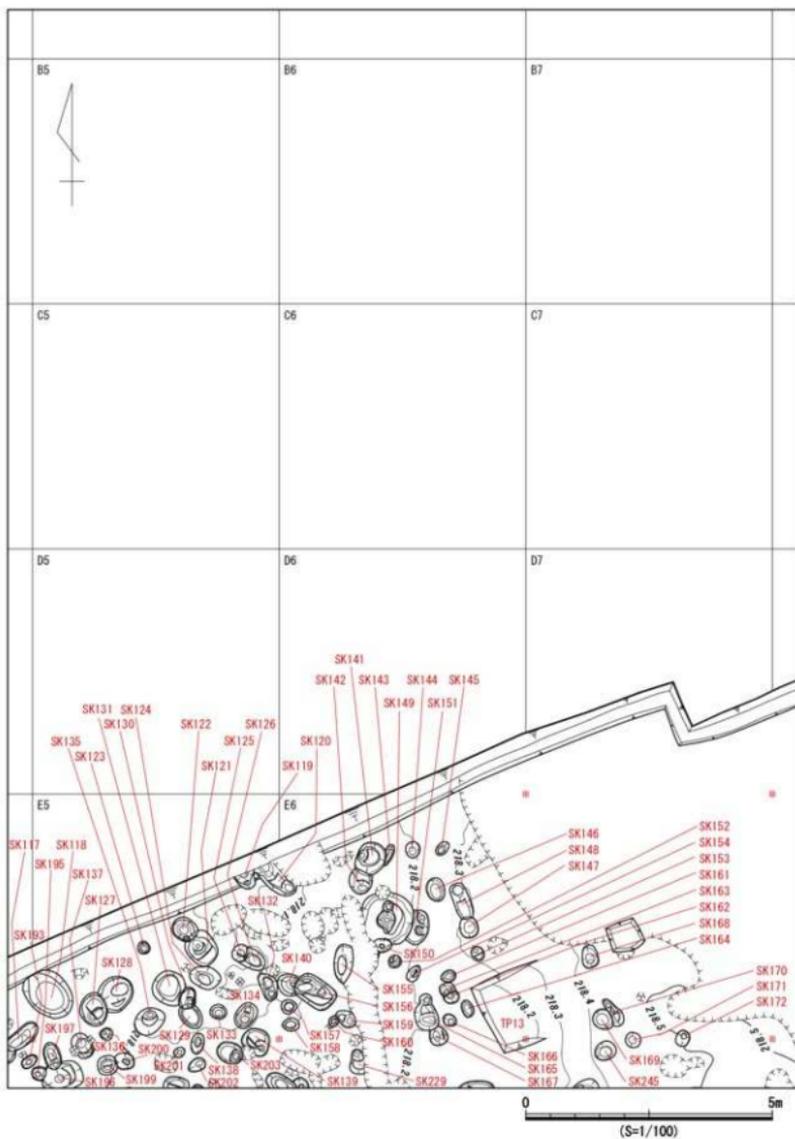


図43 遺構全体図分割図(2)

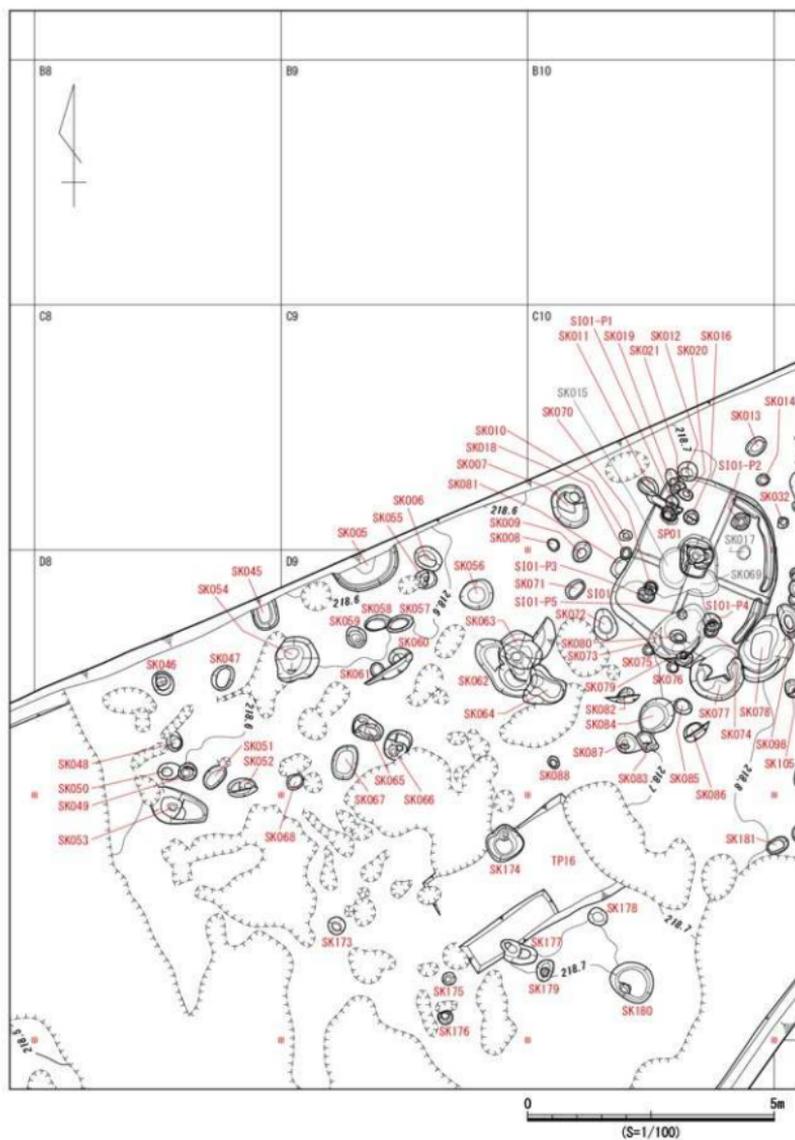


図44 遺構全体図分割図 (3)

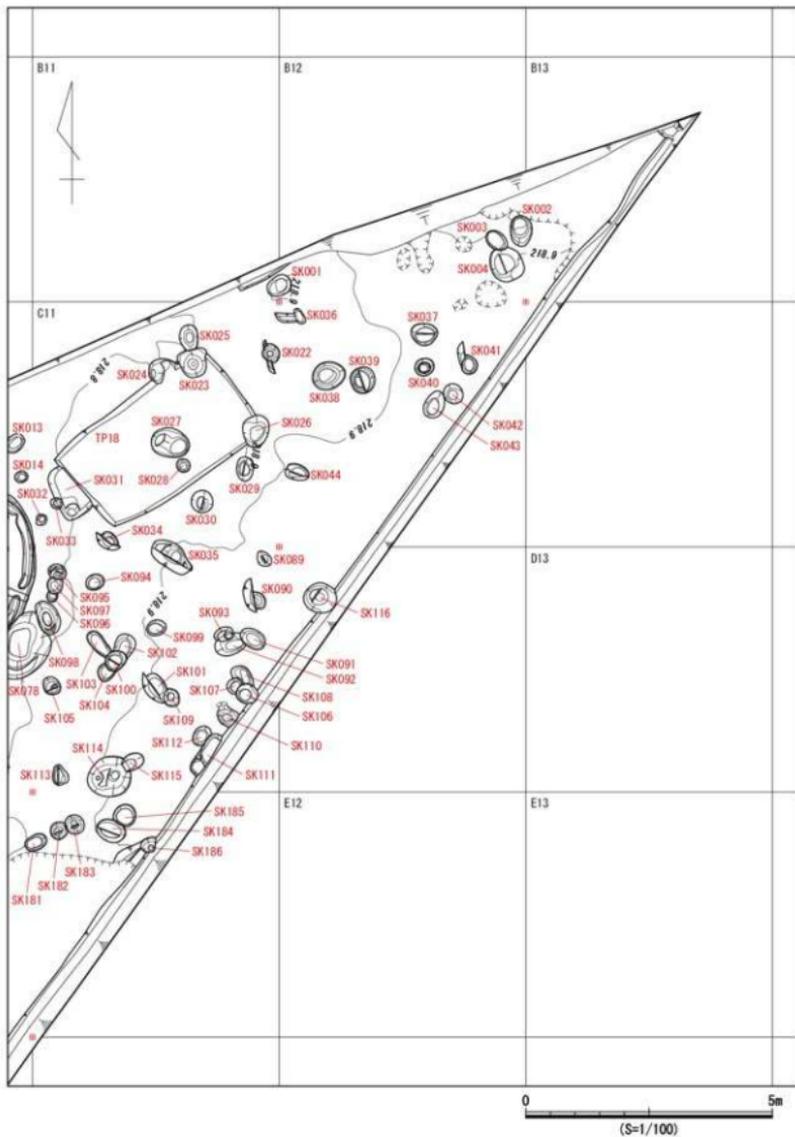


図45 遺構全体図分割図(4)



図46 遺構全体図分割図 (5)

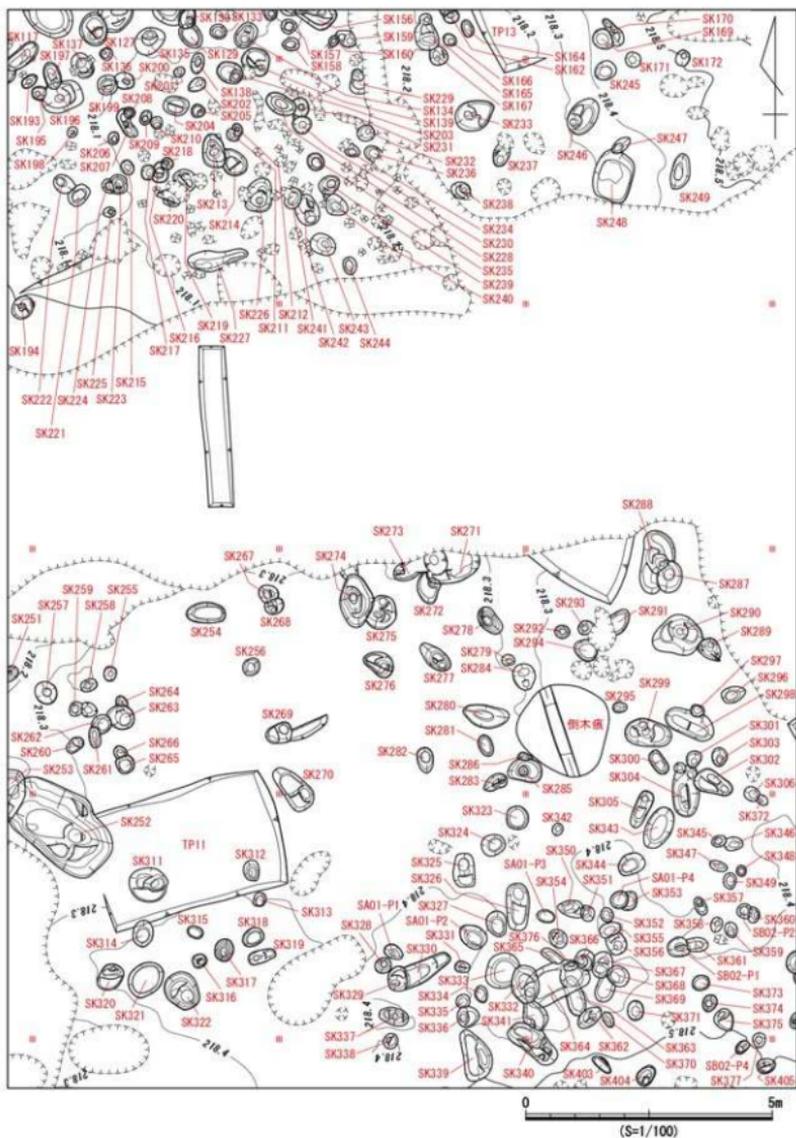


図47 遺構全体図分割図(6)

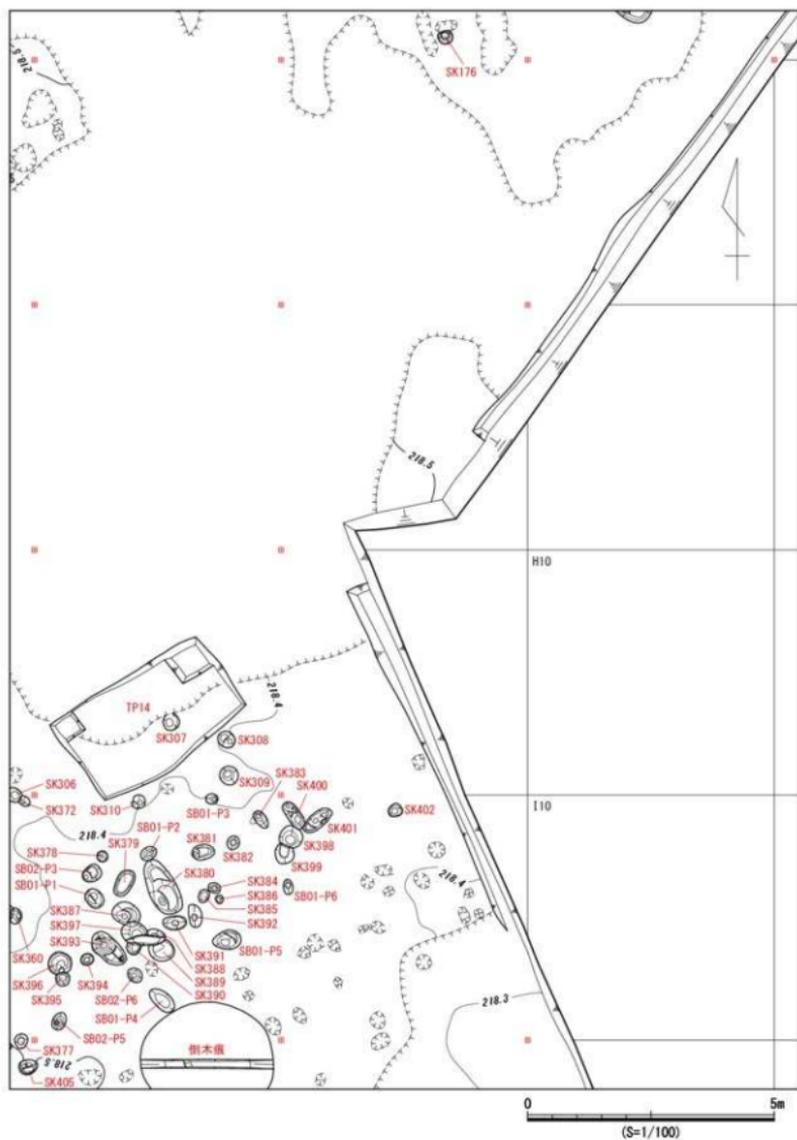


図48 遺構全体図分割図(7)

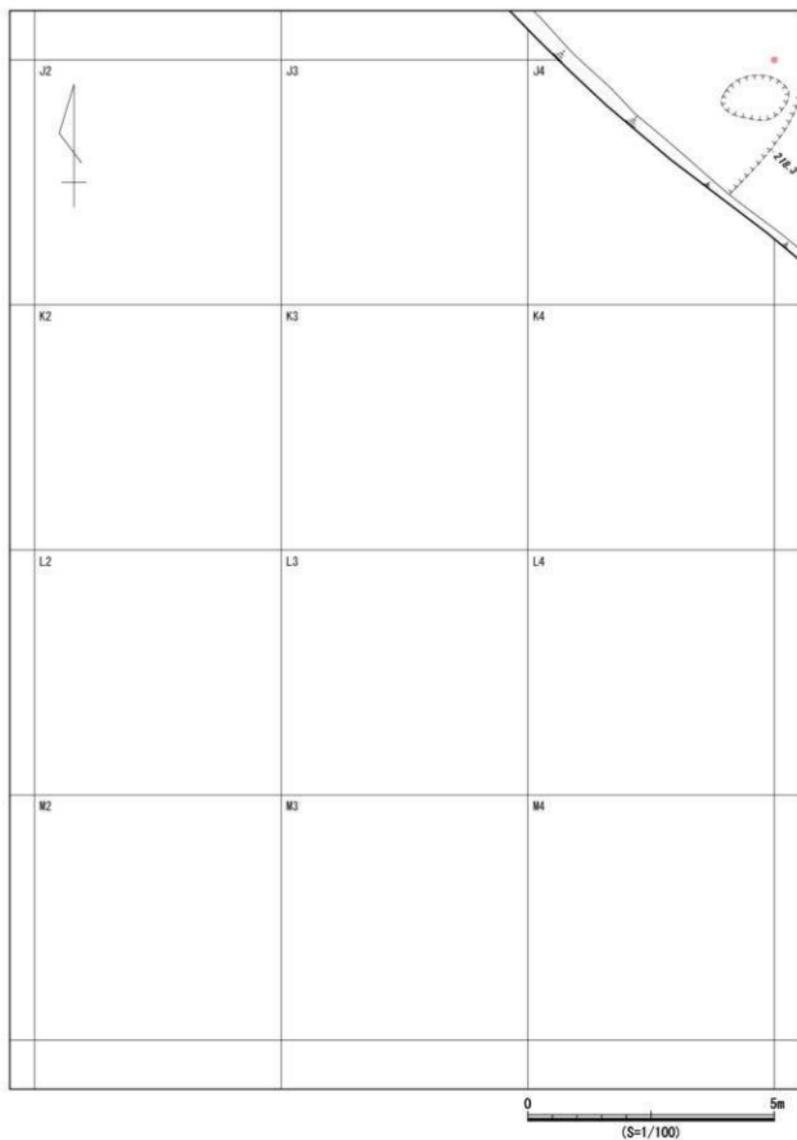


図49 遺構全体図分割図(8)

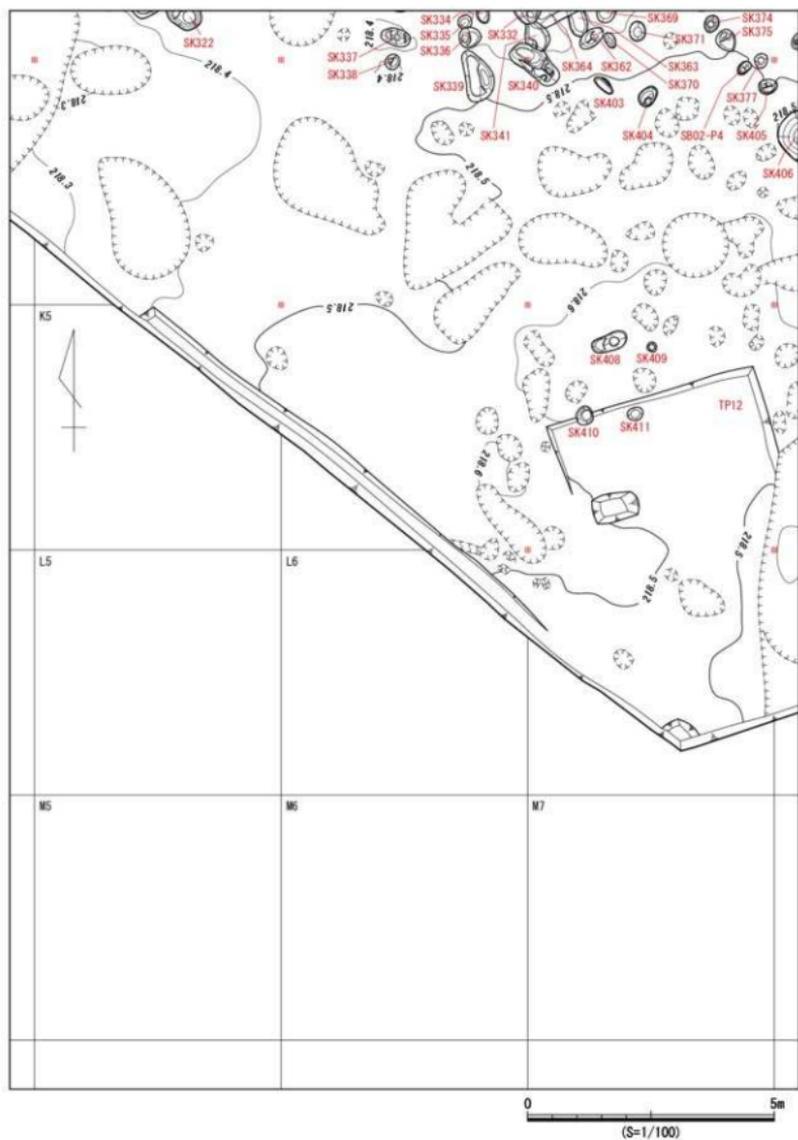


図50 遺構全体図分割図 (9)

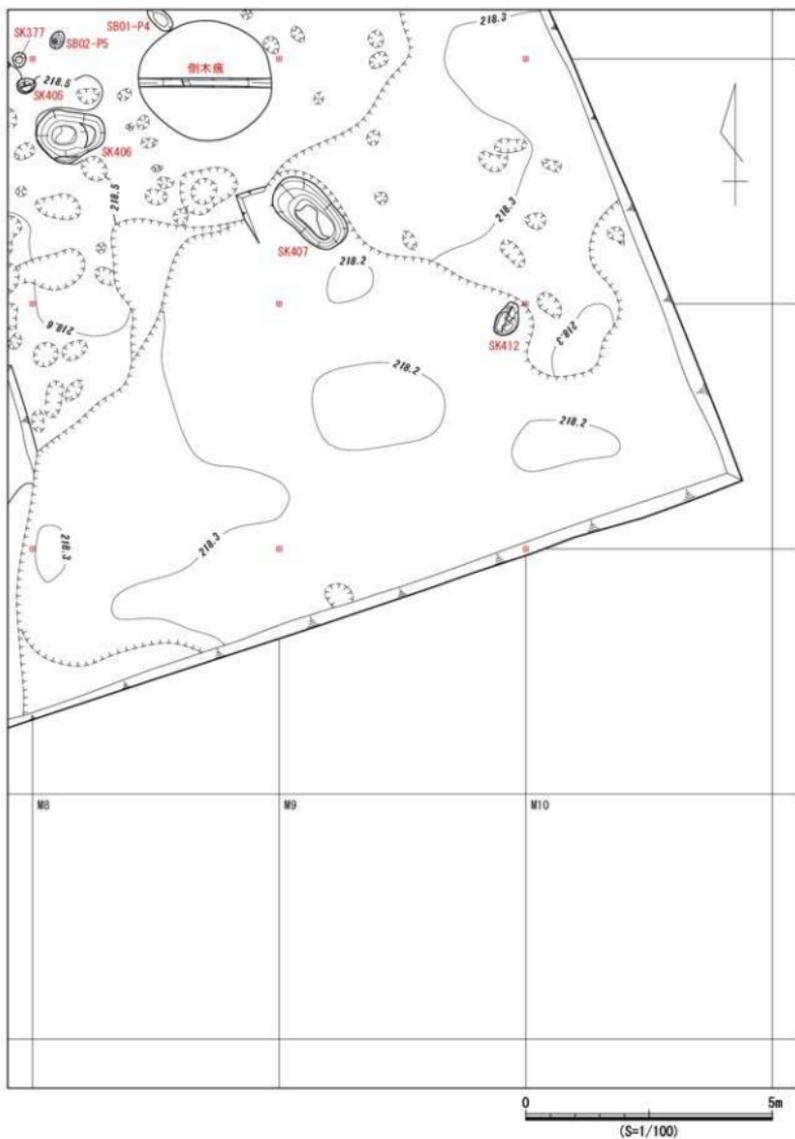


図51 遺構全体図分割図 (10)

表7 竪穴建物一覽

遺構番号	現地遺構番号	調査『F』	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	長軸方位	重複関係 新・●・古	出土遺物	時代	坪図	図取
SI01	S0103	C-D10	4	3.75	2.94	3.25	2.81	0.19	d	2層 B	N13° E	SK015, SK016, SK017, SK069, SK070, SK073, SK074, SK076, SK077, SK078, SP01 > SK012, SK019, SK020, SK021, SK075, SK081	J.5	縄文中期	11・12	3・5

表8 SI01柱穴一覽

遺構番号	現地遺構番号	調査『F』	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重複関係 新・●・古	出土遺物	時代	坪図	図取
P1	S0547	C10	1	0.28	0.25	0.09	0.09	0.16	a	2層 D	SP01 >	無	縄文中期	11	-
P2	S0548	C10	1	0.36	0.34	0.14	0.12	0.26	d	2層 D		無	縄文中期	11	5
P3	S0550	D10	2	0.35	(0.28)	0.13	0.10	0.30	a	2層 D	SK070 >	無	縄文中期	11	5
P4	S0555	D10	1	(0.34)	(0.32)	0.07	0.05	0.30	b	1層 A	SK074 >	無	縄文中期	11	-
P5	S0551	D10	1	0.20	0.19	0.10	0.10	0.07	a	1層 A		無	縄文中期	11	-

表9 掘立柱建物一覽

遺構番号	調査『F』	柱間(梁×柱)	長軸長	短軸長	長軸方位	重複関係 新・●・古	時代	坪図	図取
SB01	18・18・19	2×3	3.30	2.30	N50° E		不明	36	9
SB02	17・17・18	2×3	3.10	2.30	N60° E	>SK360, SK361	不明	37	9・10

表10 掘立柱建物柱穴一覽

遺構番号	現地遺構番号	調査『F』	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重複関係 新・●・古	出土遺物	坪図	図取
SB01-P1	S0278	18	2	0.42	0.33	(0.16)	(0.10)	0.06	a	1層 A		無	36	-
SB01-P2	S0278	18	2	0.34	0.26	0.14	0.08	0.06	a	1層 A		無	36	-
SB01-P3	S0415	18・18	1	0.24	0.21	0.07	0.07	0.15	c	1層 A		無	36	-
SB01-P4	S0290	18	2	0.61	0.32	0.36	0.21	0.05	d	1層 A		無	36	-
SB01-P5	S0285	18	2	0.57	0.40	0.18	0.14	0.19	g	2層 C		無	36	-
SB01-P6	S0265	19	2	0.31	0.19	0.10	0.10	0.08	c	1層 A		無	36	-
SB02-P1	S0352	17	1	0.45	0.45	0.17	0.06	0.15	a	2層 B	>SK361	無	37	-
SB02-P2	S0350	17	1	0.30	0.29	0.21	0.21	0.07	a	1層 A	>SK360	無	37	-
SB02-P3	S0275	18	2	0.40	0.32	0.09	0.07	0.10	g	1層 A		無	37	-
SB02-P4	S0233	17	2	0.33	0.20	0.05	0.05	0.07	g	1層 A		無	37	-
SB02-P5	S0296	18	2	0.37	0.27	0.13	(0.05)	0.10	g	1層 A		無	37	-
SB02-P6	S0289	18	2	0.33	0.27	0.10	0.10	0.17	a	2層 C		無	37	-

表11 柵一覽

遺構番号	調査『F』	柱間	長軸方位	重複関係 新・●・古	時代	坪図	図取
SA01	16-17	1.55m・1.55m・1.55m	N73° E	>SK353	不明	38	9・10

表12 柵柱穴一覽

遺構番号	現地遺構番号	調査『F』	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重複関係 新・●・古	出土遺物	坪図	図取
SA01-P1	S0242	16	2	0.41	0.28	0.24	0.14	0.09	d	1層 A		無	38	-
SA01-P2	S0241	16	2	0.59	0.44	0.32	0.20	0.19	d	4層 E		無	38	-
SA01-P3	S0327	17	2	0.37	0.26	0.30	0.20	0.07	d	1層 A		無	38	-
SA01-P4	S0332	17	1	0.38	0.36	0.28	0.23	0.10	b	1層 A	>SK353	無	38	-

表13 単独柱穴、土坑一覧(1)

遺構番号	発掘調査年度	調査区画	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重層関係	部・●・古	出土遺物	時代	所属	図例
SP01	SP187	C10	5	0.38	0.29	0.15	0.15	0.41	b	2層 B	>S101, S1019, S101-P1	J	縄文中期	14	6	
SK001	SK005	B11-12	2	0.51	0.40	0.39	0.25	0.10	d	1層 A		J	縄文	-	-	
SK002	SK001	B12-13	2	0.63	0.45	0.34	0.26	0.24	a	1層 A		J, S	縄文中期	15	6	
SK003	SK002	B12	2	0.50	0.35	0.42	0.25	0.09	b	1層 A	>SK004	J	不明	-	-	
SK004	SK003	B12	1	(0.66)	0.65	0.60	(0.24)	0.15	d	2層 D	SK003	J, S	縄文	15	6	
SK005	SP119	C-D9	6	1.40	(0.64)	1.14	(0.42)	0.30	b	1層 A		J	不明	39	10	
SK006	SP120	C-D9	2	0.58	0.46	0.39	0.27	0.11	d	1層 A	SK055	J	縄文	-	-	
SK007	SK098	C10	4	0.88	0.70	0.21	0.17	0.15	f	2層 C		J	縄文中期	-	-	
SK008	SP100	C-D10	1	0.26	0.23	0.24	0.17	0.06	d	2層 C		J	不明	-	-	
SK009	SK099	C-D10	2	0.45	0.35	0.21	0.17	0.18	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK010	SK096	C10	1	0.25	0.21	0.12	0.08	0.07	a	1層 A		S	縄文	16	-	
SK011	SP153	C10	2	0.48	0.34	0.35	(0.19)	0.07	d	1層 A		J	不明	-	-	
SK012	SP155	C10	1	0.49	0.80	0.24	0.22	0.08	d	2層 B	S101	J	縄文	-	-	
SK013	SP156	C10	2	0.44	0.43	0.28	0.16	0.09	d	1層 A		J	不明	-	-	
SK014	SP177	C10	1	0.27	0.24	0.14	0.13	0.09	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK015	SP185	C-D10	2	0.83	0.63	0.47	0.33	0.07	d	1層 A	>S101, S101-P, SK069	J, S	縄文中期	-	-	
SK016	SP188	C10	1	0.32	0.31	0.20	(0.18)	0.07	a	1層 A	S101	J	不明	-	-	
SK017	SP189	C-D10	2	0.30	0.24	0.22	0.18	0.07	b	1層 A	S101	J	縄文中期	-	-	
SK018	SP430	C-D10	3	0.26	0.23	0.16	0.12	0.07	d	2層 D	SK001	J	縄文	-	-	
SK019	SP545	C10	2	(0.50)	0.24	0.19	0.12	0.13	a	2層 D	S101>>SK020, SK021	J	縄文	-	-	
SK020	SP546	C10	2	0.30	0.20	0.15	0.10	0.13	c	2層 C	S101, SK019>>SK021	J	縄文	-	-	
SK021	SP557	C10	2	0.34	(0.20)	0.15	0.11	0.08	d	1層 A	S101, SK019, SK020	J	縄文	-	-	
SK022	SK023	C11-12	1	0.40	0.35	0.12	0.10	0.27	c	1層 A		J	縄文中期	16	-	
SK023	SK038	C11	3	(0.54)	(0.54)	0.22	0.20	0.20	c	2層 C	SK025	J, S	縄文中期	17	6	
SK024	SK025	C11	6	(0.57)	0.45	0.27	0.08	0.20	f	2層 E		J	縄文中期	-	-	
SK025	SP180	C11	2	(0.52)	0.37	0.21	0.15	0.14	a	1層 A	SK023	J	縄文中期	17	-	
SK026	SK033	C11	2	(0.67)	(0.82)	0.35	0.30	0.18	a	1層 A		S	縄文	-	-	
SK027	SP178	C11	2	0.77	0.60	0.34	0.26	0.26	g	1層 A		S	縄文	17	-	
SK028	SK035	C11	1	0.28	0.28	0.20	0.18	0.16	a	2層 B		J	不明	-	-	
SK029	SK026	C11	2	0.50	0.34	0.25	(0.10)	0.09	a	1層 A		J	縄文中期	17	-	
SK030	SK027	C11	1	0.46	0.45	0.34	(0.10)	0.13	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK031	SK001	C11	4	1.11	(0.82)	0.16	0.14	0.15	d	2層 B	>SK033	J, W	古墳～古代	39	-	
SK032	SK032	C11	1	0.25	0.23	0.12	0.12	0.15	a	1層 A		J, S	縄文	-	-	
SK033	SP179	C11	1	0.23	0.22	0.12	0.12	0.12	d	1層 A		J	縄文	-	-	
SK034	SK030	C-D11	6	4.00	(0.16)	0.18	(0.07)	0.19	a	2層 C		J	不明	-	-	
SK035	SK041	C-D11	5	0.90	0.50	0.19	(0.17)	0.29	f	1層 A		J, S	縄文中期	17	-	
SK036	SK076	C12	2	0.33	(0.18)	0.28	0.14	0.05	b	1層 A		J	不明	-	-	
SK037	SK010	C12	2	0.54	0.45	0.32	(0.11)	0.21	d	1層 A	J, W	古墳～古代	39	-		
SK038	SK008	C12	1	0.68	0.57	0.37	0.31	0.19	a	1層 A		J	縄文中期	17	-	
SK039	SK009	C12	1	0.54	0.50	0.45	(0.14)	0.21	a	1層 A		J	縄文中期	18	-	
SK040	SK011	C12	1	0.40	0.36	0.26	0.22	0.16	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK041	SK013	C12	2	0.40	0.33	0.25	0.18	0.25	a	1層 A		J	縄文中期	18	-	
SK042	SK015	C12	1	0.42	0.39	0.20	0.19	0.13	a	1層 A		J, S	縄文早期	18	-	
SK043	SK014	C12	2	0.57	0.40	0.35	0.21	0.08	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK044	SK022	C12	2	0.47	0.33	0.30	(0.11)	0.08	g	1層 A		J, W	中世	-	-	
SK045	SP165	D8	2	0.52	(0.49)	0.34	0.24	0.20	a	1層 A		J, S	縄文中期	19	-	
SK046	SP168	D8	2	0.49	0.41	0.06	0.05	0.13	f	1層 A		J	不明	-	-	
SK047	SP166	D8	2	0.54	0.44	0.42	0.25	0.07	d	2層 C		J	不明	-	-	
SK048	SP171	D8	6	(0.36)	0.31	0.20	0.17	0.10	d	1層 A		J	縄文	-	-	
SK049	SP172	D8	1	0.37	0.37	0.15	0.14	0.21	f	1層 A	>SK050	J	不明	-	-	
SK050	SP173	D8	2	(0.43)	0.35	0.21	0.17	0.11	a	2層 C	SK049	S	縄文	-	-	
SK051	SP161	D8	2	0.53	0.36	0.43	0.19	0.09	d	1層 A		J	不明	-	-	
SK052	SP162	D-E8	2	0.57	0.37	(0.13)	0.13	0.11	g	1層 A		J	縄文中期	19	-	
SK053	SP160	D-E8	2	(1.14)	0.74	0.18	0.16	0.27	f	3層 C		J	縄文中期	19	7	
SK054	SP131	D6-9	5	0.98	(0.80)	0.30	0.22	0.26	f	2層 D		J, S	縄文中期	20	7	
SK055	SP122	D9	1	0.44	0.40	0.08	0.08	0.18	f	2層 B	>SK006	J	縄文	-	-	
SK056	SP143	D9	1	0.67	0.59	0.34	0.31	0.10	a	2層 C		J	縄文中期	20	-	
SK057	SP126	D9	2	0.57	0.31	0.36	0.18	0.13	d	1層 A	>SK058	J	不明	-	-	
SK058	SP174	D9	2	0.55	0.30	0.45	0.23	0.10	d	1層 A	SK057	J	不明	-	-	
SK059	SP164	D9	1	0.46	0.40	0.20	0.15	0.19	c	1層 A		J	縄文	-	-	
SK060	SP129	D9	2	0.48	(0.24)	0.22	(0.18)	0.17	d	1層 A		J	不明	-	-	
SK061	SP127	D9	1	(0.28)	(0.24)	(0.18)	(0.17)	0.07	a	1層 A		J	不明	-	-	
SK062	SP116	D9-10	2	1.47	0.90	0.31	0.22	0.25	g	2層 C	>SK063, SK064	J, S	縄文早期	20	7	
SK063	SP118	D9-10	6	0.90	(0.70)	0.20	0.16	0.37	c	1層 A	SK062, SK064	J	縄文	-	-	
SK064	SP117	D9-10	5	(0.88)	0.76	0.65	0.23	0.24	g	2層 D	SK062>>SK063	J	縄文	-	-	
SK065	SP135	D9	4	0.65	0.47	0.27	0.13	0.28	f	3層 D		J	不明	-	-	
SK066	SP136	D9	2	0.65	(0.51)	0.11	0.11	0.16	f	1層 A		J	不明	-	-	
SK067	SP137	D9	2	0.74	0.53	0.49	0.34	0.14	g	2層 C		J	不明	-	-	
SK068	SP139	D9	3	0.35	(0.31)	0.28	0.21	0.04	d	1層 A		J	不明	-	-	
SK069	SK099	D10	6	(0.69)	(0.62)	(0.64)	(0.41)	0.08	d	1層 A	SK015>>S101, S101-P	J	縄文中期	20	7	

表14 土坑一覽(2)

遺構番号	規模遺構番号	調査 F1+	平面 形状	上端 長軸長	上端 短軸長	下端 長軸長	下端 短軸長	深さ	断面 形状	埋土	重複関係 新●古	出土 遺物	時代	採回	図録
SK070	50190	D10	1	0.30	0.30	0.09	(0.05)	0.24	f	2階 B	>S101,S101-P3	J	縄文	-	-
SK071	50106	D10	2	0.45	0.31	0.34	0.18	0.11	d	2階 C		無	不明	-	-
SK072	50107	D10	2	0.64	0.46	0.34	0.25	0.12	d	1階 A		J	縄文中期	-	-
SK073	50191	D10	2	1.31	0.89	0.26	0.23	0.13	g	1階 A	>S101,S101-P4,SK074,SK075,SK076,SK060	J,S	縄文中期	20	8
SK074	50192	D10	2	0.37	0.28	0.08	0.06	0.20	f	2階 D	SK072>S101-P4	J	縄文	-	-
SK075	50101	D10	1	0.23	(0.22)	0.19	0.10	0.15	a	1階 A	S101,SK073>	無	不明	-	-
SK076	50102	D10	1	0.24	0.22	0.19	0.19	0.06	a	2階 D	>S101	J	縄文中期	21	-
SK077	50104	D10	1	1.12	1.09	(0.72)	(0.38)	0.15	g	3階 E	>S101,SK078	無	不明	-	-
SK078	50105	D10-11	2	(1.08)	1.00	0.62	0.44	0.26	f	3階 E	SK077>S101,SK098	J,S	縄文中期	22	8
SK079	50554	D10	2	0.37	0.30	0.08	0.07	0.21	d	1階 A	SK073>	無	不明	-	-
SK080	50553	D10	2	0.35	0.28	0.16	0.12	0.12	a	1階 A		J	縄文中期	22	-
SK081	50154	D10	6	0.48	(0.28)	0.31	(0.29)	0.13	d	2階 D	S101>SK018	無	不明	-	-
SK082	50109	D10	6	0.35	(0.16)	0.17	(0.06)	0.14	f	2階 C		無	不明	-	-
SK083	50110	D10	3	0.45	0.33	(0.20)	0.19	0.10	a	1階 A	>SK084,SK087	無	不明	-	-
SK084	50111	D10	2	0.82	0.66	0.52	0.40	0.16	d	1階 A	SK083>	無	不明	-	-
SK085	50112	D10	1	0.37	0.31	0.25	0.21	0.10	b	1階 A		無	不明	-	-
SK086	50113	D10	6	0.42	(0.15)	0.32	(0.12)	0.07	d	1階 A		J	縄文中期	-	-
SK087	50163	D10	1	0.47	(0.46)	0.12	(0.09)	0.18	a	2階 D	SK083>	無	不明	-	-
SK088	50114	D10	2	0.27	0.22	0.13	0.10	0.15	a	1階 A		無	不明	-	-
SK089	50042	D11	2	0.35	0.32	0.16	(0.08)	0.10	c	1階 A		J,S	縄文	-	-
SK090	50043	D11	6	0.34	(0.22)	0.21	(0.14)	0.13	d	1階 A		無	不明	-	-
SK091	50044	D11	2	0.56	0.43	0.43	0.21	0.15	a	1階 A	>SK092	無	不明	-	-
SK092	50045	D11	2	(0.40)	0.43	0.37	0.18	0.11	a	1階 C	SK091>>SK093	無	不明	-	-
SK093	50175	D11	6	0.40	(0.29)	0.12	0.12	0.09	g	1階 A	SK092>	無	不明	-	-
SK094	50063	D11	1	0.34	0.32	0.24	0.21	0.10	d	1階 A		J	縄文	-	-
SK095	50054	D11	1	0.37	0.32	0.09	0.07	0.22	f	2階 C	>SK097	無	不明	-	-
SK096	50056	D11	1	0.23	0.22	0.13	0.13	0.11	d	1階 A	>SK097	無	不明	-	-
SK097	50067	D11	1	0.32	(0.31)	0.18	0.11	0.16	a	1階 A	>SK095,SK096>	無	不明	-	-
SK098	50091	D11	2	0.71	0.45	0.29	0.15	0.30	f	3階 C	SK078>	J	縄文中期	22	8
SK099	50060	D11	1	0.40	0.36	0.28	0.20	0.13	d	2階 C		J	縄文	-	-
SK100	50051	D11	2	0.49	0.38	0.25	(0.20)	0.19	d	2階 C	>SK102,SK103,SK104	J,S	縄文早期	23	-
SK101	50052	D11	2	0.65	(0.24)	0.35	(0.18)	0.08	a	1階 A	>SK109	J	縄文中期	23	-
SK102	50088	D11	2	0.40	(0.37)	0.25	0.20	0.10	d	1階 A	SK100>	無	不明	-	-
SK103	50089	D11	2	(0.59)	0.27	(0.50)	0.20	0.11	b	1階 A	SK100>	無	不明	-	-
SK104	50090	D11	6	0.34	(0.26)	0.29	(0.28)	0.09	d	1階 A	SK100>	無	不明	-	-
SK105	50058	D11	1	0.38	0.33	0.08	(0.04)	0.12	f	1階 A		無	不明	-	-
SK106	50046	D11	1	0.45	0.40	0.28	0.27	0.24	a	1階 A	>SK107,SK108	Y	中世	39	-
SK107	50047	D11	1	0.35	(0.34)	0.21	(0.20)	0.07	d	1階 A	SK106>SK108	無	不明	-	-
SK108	50181	D11	6	(0.56)	(0.33)	(0.31)	0.13	0.13	a	2階 C	SK106,SK107>	J	縄文前期	24	-
SK109	50158	D11	2	0.38	0.31	0.16	0.14	0.14	a	2階 C	SK101>	無	不明	-	-
SK110	50048	D11	5	(0.42)	0.36	0.18	0.12	0.24	c	1階 A		J,S	縄文中期	24	-
SK111	50049	D11	6	0.96	(0.27)	0.51	(0.20)	0.19	g	2階 D	>SK112	J	縄文	-	-
SK112	50176	D11	2	0.42	(0.30)	0.23	0.23	0.11	a	1階 A	SK111>	J	縄文	-	-
SK113	50059	D11	5	0.42	0.33	0.32	(0.19)	0.09	g	1階 A		J,S	縄文	-	-
SK114	50060	D-E11	1	0.90	0.83	0.15	0.15	0.30	g	2階 D	>SK115	J	縄文中期	-	-
SK115	50159	D11	6	(0.45)	0.33	0.27	0.19	0.14	d	1階 A	SK114>	J	縄文中期	-	-
SK116	50021	D12	1	0.61	0.60	0.35	(0.22)	0.14	d	1階 A		J	縄文中期	24	-
SK117	50431	E4-F5	2	(0.77)	0.34	0.50	0.20	0.14	d	2階 D	SK191>	J	縄文	-	-
SK118	50466	E4-5	2	(1.09)	0.83	0.63	0.48	0.12	d	2階 C		無	不明	39	10
SK119	50487	E5	6	(0.58)	(0.33)	(0.16)	(0.09)	0.32	c	2階 C	>SK120	無	不明	-	-
SK120	50488	E5-6	6	(0.85)	(0.40)	(0.17)	(0.15)	0.36	g	2階 B	SK119>	J	縄文中期	24	-
SK121	50474	E5	3	0.69	0.59	0.08	0.07	0.25	g	2階 D	>SK122	無	不明	-	-
SK122	50475	E5	1	(0.83)	0.45	0.18	0.16	0.24	d	2階 C	SK121>	無	不明	-	-
SK123	50472	E5	1	0.26	0.24	0.13	0.10	0.13	a	2階 C		無	不明	-	-
SK124	50476	E5	2	0.64	0.46	0.37	0.23	0.10	d	2階 D		無	不明	-	-
SK125	50483	E5	1	0.36	0.33	0.14	(0.10)	0.07	a	1階 A	>SK126	無	不明	-	-
SK126	50562	E5	6	(0.40)	0.39	0.27	0.17	0.20	d	2階 C	SK125>	無	不明	-	-
SK127	50468	E5	1	0.68	0.57	0.19	0.15	0.19	g	1階 A	>SK128	無	不明	-	-
SK128	50469	E5	6	(0.67)	0.67	0.35	0.23	0.18	g	2階 E	SK127>	無	不明	-	-
SK129	50477	E5	2	0.55	0.41	0.36	0.25	0.19	d	2階 C	>SK130	H	不明	-	-
SK130	50478	E5	2	(0.43)	0.36	0.10	0.08	0.21	g	2階 B	SK129>>SK131	無	不明	-	-
SK131	50479	E5	1	0.68	(0.60)	0.42	0.36	0.10	d	2階 D	SK130>	無	不明	-	-
SK132	50484	E5	5	0.57	0.54	0.11	0.11	0.18	g	2階 C		無	不明	-	-
SK133	50485	E5	1	0.34	0.30	0.14	0.12	0.16	a	2階 C		無	不明	-	-
SK134	50486	E5	2	0.64	0.41	0.15	0.14	0.28	g	2階 C		J	縄文	-	-
SK135	50471	E5	2	0.64	0.50	0.13	0.09	0.12	a	1階 A		無	不明	-	-
SK136	50470	E-F5	1	0.25	0.25	0.08	0.06	0.17	c	2階 C		無	不明	-	-
SK137	50432	E-F5	2	0.54	(0.35)	0.18	0.14	0.09	g	2階 C		無	不明	-	-
SK138	50465	E-F5	2	0.43	0.27	0.14	0.19	0.18	a	2階 D		無	不明	-	-

表15 土坑一覧(3)

遺構番号	現地遺構番号	調査 時期	平面 形状	上端 長軸長	上端 短軸長	下端 長軸長	下端 短軸長	深さ	断面 形状	埋土	重直保 経緯	出土 遺物	時代	研削	図例	
SK139	S0433	E-F5	5	0.60	(0.30)	0.14	0.13	0.12	g	1層 A		無	不明	-	-	
SK140	S0580	E5-6	6	0.45	(0.30)	0.11	0.10	0.29	c	2層 D	SK156>	無	不明	-	-	
SK141	S0499	E6	1	0.69	0.56	0.11	0.09	0.19	g	3層 E	>SK142, SK143	無	不明	-	-	
SK142	S0500	E6	6	0.47	(0.46)	0.18	0.12	0.14	g	1層 A	SK141>	無	不明	-	-	
SK143	S0501	E6	6	0.45	0.19	0.35	0.06	0.06	a	2層 B	SK141>	無	不明	-	-	
SK144	S0502	E6	1	0.33	0.29	0.16	0.14	0.07	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK145	S0503	E6	2	0.32	0.21	0.15	0.09	0.14	d	2層 D		無	不明	-	-	
SK146	S0506	E6	2	0.48	0.37	0.31	0.29	0.14	d	2層 D		無	不明	-	-	
SK147	S0507	E6	2	0.44	0.36	0.25	0.21	0.16	d	2層 D		無	不明	-	-	
SK148	S0508	E6	6	0.76	0.33	0.18	0.18	0.15	g	2層 D	>SK148	無	不明	-	-	
SK149	S0576	E6	1	(1.00)	(1.00)	0.10	0.09	0.45	f	3層 E	SK150>>SK151	無	不明	-	-	
SK150	S0504	E6	6	(0.31)	0.29	0.11	0.09	0.17	c	1層 A	>SK149	J	縄文中期	-	-	
SK151	S0505	E6	6	0.70	0.35	0.11	0.09	0.16	g	2層 E	SK149>	無	縄文	-	-	
SK152	S0509	E6	1	0.27	0.26	(0.06)	(0.05)	0.13	g	1層 A		無	不明	-	-	
SK153	S0519	E6	1	0.30	0.29	0.10	0.06	0.11	g	1層 A		無	不明	-	-	
SK154	S0511	E6	2	0.36	0.23	0.18	(0.12)	0.08	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK155	S0493	E6	6	0.75	(0.30)	0.39	0.16	0.13	d	2層 D		無	不明	-	-	
SK156	S0494	E6	4	0.85	0.55	0.29	0.15	0.32	g	2層 D	>SK140	無	不明	-	-	
SK157	S0495	E6	1	0.30	0.30	0.14	0.13	0.14	a	2層 D		無	不明	-	-	
SK158	S0496	E6	2	0.34	0.27	0.20	0.13	0.14	d	2層 C		無	不明	-	-	
SK159	S0497	E6	2	(0.44)	0.33	0.13	0.13	0.14	e	1層 A	>SK160	J	縄文前期	25	-	
SK160	S0498	E6	1	(0.21)	0.19	0.11	0.09	0.14	a	1層 A	SK159>	無	縄文	-	-	
SK161	S0514	E6	1	0.32	0.29	0.18	0.10	0.11	b	1層 A		無	不明	-	-	
SK162	S0515	E6	2	0.31	0.24	0.16	0.12	0.13	a	1層 A	>SK163	J	縄文早期	-	-	
SK163	S0516	E6	6	0.31	(0.21)	0.11	0.10	0.11	d	1層 A	SK162>	無	縄文	-	-	
SK164	S0518	E6	2	0.35	0.23	0.21	0.10	0.10	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK165	S0512	E6	5	0.74	0.47	0.24	0.14	0.20	g	2層 E	>SK167	J	縄文早期	25	-	
SK166	S0517	E6	1	0.28	0.25	0.14	0.12	0.14	d	2層 C		無	不明	-	-	
SK167	S0513	E-F6	1	(0.30)	0.37	0.21	0.14	0.10	a	1層 A	SK166>	無	縄文早期	26	-	
SK168	S0572	E7	2	0.48	0.33	0.20	0.17	0.17	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK169	S0575	E7	1	0.42	0.37	0.24	0.23	0.09	d	1層 A	>SK170	J	不明	-	-	
SK170	S0574	E7	5	0.62	(0.27)	0.07	0.05	0.12	a	1層 A	SK169>	J	不明	-	-	
SK171	S0565	E-F7	1	0.31	0.31	0.15	0.14	0.08	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK172	S0564	E-F7	1	0.32	0.28	0.10	0.09	0.13	e	2層 D		無	不明	-	-	
SK173	S0148	E9	1	0.36	0.35	0.18	0.12	0.10	e	1層 A		J	縄文	-	-	
SK174	S0141	E9	3	(0.76)	0.75	0.13	0.11	0.23	f	1層 A	J, Y	中世	39	-	-	
SK175	S0150	E9	1	0.26	0.26	0.11	0.10	0.15	e	1層 A		無	不明	-	-	
SK176	S0151	E9	1	0.30	(0.27)	0.12	0.12	0.25	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK177	S0083	E9-10	5	(0.75)	0.43	0.27	0.14	0.17	f	1層 A		J	縄文中期	-	-	
SK178	S0079	E10	1	0.40	0.34	0.23	0.18	0.08	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK179	S0082	E10	2	0.47	0.34	0.09	0.05	0.16	f	2層 C		無	不明	-	-	
SK180	S0081	E10	1	0.90	0.78	0.13	0.09	0.16	d	2層 C		J, Y	中世	39	-	-
SK181	S0069	E10-11	2	0.47	0.31	0.31	0.19	0.19	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK182	S0065	E11	1	0.36	0.35	0.20	(0.10)	0.12	d	1層 A	>SK183	無	不明	-	-	
SK183	S0087	E11	1	0.40	(0.30)	0.14	(0.13)	0.20	c	1層 A	SK182>	無	不明	-	-	
SK184	S0062	E11	2	0.62	0.45	0.48	(0.18)	0.08	a	1層 A	>SK185	S	縄文	26	-	-
SK185	S0063	E11	1	0.45	0.44	0.32	0.31	0.17	d	2層 D	SK184>	無	縄文	-	-	-
SK186	S0061	E11	6	0.36	(0.31)	0.10	0.10	0.13	a	1層 A		J	縄文中期	-	-	
SK187	S0421	F4	2	0.50	0.36	0.23	0.18	0.13	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK188	S0422	F4	1	0.34	0.33	0.09	0.08	0.16	f	1層 A	>SK189	無	不明	-	-	
SK189	S0423	F4	2	(0.40)	0.33	(0.33)	0.22	0.08	d	1層 A	SK188>	無	不明	-	-	
SK190	S0424	F4	2	0.26	(0.25)	(0.10)	0.13	0.13	b	2層 B		無	不明	-	-	
SK191	S0425	F4	4	0.88	0.58	0.41	0.23	0.17	d	2層 D	>SK117	無	不明	-	-	
SK192	S0427	F4	2	0.52	0.32	0.09	0.08	0.28	g	2層 B		無	不明	-	-	
SK193	S0426	F4-5	2	0.35	0.22	0.12	0.09	0.15	c	2層 D		無	不明	-	-	
SK194	S0429	F4-G5	1	0.48	0.42	0.07	0.05	0.13	g	1層 A		無	不明	-	-	
SK195	S0559	F4-5	1	(0.29)	0.28	0.10	0.10	0.12	a	2層 C	SK196>	無	不明	-	-	
SK196	S0435	F5	2	0.83	0.52	0.19	0.15	0.24	g	2層 D	>SK195, SK197	無	不明	-	-	
SK197	S0560	F5	2	0.57	0.32	0.10	0.10	0.15	a	2層 D	SK196>	無	不明	-	-	
SK198	S0438	F5	1	0.23	0.21	(0.10)	0.09	0.05	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK199	S0436	F5	1	0.41	0.40	0.19	(0.17)	0.18	a	2層 D	>SK200	J	縄文	-	-	
SK200	S0437	F5	1	(0.36)	0.34	0.14	0.14	0.12	d	1層 A	SK199>	無	縄文	-	-	
SK201	S0463	F5	1	0.22	0.21	0.09	0.08	0.07	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK202	S0464	F5	2	0.37	0.26	0.16	0.10	0.09	d	1層 A		無	不明	-	-	
SK203	S0434	F5	2	0.53	0.43	0.13	0.11	0.29	g	2層 E		無	不明	-	-	
SK204	S0444	F5	2	0.49	0.30	0.31	(0.26)	0.06	d	2層 B		無	不明	-	-	
SK205	S0445	F5	1	0.28	0.27	0.05	0.05	0.11	g	1層 A		無	不明	-	-	
SK206	S0440	F5	1	0.26	0.22	0.12	0.09	0.14	a	1層 A		無	不明	-	-	
SK207	S0441	F5	5	0.61	0.23	(0.14)	(0.10)	0.14	g	1層 A	>SK208	J	不明	-	-	
SK208	S0463	F5	1	0.23	(0.22)	(0.12)	(0.11)	0.21	a	1層 A	SK207>	無	縄文	-	-	

表16 土坑一覽(4)

遺構番号	段層遺構番号	調査年 '+'	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重組関係 ●●古	出土遺物	時代	所属 国庫
SK209	S0442	F6	2	0.30	0.23	0.10	0.10	0.16	c	2層 C			無不明	--
SK210	S0443	F6	1	0.25	0.23	0.11	0.10	0.09	a	2層 C			無不明	--
SK211	S0447	F6	2	0.29	0.24	0.10	0.09	0.12	a	1層 A	>SK212		無不明	--
SK212	S0451	F5	2	0.25	(0.17)	0.08	0.07	0.13	c	1層 A	SK211>		無不明	--
SK213	S0455	F5	2	0.71	0.46	0.18	0.13	0.27	c	1層 A	>SK214	J	縄文	--
SK214	S0456	F5	2	(0.62)	0.48	0.36	0.30	0.09	d	1層 A	SK213>		無不明	--
SK215	S0451	F5	2	0.31	0.24	0.14	0.11	0.10	d	2層 B			無不明	--
SK216	S0520	F5	2	0.43	0.33	0.16	(0.13)	0.14	d	2層 B	>SK217, SK218		無不明	--
SK217	S0521	F5	6	0.31	(0.26)	0.17	0.14	0.09	d	1層 A	SK216>		無不明	--
SK218	S0558	F5	1	0.25	(0.24)	0.08	0.08	0.18	a	2層 B	SK216>		無不明	--
SK219	S0454	F5	6	0.48	(0.35)	0.16	(0.10)	0.08	g	1層 A			無不明	--
SK220	S0453	F5	6	0.33	(0.26)	0.15	(0.12)	0.07	a	1層 A			無不明	--
SK221	S0447	F5	2	0.48	0.35	0.33	0.18	0.07	d	2層 C	>SK222		無不明	--
SK222	S0448	F5	2	(0.43)	0.35	0.22	0.21	0.10	d	1層 A	SK221>		無不明	--
SK223	S0449	F5	1	0.40	0.35	0.20	0.15	0.20	d	2層 C	>SK224		無不明	--
SK224	S0450	F5	6	0.28	(0.22)	(0.15)	(0.14)	0.14	a	3層 E	SK223>		無不明	--
SK225	S0452	F5	2	0.25	0.20	0.08	0.07	0.12	c	3層 E			無不明	--
SK226	S0458	F5	5	0.70	0.53	0.14	0.13	0.28	g	2層 E		J	縄文	--
SK227	S0460	F5	5	1.23	0.43	1.04	0.24	0.07	d	1層 A			無不明	--
SK228	S0522	F5-6	2	0.64	0.41	0.27	0.16	0.26	a	3層 D	>SK231		無不明	--
SK229	S0526	F6	6	0.50	(0.30)	0.10	0.09	0.15	g	2層 D			無不明	--
SK230	S0525	F6	1	0.39	0.36	0.09	0.08	0.12	a	1層 A	>SK231		無不明	--
SK231	S0579	F6	6	0.40	(0.27)	0.14	0.14	0.15	d	1層 A	SK238, SK230>		無不明	--
SK232	S0527	F6	1	0.35	0.33	0.11	0.10	0.13	c	1層 A			無不明	--
SK233	S0538	F6	2	0.82	0.62	0.18	0.13	0.17	g	2層 D			無不明	--
SK234	S0530	F6	6	(0.26)	0.25	0.15	0.12	0.10	d	1層 A			無不明	--
SK235	S0528	F6	1	0.37	0.34	0.20	0.17	0.14	d	1層 A			無不明	--
SK236	S0531	F6	1	(0.33)	0.30	0.18	0.17	0.16	d	2層 C			無不明	--
SK237	S0539	F6	2	(0.41)	0.33	0.16	0.14	0.09	a	1層 A			無不明	--
SK238	S0541	F6	1	0.34	(0.33)	0.10	0.09	0.06	g	1層 A			無不明	--
SK239	S0578	F6	1	0.44	0.38	0.17	0.14	0.15	a	1層 A	SK240>		無不明	--
SK240	S0534	F6	1	0.45	0.42	0.21	0.14	0.11	a	1層 A	>SK239	J	縄文	--
SK241	S0532	F6	2	0.43	0.32	0.28	0.20	0.09	d	1層 A	>SK242		無不明	--
SK242	S0533	F6	2	0.64	0.48	0.16	0.14	0.15	g	1層 A	SK241>		無不明	--
SK243	S0536	F6	2	0.54	0.41	0.17	0.11	0.17	a	1層 A			無不明	--
SK244	S0537	F6	2	0.36	0.28	0.20	0.14	0.09	d	2層 C			無不明	--
SK245	S0566	F7	1	0.44	0.38	0.27	0.21	0.08	d	2層 D			無不明	--
SK246	S0567	F7	2	0.78	0.55	0.13	0.12	0.13	g	2層 D		S	縄文	--
SK247	S0569	F7	2	0.45	0.23	0.18	0.11	0.14	a	2層 D	>SK248		無不明	--
SK248	S0570	F7	4	0.98	0.79	0.77	0.64	0.17	d	2層 C	SK247>		無不明	39
SK249	S0571	F7	2	0.74	0.33	0.37	0.15	0.15	a	2層 D			無不明	--
SK250	S0419	H4	1	0.32	0.31	0.11	0.10	0.26	c	1層 A			無不明	--
SK251	S0420	H4	2	0.36	0.28	0.13	0.12	0.15	c	2層 C			無不明	--
SK252	S0194	H4-15	2	2.36	1.42	0.31	0.27	0.43	g	3層 E	>SK253		無不明	40
SK253	S0418	H-14	2	1.18	(0.80)	0.34	(0.30)	0.29	g	2層 C	SK252>		無不明	40
SK254	S0311	H5	2	0.79	0.43	0.56	0.24	0.20	d	1層 A			無不明	--
SK255	S0399	H5	1	0.30	0.26	0.11	0.10	0.10	a	1層 A		S	縄文	--
SK256	S0312	H5	1	0.34	0.34	0.18	0.16	0.13	d	1層 A			無不明	--
SK257	S0301	H5	1	0.48	0.43	0.16	0.15	0.12	a	2層 C			無不明	--
SK258	S0398	H5	2	0.34	0.24	0.12	0.10	0.16	a	2層 D			無不明	--
SK259	S0303	H5	2	0.30	(0.22)	0.16	0.12	0.06	a	1層 A			無不明	--
SK260	S0304	H5	2	0.39	0.24	0.09	0.07	0.08	g	1層 A			無不明	--
SK261	S0305	H5	2	0.46	0.23	0.26	0.08	0.10	a	2層 C	>SK262		無不明	--
SK262	S0306	H5	1	(0.43)	0.37	0.23	0.22	0.08	a	1層 A	SK261>>SK263		無不明	--
SK263	S0307	H5	1	0.52	(0.46)	0.25	0.21	0.18	g	1層 A	SK262>>SK264		無不明	--
SK264	S0397	H5	6	0.25	(0.20)	(0.11)	0.10	0.10	c	1層 A	SK263>		無不明	--
SK265	S0308	H5	3	0.37	0.37	0.24	0.23	0.18	b	2層 D	>SK266		無不明	--
SK266	S0309	H5	6	0.26	(0.24)	(0.16)	0.14	0.12	d	2層 C	SK265>		無不明	--
SK267	S0403	H5	1	0.38	0.38	0.19	0.10	0.17	c	2層 D	>SK268		無不明	--
SK268	S0402	H5-6	6	0.40	(0.30)	0.09	0.07	0.20	g	2層 B	SK267>		無不明	--
SK269	S0364	H5-6	2	0.52	0.41	0.19	0.16	0.16	g	1層 A			無不明	--
SK270	S0363	H5-16	2	1.02	0.50	0.23	0.16	0.16	g	2層 C			無不明	--
SK271	S0361	H6	6	1.04	(0.56)	0.20	0.17	0.16	g	1層 A	>SK272	J	近世	--
SK272	S0362	H6	6	(0.52)	0.43	0.11	0.11	0.08	d	2層 D	SK271>	J, T	近世	--
SK273	S0407	H6	6	0.53	(0.36)	0.20	0.17	0.16	d	1層 A			無不明	--
SK274	S0359	H6	2	1.08	0.68	0.14	0.13	0.34	g	3層 E	>SK275	J	縄文	--
SK275	S0360	H6	5	0.59	(0.57)	0.18	0.12	0.18	g	2層 E	SK274>		無不明	--
SK276	S0367	H6	2	0.64	0.46	0.12	(0.10)	0.22	g	1層 A			無不明	--
SK277	S0368	H6	2	0.73	0.38	0.14	0.10	0.27	g	2層 B			無不明	--
SK278	S0369	H6	2	0.51	0.37	0.18	0.13	0.36	g	3層 E			無不明	--

表17 土坑一覧(5)

遺跡番号	坑番号	調査 時期	平面 形状	上端 長軸長	上端 短軸長	下端 長軸長	下端 短軸長	深さ	断面 形状	埋土	重要関係 跡・古	出土 遺物	時代	坑図	図版
SK279	S0376	H6	1	0.26	0.22	0.12	0.09	0.09	a	1層 A		無	不明	-	-
SK280	S0372	H6	2	0.92	0.46	0.38	0.14	0.16	a	3層 E		J	縄文中期	-	-
SK281	S0373	H6	2	0.46	0.28	0.32	0.17	0.10	d	1層 A		無	不明	-	-
SK282	S0371	H6	2	0.51	0.34	0.21	0.17	0.14	a	1層 A		無	不明	-	-
SK283	S0374	H6	5	0.52	0.28	0.08	(0.06)	0.13	g	2層 D		無	不明	-	-
SK284	S0370	H6-7	1	0.53	0.45	0.22	0.14	0.10	g	2層 C		J	縄文中期	26	-
SK285	S0375	H6-7	5	0.68	0.48	0.10	0.06	0.22	g	2層 C	>SK286	無	不明	-	-
SK286	S0409	H6-7	6	0.30	0.16	0.14	0.10	0.12	a	1層 A	SK285	無	不明	-	-
SK287	S0378	H7	2	0.65	0.51	0.22	0.20	0.18	c	1層 A	>SK288	無	縄文	-	-
SK288	S0379	G-H7	5	1.28	0.66	0.11	0.10	0.14	g	1層 A	SK287	J	縄文	-	-
SK289	S0384	H7	5	0.52	0.40	0.11	0.11	0.20	g	1層 A	>SK290	無	不明	-	-
SK290	S0385	H7	5	1.02	0.83	0.14	0.14	0.24	g	1層 A	SK289	J	縄文中期	27	-
SK291	S0383	H7	6	0.41	(0.40)	(0.30)	0.28	0.11	d	1層 A		無	不明	-	-
SK292	S0380	H7	1	0.31	0.28	0.13	0.10	0.17	a	2層 C		J	縄文	-	-
SK293	S0381	H7	1	0.31	(0.28)	0.11	0.11	0.19	a	2層 C		無	不明	-	-
SK294	S0382	H7	2	0.48	0.38	0.33	0.29	0.08	d	2層 D		無	不明	-	-
SK295	S0386	H7	2	0.28	0.22	0.12	0.08	0.13	a	2層 D		無	不明	-	-
SK296	S0388	H7	2	0.48	0.32	0.24	0.16	0.11	a	1層 A		無	不明	-	-
SK297	S0389	H7	1	1.28	0.25	0.16	0.15	0.13	a	1層 A	>SK298	無	不明	-	-
SK298	S0390	H7	2	1.04	0.52	0.78	0.17	0.10	a	2層 C	SK297	無	不明	-	-
SK299	S0391	H7	2	0.95	0.55	0.15	0.10	0.20	g	3層 E		J, S	縄文中期	27	-
SK300	S0392	H7	2	0.52	0.28	0.40	0.17	0.15	b	1層 A		無	不明	-	-
SK301	S0394	H7	2	0.36	0.29	0.13	0.10	0.13	c	1層 A	>SK304	無	不明	-	-
SK302	S0395	H-17	5	0.82	0.48	0.16	0.12	0.14	g	1層 A	SK304	無	不明	-	-
SK303	S0396	H7	2	0.38	0.30	0.12	0.11	0.18	c	2層 C		無	不明	-	-
SK304	S0315	H-17	2	1.02	0.54	0.09	(0.08)	0.16	g	1層 A	SK301, SK302	J	縄文	-	-
SK305	S0314	H-17	2	0.80	0.30	0.12	0.12	0.17	g	2層 D		無	不明	-	-
SK306	S0320	H-17	1	0.32	0.28	0.17	0.15	0.09	a	1層 A	SK302	無	不明	-	-
SK307	S0410	H8	2	0.34	(0.28)	0.15	(0.14)	0.11	a	1層 A		無	不明	-	-
SK308	S0413	H8	1	0.36	0.32	0.10	0.09	0.06	g	1層 A		無	不明	-	-
SK309	S0414	H8	1	0.38	0.37	0.14	0.12	0.14	a	1層 A		無	不明	-	-
SK310	S0416	H-18	1	0.28	0.24	0.10	0.09	0.05	a	1層 A		無	不明	-	-
SK311	S0198	I5	5	0.73	0.71	0.26	0.20	0.19	g	1層 A		無	不明	-	-
SK312	S0199	I5	2	0.42	0.32	0.21	0.15	0.10	a	1層 A		無	不明	-	-
SK313	S0206	I5	1	0.28	0.25	0.20	0.19	0.18	g	2層 C		無	不明	-	-
SK314	S0200	I5	2	(0.54)	0.40	0.32	0.25	0.20	a	2層 D		無	不明	-	-
SK315	S0203	I5	2	0.32	0.23	0.25	0.16	0.11	b	2層 B		無	不明	-	-
SK316	S0204	I5	1	0.29	0.28	0.12	0.09	0.26	b	2層 B		無	不明	-	-
SK317	S0205	I5	2	0.46	0.38	0.17	0.11	0.43	d	2層 C		無	不明	-	-
SK318	S0207	I5	2	0.45	0.36	0.27	0.20	0.22	d	2層 B		無	不明	-	-
SK319	S0208	I5	3	0.57	0.28	0.19	0.11	0.15	e	2層 C		無	不明	-	-
SK320	S0210	I5	2	0.58	0.45	0.09	0.05	0.16	g	2層 B		無	不明	-	-
SK321	S0201	I5	2	0.79	0.64	0.52	0.48	0.17	d	2層 B		無	不明	-	-
SK322	S0202	I5	1	0.78	0.67	0.25	0.25	0.32	f	2層 C		無	不明	-	-
SK323	S0236	I6-7	1	0.48	0.45	0.34	0.31	0.07	d	1層 A		無	不明	-	-
SK324	S0237	I6	1	0.48	0.44	0.26	0.20	0.12	d	2層 C		J	縄文	-	-
SK325	S0238	I6	4	0.68	0.43	0.25	0.19	0.11	d	2層 C		無	不明	-	-
SK326	S0239	I6-7	2	0.96	0.46	0.26	0.18	0.15	g	1層 A		J	縄文	-	-
SK327	S0240	I6	2	0.52	0.42	0.44	0.32	0.14	g	2層 C		無	不明	-	-
SK328	S0243	I6	1	0.33	0.32	0.13	0.12	0.27	e	2層 C		無	不明	-	-
SK329	S0244	I6	1	0.50	0.44	0.17	0.11	0.22	g	1層 A	>SK330	無	不明	-	-
SK330	S0297	I6	6	(0.96)	0.44	(0.51)	0.30	0.20	g	2層 B	SK329	無	不明	-	-
SK331	S0246	I6	2	0.31	0.23	0.14	0.13	0.06	a	1層 A		無	不明	-	-
SK332	S0247	I6-7	2	0.78	0.56	0.20	0.20	0.24	g	1層 A	SK364, SK333, SK341	無	縄文	-	-
SK333	S0248	I6	2	0.73	(0.80)	0.45	(0.40)	0.12	d	2層 C	SK332	無	縄文	-	-
SK334	S0249	I6	2	0.36	0.26	0.29	0.18	0.11	b	1層 A		無	不明	-	-
SK335	S0250	I6	1	0.28	0.27	0.17	0.16	0.09	d	2層 C	>SK336	無	不明	-	-
SK336	S0251	I6	1	0.44	(0.42)	0.15	0.11	0.12	g	1層 A	SK335	無	不明	-	-
SK337	S0245	I6	2	0.61	0.35	0.12	0.08	0.20	f	3層 E		無	不明	-	-
SK338	S0227	I-J6	1	0.32	0.28	0.18	(0.16)	0.09	d	1層 A		無	不明	-	-
SK339	S0229	I-J6	5	1.06	0.57	0.34	0.11	0.09	d	1層 A		無	不明	-	-
SK340	S0230	I6-7	5	1.11	0.54	0.50	0.28	0.19	g	2層 C	>SK341	J, S	縄文中期	-	-
SK341	S0339	I6-7	6	(0.53)	0.49	0.08	0.08	0.13	g	2層 E	SK332, SK340, SK364	無	縄文	-	-
SK342	S0313	I7	2	0.25	0.20	0.12	0.10	0.07	a	1層 A		無	不明	-	-
SK343	S0316	I7	2	0.90	0.52	0.55	0.28	0.12	d	1層 A		無	不明	-	-
SK344	S0317	I7	2	0.56	0.42	0.31	0.20	0.14	d	2層 D		無	不明	-	-
SK345	S0322	I7	2	0.30	0.22	0.15	0.12	0.13	c	1層 A	>SK346	無	不明	-	-
SK346	S0323	I7	2	(0.36)	0.28	0.21	0.14	0.09	a	1層 A	SK345	無	不明	-	-
SK347	S0324	I7	2	0.37	0.20	0.22	0.08	0.05	a	1層 A		無	不明	-	-
SK348	S0326	I7	1	0.22	0.20	0.11	0.10	0.08	a	1層 A		無	不明	-	-

表18 土坑一覽(6)

遺構番号	段標遺構番号	調査年次	平面形状	上端長軸長	上端短軸長	下端長軸長	下端短軸長	深さ	断面形状	埋土	重複関係 新●古	出土遺物	時代	所属 団地
SK349	SK025	17	2	0.33	0.26	0.22	0.16	0.07	d	2階 C			不明	--
SK350	SK029	17	5	0.54	0.34	0.20	0.11	0.13	g	1階 A	>SK351		不明	--
SK351	SK030	17	1	0.30	0.27	0.13	0.10	0.12	c	1階 A	>SK360		不明	--
SK352	SK031	17	1	0.28	0.26	0.18	0.14	0.06	d	1階 A			不明	--
SK353	SK033	17	1	0.40	(0.26)	0.21	(0.13)	0.06	b	1階 A	SA01-P4)		不明	--
SK354	SK028	17	2	0.41	0.33	0.11	0.11	0.12	g	2階 D		J,S	縄文	--
SK355	SK034	17	2	0.45	0.28	0.24	0.15	0.06	a	1階 A	>SK356		不明	--
SK356	SK035	17	6	0.41	0.39	0.18	0.16	0.10	g	1階 A	>SK355		不明	--
SK357	SK047	17	2	0.38	0.22	0.10	0.08	0.07	g	1階 A			不明	--
SK358	SK048	17	2	0.31	0.22	0.11	0.11	0.08	a	1階 A			不明	--
SK359	SK049	17	2	0.33	0.25	0.19	0.13	0.10	d	1階 A			不明	--
SK360	SK051	17	2	0.30	(0.23)	0.12	0.07	0.12	c	2階 C	SB02-P2)		不明	--
SK361	SK053	17	2	(0.41)	0.28	(0.32)	0.28	0.10	d	1階 A	SB02-P1)		不明	--
SK362	SK036	17	2	0.55	0.34	0.10	0.08	0.11	g	1階 A	>SK363		不明	--
SK363	SK037	17	2	(0.80)	0.36	0.68	0.21	0.06	d	1階 A	SK362)>SK364	J	縄文	--
SK364	SK038	17	2	1.34	0.74	0.42	0.35	0.13	g	1階 A	SK363)>SK332, SK341, SK365, SK366, SK376	J	縄文	--
SK365	SK040	17	6	(0.47)	0.21	0.36	0.11	0.08	a	1階 A	SK364)		縄文	--
SK366	SK041	17	1	0.41	(0.30)	0.14	0.12	0.18	g	1階 A	SK364)>SK367, SK370		縄文	--
SK367	SK042	17	2	0.54	(0.41)	0.22	0.16	0.14	g	1階 A	SK366)>SK368, SK369		縄文	27
SK368	SK043	17	1	(0.46)	0.49	0.29	0.27	0.11	a	2階 C	SK367)>SK369		縄文	--
SK369	SK044	17	6	0.49	0.38	0.41	0.26	0.07	d	2階 D	SK367, SK368)		縄文	--
SK370	SK045	17	2	0.34	0.19	0.18	0.08	0.08	a	1階 A			不明	--
SK371	SK046	17	2	0.41	0.32	0.20	0.17	0.11	a	1階 A			不明	--
SK372	SK021	17	2	(0.22)	0.20	0.09	0.05	0.07	a	1階 A	SK366)		不明	--
SK373	SK054	17	1	0.36	0.31	0.26	0.20	0.06	d	1階 A			不明	--
SK374	SK055	17	2	0.36	0.28	0.12	0.12	0.29	a	2階 C			不明	--
SK375	SK056	17	2	0.47	0.39	0.14	0.08	0.10	g	1階 A			不明	--
SK376	SK046	17	6	0.29	0.17	0.14	0.08	0.14	e	1階 A	SK364, SK366)		縄文	--
SK377	SK057	1-17	1	0.30	0.27	0.14	0.13	0.07	a	1階 A			不明	--
SK378	SK074	18	1	0.22	0.22	0.07	0.06	0.12	c	1階 A			不明	--
SK379	SK077	18	2	0.58	0.34	0.43	0.20	0.08	d	1階 A			不明	--
SK380	SK079	18	2	1.29	0.58	0.18	0.13	0.10	g	1階 A		J	縄文	--
SK381	SK073	18	2	0.46	0.30	0.06	0.06	0.09	g	1階 A			不明	--
SK382	SK072	18	1	0.28	0.26	0.11	0.10	0.08	a	2階 D			不明	--
SK383	SK071	18	2	0.39	0.22	0.10	0.08	0.21	c	1階 A			不明	--
SK384	SK083	18	2	0.25	0.20	0.10	0.09	0.09	e	1階 A			不明	--
SK385	SK082	18	2	0.27	0.21	0.17	0.14	0.04	d	1階 A			不明	--
SK386	SK084	18	1	0.17	0.15	0.10	0.08	0.08	a	1階 A			不明	--
SK387	SK086	18	2	0.57	0.45	0.11	0.10	0.18	g	2階 B	>SK397	J	縄文中期	--
SK388	SK087	18	6	0.41	0.34	0.12	(0.04)	0.14	e	1階 A	>SK389, SK397		不明	--
SK389	SK088	18	2	0.49	(0.38)	0.38	(0.31)	0.04	d	2階 C	SK388)		不明	--
SK390	SK098	18	6	0.28	(0.23)	(0.18)	(0.14)	0.17	d	1階 A	SK397)		不明	--
SK391	SK080	18	2	0.48	0.28	0.13	0.11	0.16	c	1階 C			不明	--
SK392	SK081	18	2	0.47	0.26	0.11	0.08	0.08	c	1階 A			不明	--
SK393	SK091	18	5	0.83	0.45	0.12	0.12	0.32	g	2階 E			不明	--
SK394	SK092	18	1	0.28	0.26	0.12	0.11	0.13	a	1階 A			不明	--
SK395	SK093	18	1	0.27	0.27	0.14	0.13	0.07	a	1階 A	>SK396		不明	--
SK396	SK094	18	1	0.48	(0.43)	0.31	0.11	0.09	g	1階 A	SK395)		不明	--
SK397	SK099	18	6	0.55	0.48	0.21	(0.13)	0.15	a	2階 C	SK387, SK388)>SK390		不明	--
SK398	SK099	19	1	0.46	0.46	0.20	0.12	0.11	e	1階 A	>SK399, SK400		不明	--
SK399	SK068	18-9	1	0.39	(0.38)	(0.25)	0.18	0.07	d	1階 A	SK396)		不明	--
SK400	SK070	19	2	0.58	0.27	0.14	0.12	0.09	g	1階 A	SK396)		不明	--
SK401	SK067	19	2	0.67	0.30	0.12	0.08	0.11	g	1階 A			不明	--
SK402	SK066	19	1	0.29	0.26	0.13	0.11	0.09	d	1階 A			不明	--
SK403	SK031	J7	2	0.43	0.21	0.39	0.12	0.11	b	2階 B		J	縄文	--
SK404	SK032	J7	1	0.44	0.38	0.13	0.10	0.14	D	2階 D			不明	--
SK405	SK034	J7-8	2	0.39	0.30	0.09	0.06	0.07	g	1階 A			不明	--
SK406	SK062	J8	2	1.39	1.06	0.49	0.39	0.32	a	1階 A			不明	40
SK407	SK061	J8-9	2	1.72	0.92	0.95	0.49	0.51	d	2階 C		S	縄文	27
SK408	SK0213	K7	2	0.73	0.33	0.19	0.17	0.10	g	2階 C			不明	--
SK409	SK0215	K7	1	0.20	0.20	0.11	0.11	0.15	d	1階 A			不明	--
SK410	SK0218	K7	1	(0.38)	0.33	0.20	0.18	0.25	b	3階 D			不明	--
SK411	SK0219	K7	1	0.32	0.28	0.21	0.19	0.07	a	2階 C			不明	--
SK412	SK057	J-K9	5	0.71	0.46	0.21	0.11	0.11	g	1階 A		J,H	古墳一古代	40

表19 縄文土器観察表(1)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層 位	口径 底径 器高	胎土	焼 成	色調		成形・調整 内面/外面 (断面)	文様	備考	排 出 No.	図 原 No.
								(内面)	(外面)					
1	657	中期 深鉢	SI01	a	-	密(径2cm以下の長石、石英を多く含む)	良好	10194/2 7.5YR5/4 10194/2		ナデ/捺糸文R1	刺突		13	11
2	666 061	中期 深鉢	SI01 D11	a II	-	密(径1cm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10198/3 5YR5/6 10194/1		ナデ/ナデ	沈線		13	11
3	619 620 622	中期 深鉢	SI01伊	3	20.0 -	やや粗(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10198/3 10197/3 10195/1		ヨコナデ/ヨコナデ	刺突文、陸帯、沈線	成状口縁	13	11
4	618	中期 深鉢	SI01伊	3	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10198/3 10197/3 10195/1		ヨコナデ/ナデ	なし	3と同一個体	13	11
5	621	中期 深鉢	SI01伊	3	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10194/1 2.5Y5/2 2.5Y5/1		ヨコナデ/ナデ	なし	3と同一個体	13	11
6	663 477	中期 深鉢	SI01 SK069	a a	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10195/1 10194/2 10194/2		ナデ、指オサエ/ナデ	沈線、陸帯、縄文LR		13	11
7	671	中期 深鉢	SI01	1	-	密(径2cm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む)	良好	10193/1 10196/4 2.5Y4/1		ナデ、指オサエ/ナデ	沈線、縄文LR	内面煤付着	13	11
8	686	中期 深鉢	SI01	1	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	7.5YR6/6 7.5YR5/6 7.5YR5/6		ヨコナデ/ヨコナデ	沈線		13	11
9	667	中期 深鉢	SI01	a	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5YR5/4 5YR5/3 5YR5/4		ナデ/ナデ	沈線、陸帯	内面煤付着、袋状口縁の把手	13	11
10	684	中期 深鉢	SI01	1	-	密(径6mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	5YR6/6 5YR5/6 10196/4		ヨコナデ/ヨコナデ	なし		13	11
11	665	中期 深鉢	SI01	a	12.0 -	密(径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10194/1 10194/2 10194/1		ナデ/ナデ	なし		13	11
12	662	中期 深鉢	SI01	a	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10193/1 10194/2 10193/1		ナデ/縄文LR	陸帯、沈線	外面煤付着	14	11
13	213	中期 深鉢	SI01	1	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10198/2 10197/2 10197/2		ナデ/縄文LR	陸帯、沈線	48、49、132～135と同一個体	14	11
14	443	中期 深鉢	SI01伊	2	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10198/4 10198/2 10195/1		ナデ/不明	陸帯、沈線		14	11
15	681	中期 深鉢	SI01	2	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7.5YR3/1 7.5YR4/2 7.5YR3/1		ヨコナデ/ナデ	沈線	内面煤付着	14	11
16	625	中期 深鉢	SI01	a	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	7.5YR6/3 7.5YR6/6 7.5YR6/6		ナデ、指オサエ/不明	円形の透孔 上下2段以上	脚台部	14	11
22	331	中期 深鉢	SP01	a	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	10198/3 10193/1 10195/1		ヨコナデ/ナデ	沈線		14	13
23	158	中期 深鉢	SK002	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10196/4 10196/6 7.5YR6/6		ヨコナデ/ヨコナデ	なし		15	14
24	158	中期 深鉢	SK002	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10197/3 7.5YR6/6 10196/2		ナデ/ナデ	沈線		15	15
27	309	中期 深鉢	SK023	1	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6 7.5YR6/6		ナデ/縄文LR	沈線、結節縄文		17	15
28	309	中期 深鉢	SK023	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10197/3 10196/3 10195/1		ヨコナデ/ナデ	結節縄文		17	16
30	170	中期 深鉢	SK029	1	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	2.5Y4/1 7.5YR5/4 10195/3		ヨコナデ/不明	沈線		17	15
31	150	中期 深鉢	SK039	c	-	やや粗(径1mm以下の長石、石英を多く含む)	良好	7.5YR7/6 2.5YR/2 2.5Y5/1		ヨコナデ/捺糸文R1	沈線		18	13
32	148	中期 深鉢	SK041	1	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10198/4 10197/6 10198/3		ヨコナデ、ケズリウ/ナデ	円形の透孔	脚台部	18	17

表20 縄文土器観察表(2)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層位	口径 底径 器高	胎土	焼成	色調		文様	備考	排 出 No.	図 版 No.
								(内面) (外面)	(外面) (断面)				
33	157	早期 深鉢	SK042	1	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10194/2 10197/3 10194/2	ナデ/ナデ	押型文(格子目文)		18	12
34	324	中期 深鉢	SK045	b	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10197/6 10198/4 2.519/2	ナデ/ナデ	陸帯、沈線、刺突		19	13
35	301	中期 深鉢	SK052	b	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10197/4 10197/4 10196/1	ナデ/ナデ	沈線		19	15
36	315	中期 深鉢	SK053	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5195/4 10193/2 10194/2	ヨコナデ/ヨコナデ	沈線、刺突		19	13
37	286	早期 深鉢	SK054	b	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	10196/3 10196/4 10195/2	ナデ/ナデ	押型文(格子目文)		20	12
38	286	早期 深鉢	SK054	b	-	密(径2mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10195/2 5196/6 7.5195/2	ナデ/ナデ	押型文(格子目文)		20	12
39	310	早期 深鉢	SK054	1	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10195/3 10193/2 10195/2	ナデ/不明	押型文(山形文)	外面煤付着	20	12
40	311	中期 深鉢	SK054	2	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10193/2 7.5195/3 7.5195/3	ヨコナデ/ナデ	沈線	内面煤付着	20	12
41	307	中期 深鉢	SK056	1	-	密(径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む)	良好	7.5197/3 10197/3 10197/3	ナデ/横糸文 Lr	沈線		20	13
42	240	早期 深鉢	SK062	a	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10197/2 5196/6 7.5197/4	ナデ/ナデ	押型文		20	12
44	476	中期 深鉢	SK069	a	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10193/1 10195/4 10193/1	ナデ/縄文LR	陸帯、沈線		20	14
45	478	中期 深鉢	SK069	a	-	やや粗(径8mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	7.5197/4 5196/6 7.5195/1	ナデ/ナデ	なし	内面焦げ付着	20	16
46	351	中期 深鉢	SK073	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10194/1 10195/2 10195/2	ヨコナデ/縄文LR	陸帯、沈線		20	13
47	351	中期 深鉢	SK073	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10196/4 10196/6 10195/2	ヨコナデ/ヨコナデ	沈線、縄文LR	皮状口縁	20	13
48	380	中期 深鉢	SK073	1	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10196/1 10196/3 10197/2	ナデ/縄文LR	陸帯、沈線	13、49、132~135と同一個体	20	15
49	351	中期 深鉢	SK073	1	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10195/2 10196/2 10196/1	ナデ/縄文LR	沈線	13、48、132~135と同一個体	20	16
50	347 348	中期 深鉢	SK073	a	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	7.5195/3 5196/6 7.5195/3	ナデ/不明	なし	網代痕	20	16
51	237 238	中期 深鉢	SK077	1+2	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7.5196/6 7.5196/6 7.5196/6	ヨコナデ/ナデ	陸帯、沈線、刺突		21	13
52	238	中期 深鉢	SK077	2	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5196/6 7.5196/6 10195/3	ヨコナデ/ナデ	陸帯、沈線		21	15
53	257	早期 深鉢	SK078	a	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10197/3 10196/4 10197/2	ナデ/不明	押型文(格子目文)		22	12
54	262	中期 深鉢	SK078	1	8.0	やや粗(径7mm以下の長石、石英、チャート、雲母を含む)	普通	10196/2 10198/4 10195/2	ナデ後ヨコ方 向ミガキ/ナ デ、ミガキ縄 文LR	なし	被熱により一部剥落	22	12
55	257	中期 浅鉢	SK078	a	-	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10194/2 10193/1 10194/4	ヨコナデ/縄文LR	なし	皮状口縁	22	17
57	226	早期 深鉢	SK098	a	-	やや粗(径5mm以下の長石、石英、チャートを含む)	普通	10196/3 10195/2 10195/2	ナデ/ナデ	押型文(山形文、山松文)	内面煤付着	22	12

表21 縄文土器観察表(3)

掲載 No.	整理 No.	時期 深鉢	地区 遺構	層 位	口径 底径 器高	胎土	焼 成	色調		文様	備考	排 出 No.	区 原 No.
								(内面) (外面) (断面)	成形・調整 内面/外面				
58	244	早期 深鉢	SK098	1	-	やや粗(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR4/2 10YR4/2 10YR5/2	ナゲ/ナゲ	押型文(山形文)		22	12
59	252	早期 深鉢	SK098	3	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR5/3 10YR3/2 10YR5/3	ナゲ/ナゲ	押型文(山形文)		22	12
60	199	早期 深鉢	SK100	1	-	やや粗(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10YR7/3 10YR2/2 10YR4/1	ナゲ/ナゲ	押型文(市松文)		23	12
61	192	中期 深鉢	SK101	a	-	密(径6mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR5/2 10YR5/2 10YR4/1	ヨコナゲ/ヨコナゲ	沈線		23	15
62	314	前期 深鉢	SK108	1	-	密(径1mm以下の砂類をわずかに含む)	良好	2.5Y5/2 10YR7/4 10YR5/1	ナゲ/ナゲ	沈線		24	12
63	173	前期 深鉢	SK110	1	-	やや粗(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10YR6/3 10YR6/2 10YR6/2	指オサエ、ヨコナゲ/ナゲ	突帯		24	12
64	194	中期 深鉢	SK110	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR7/6 7.5YR5/4 7.5YR7/6	ヨコナゲ/横糸文LR		内面煤付着	24	13
65	194	中期 深鉢	SK110	1	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/3 7.5YR6/6 10YR6/3	ヨコナゲ/ナゲ	沈線、結節調文	内面煤付着	24	15
66	194	中期 深鉢	SK110	1	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR5/4 7.5YR5/6 7.5YR5/6	ヨコナゲ/ナゲ	沈線	内面煤付着	24	15
67	167	中期 深鉢	SK116	1	-	密(径3mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10YR6/4 10YR8/4 10YR5/1	ナゲ/ナゲ	沈線、刺突		24	13
68	728	中期 深鉢	SK120	a	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR5/3 7.5YR5/6 10YR6/4	ナゲ/ナゲ	沈線、刺突		24	15
69	735	前期 深鉢	SK159	a	-	密(径1mm以下の長石、石英を多く含む)	良好	7.5YR5/4 7.5YR5/6 7.5YR5/2	ヨコナゲ/調文LR	突帯(C字押引)		25	12
70	745	早期 深鉢	SK165	1	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	2.5Y7/3 2.5Y6/3 2.5Y7/3	ナゲ/ナゲ	押型文(市松文)		25	12
72	571	中期 深鉢	SK284	1	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む)	良好	10YR6/6 7.5YR6/6 10YR6/2	ヨコナゲ/ヨコナゲ	結節調文	内面煤付着	26	14
73	576	前期 深鉢	SK290	a	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	5YR5/6 7.5YR5/4 10YR5/2	ナゲ/ヨコナゲ	突帯(C字押引)		27	12
74	576	中期 深鉢	SK290	a	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを含む)	普通	10YR7/4 10YR6/3 10YR5/1	ヨコナゲ/ナゲ	沈線		27	15
75	585	前期 深鉢	SK299	1	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む)	良好	10YR7/4 10YR7/4 10YR4/1	指オサエ、ナゲ/ナゲ	調文LR、突帯		27	12
76	585	中期 深鉢	SK299	1	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	10YR7/3 10YR7/4 10YR4/1	ナゲ/ナゲ	沈線		27	15
78	142	早期 深鉢	C10	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/2 10YR6/3 10YR5/2	ナゲ/ナゲ	押型文(市松文)		28	12
79	277	早期 深鉢	D8	I	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10YR6/2 10YR8/3 10YR2/1	ナゲ/ナゲ	押型文(市松文)	内面煤付着	28	12
80	070	早期 深鉢	E11	II	-	密(径1mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10YR6/1 10YR5/2 10YR3/1	ナゲ/不明	押型文(市松文)	外面煤付着	28	12
81	070	早期 深鉢	E11	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/3 2.5Y5/2 10YR5/1	ヨコナゲ/不明	押型文(格子目文)		28	12
82	054	前期 深鉢	C11	II	-	密(径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む)	良好	10YR7/4 10YR7/4 10YR5/1	ヨコナゲ/調文LR	突帯(刻み)		28	12
83	647 652	前期 深鉢	G6	I	-	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR7/3 10YR7/2 2.5YR3/3	指オサエ、ナゲ/調文LR	突帯		28	12

表22 縄文土器観察表(4)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層位	口径 底径 器高	胎土	焼成	色調		成形・調整 内面/外面 (断面)	文様	備考	排 出 No.	戻 度 No.	
								(内面)	(外面)						
84	647	前期 深鉢	G6	I	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を含む)	良好	7.5YR6/6 7.5YR5/4 10YR4/1		指オサエ後ヨコナデ/ナデ	刻み、縄文LR、RL	羽状縄文、内外面煤付着、85と同一	28	12	
85	647	前期 深鉢	G6	I	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む)	良好	5YR6/6 7.5YR6/4 10YR4/1		指オサエ後ナデ/ナデ	縄文LR、RL	羽状縄文、内外面煤付着、84と同一	28	12	
86	035	前期 深鉢	D7	I	-	密(径2.5mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	5YR4/4 5YR4/6 10YR5/2		ナデ/不明	突帯(C字押し)		28	12	
87	629	前期 鉢小	G6	I	-	密(径1mm以下の長石、雲母を多く含む)	良好	10YR4/4 10YR5/4 10YR5/4		ナデ/ヨコナデ	刻み	刻みに一部赤彩	28	12	
88	056	前期 深鉢	D11	II	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む)	良好	5YR5/6 5YR5/6 5YR5/6		ヨコナデ/不明	浮線文(刻み)		28	12	
89	121	前期 深鉢	E11	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	7.5YR6/6 7.5YR4/6 7.5YR5/2		ナデ/不明	浮線文(刻み)	外面煤付着	28	12	
90	481	前期 浅鉢	H7	II	-	密(径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR5/2 7.5YR5/4 10YR4/2			ミガキ/ミガキ	刻み	外面に赤彩	28	12
91	054	前期 浅鉢	C11	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5YR5/6 5YR5/6 2.5Y4/2		ヨコナデ/ヨコナデ	なし		28	12	
92	419	中期 浅鉢	J6	I	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR3/1 5YR5/4 7.5YR4/6		ミガキ/ミガキ	陸帯(C字押し)、沈線	内面に藍文	29	12	
93	542	中期 深鉢	-	I・II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR5/3 7.5YR5/3 10YR4/1		ヨコナデ/ヨコナデ	沈線		29	12	
94	542	中期 深鉢	-	I・II	-	密(径1mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	7.5YR7/4 7.5YR6/4 7.5YR5/1		ヨコナデ/ナデ	刺突	股状口縁	29	12	
95	084	中期 深鉢	D10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR5/3 7.5YR6/4 10YR5/2		ヨコナデ、指オサエ、ナデ/ナデ	沈線、押しきり沈線、縄文LR		29	13	
96	054	中期 深鉢	C11	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/3 10YR7/3 10YR7/2		ヨコナデ/ヨコナデ	沈線		29	13	
97	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR5/3 2.5Y6/4 2.5Y7/4		ヨコナデ/ヨコナデ、ナデ	沈線	股状口縁	29	13	
98	061	中期 深鉢	D11	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR6/2 10YR5/2 10YR6/1		ヨコナデ、指オサエ/ナデ	沈線、縄文LR	股状口縁	29	13	
99	055	中期 深鉢	D11	II	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	10YR8/4 10YR8/4 10YR7/1		ヨコナデ/不明	陸帯、沈線		29	13	
100	085	中期 深鉢	D10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR7/2 10YR5/1 2.5Y6/1		ヨコナデ/ナデ	陸帯、沈線		29	13	
101	060	中期 深鉢	H11	II	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む)	良好	10YR6/3 10YR7/3 10YR6/2		ヨコナデ/ヨコナデ	陸帯		29	13	
102	108	中期 深鉢	D11	II	-	密(径2mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10YR7/3 10YR6/3 10YR7/2		ヨコナデ/ヨコナデ	沈線		29	13	
103	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR7/2 10YR8/3 2.5Y4/1		ナデ/ナデ	沈線、縄文LR		29	13	
104	085	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	7.5YR8/4 7.5YR8/4 10YR4/1		ヨコナデ、ナデ/ヨコナデ	沈線、縄文LR		29	13	
105	054	中期 深鉢	C11	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR8/4 10YR7/4 2.5Y4/1		ヨコナデ、指ナデ/不明	沈線、陸帯、縄文LR、赤線		29	13	
106	051	中期 深鉢	D12	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR7/4 10YR7/4 10YR8/2		ヨコナデ/ナデ	縄文LR、陸帯、沈線	内面煤付着	29	13	

表23 縄文土器観察表(5)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層 位	口径 底径 器高	胎土	焼 成	色調		成形・調整 内面/外面	文様	備考	排 出 No.	区 原 No.
								(内面)	(外面) (断面)					
107	599	中期 深鉢	D12	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	不良	10185/3 10186/4 10186/2	ナゲ/ナゲ	沈線、隆帯 (格子目文)		29	13	
108	098	中期 深鉢	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5185/8 7.5186/6 10186/2	ヨコナデ/ヨ コナデ	沈線、隆帯、 刺突	109と同一個体	29	14	
109	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5185/8 10185/3 10185/2	ヨコナデ/ヨ コナデ、ナゲ	沈線、隆帯、 刺突	108と同一個体	29	14	
110	079	中期 深鉢	B12	I	-	やや粗(径3mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	7.5186/4 10185/3 10185/2	ナゲ/ナゲ	縄文LR、沈線		29	13	
111	069	中期 鉢	C10	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	7.5186/4 7.5185/4 10185/2	ナゲ/ナゲ	沈線、縄文LR	波状口縁	29	13	
112	178	中期 深鉢	D11	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	2.516/3 2.517/3 2.516/2	ヨコナデ/ヨ コナデ	沈線、縄文LR		29	13	
113	368	中期 深鉢	J7	I	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10187/4 10187/4 10185/1	ヨコナデ/ヨ コナデ	縄文LR、沈線		29	13	
114	084	中期 深鉢	D10	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	2.517/2 10188/2 2.517/1	ヨコナデ/ナ ゲ	沈線、刺突、 縄文LR	波状口縁	29	13	
115	080	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10187/4 10187/4 10186/2	ヨコナデ/ナ ゲ	縄文LR、沈線		29	13	
116	142	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5187/4 10186/3 10185/1	ヨコナデ/ナ ゲ	沈線、朱線	外面煤付着	29	14	
117	069	中期 深鉢	C10	II	25.6 -	やや粗(径5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10187/3 10185/2 10186/3	ヨコナデ/ナ ゲ	沈線、刺突	118と同一個体	29	14	
118	069	中期 深鉢	C10	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10186/3 10185/2 10186/3	ヨコナデ/ナ ゲ	沈線	117と同一個体	29	14	
119	054	中期 深鉢	C11	II	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5185/6 5185/6 5185/4	ヨコナデ/ヨ コナデ	沈線	波状口縁	29	14	
120	084	中期 深鉢	D10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、雲母を多く含む)	良好	5186/6 5186/4 10186/2	ナゲ/ナゲ	隆帯、沈線	袋状口縁	29	14	
121	051	中期 深鉢	D12	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5187/6 7.5187/4 7.5184/1	ヨコナデ/ヨ コナデ	なし		29	14	
122	068	中期 深鉢	C12	I	-	密(径6mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5186/6 10186/4 10185/2	ヨコナデ/ナ ゲ	縄文LR、沈 線、隆帯		29	14	
123	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7.5186/6 5186/6 10186/1	ヨコナデ/ナ ゲ	なし		29	14	
124	054	中期 深鉢	C11	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10186/6 10184/2 10186/4	ヨコナデ/ヨ コナデ	なし	外面煤付着	29	14	
125	069	中期 深鉢	C10	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、チャートを多く含む)	普通	10188/2 10185/2 10186/2	ナゲ/ナゲ	なし		29	14	
126	085	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10187/2 10187/3 10186/2	ヨコナデ/ヨ コナデ	なし		29	14	
127	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10187/4 10187/4 10186/2	ヨコナデ/柔 靱	刻み		30	14	
128	098	中期 深鉢	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10186/2 2.513/1 10186/2	ヨコナデ/縄 文LR	隆帯、沈線		30	14	
129	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10186/4 2.517/4 10185/2	ナゲ/ナゲ	縄文LR(結 節)、隆帯、沈 線	130と同一個体	30	14	
130	061	中期 深鉢	D11	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5185/2 10186/2 2.515/1	ナゲ/不明	隆帯、沈線、 縄文LR(結 節)	129と同一個体	30	14	

表24 縄文土器観察表(6)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層位	口径 底径 器高	胎土	焼成	色調		文様・調整 内面/外面 (断面)	文様	備考	挿 図 No.	図 版 No.
								(内面)	(外面)					
131	074	中期 深鉢	C10	II	-	やや粗(径7mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10196/3 10197/2 10197/2		ココナデ/縄文L	沈線、隆帯、結節縄文		30	14
132	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10197/2 10198/2 10198/2		ナデ、指オサエ/ナデ	縄文L、隆帯、沈線	内面煤付着、13, 48, 49, 133~135と同一個体	30	15
133	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10194/1 10197/2 10198/1		ココナデ/不明	隆帯、沈線、縄文L	13, 48, 49, 132, 134, 135と同一個体	30	15
134	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を含む)	良好	10197/2 10197/2 10197/1		ナデ、指オサエ/不明	隆帯、沈線、縄文L	13, 48, 49, 132, 133, 135と同一個体	30	15
135	085 099	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10197/2 10198/2 10198/1		ナデ/不明	隆帯、沈線、縄文L	13, 48, 49, 132~134と同一個体	30	15
136	099	中期 深鉢	D10	II	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7, 5196/6 7, 5196/6 10195/2		ナデ/不明	隆帯、沈線、条線		30	15
137	069	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英を多く含む)	良好	10197/4 10196/4 7, 5196/6		ココナデ/ナデ	隆帯		30	14
138	080	中期 深鉢	D10	II	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7, 5196/6 5195/6 10196/2		ココナデ/縄文L	縄文L(結節)、沈線		30	15
139	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	7, 5196/6 10197/4 10195/1		指オサエ、ミガキ/ナデ	縄文L(結節)、沈線		30	15
140	085	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10195/3 10196/4 10195/3		ナデ/ナデ	縄文L(結節)、沈線		30	15
141	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを含む)	普通	5195/6 7, 5196/6 10195/2		ミガキ/ナデ	沈線、縄文L(結節)		30	15
142	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7, 5195/3 5196/6 7, 5195/2		ココナデ/ナデ	沈線、縄文L(結節)	内面煤付着	30	15
143	051	中期 深鉢	D12	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10197/4 10197/4 10197/1		ココナデ/縄文L	沈線		30	15
144	075	中期 深鉢	C10	II	-	やや粗(径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	7, 5195/4 7, 5196/4 10194/2		ナデ/ナデ	縄文L	副代直	30	15
145	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7, 5196/6 7, 5196/4 10195/2		ココナデ/ナデ	沈線、条線	外面煤付着	30	16
146	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	2, 515/3 2, 515/2 2, 515/2		ココナデ/ナデ	沈線、条線		30	16
147	069	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、チャートを含む)	普通	10197/4 7, 5196/6 10195/2		ナデ/ナデ	沈線、条線		30	16
148	074	中期 深鉢	C10	II	-	密(径4mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	10197/4 10196/4 10195/2		ココナデ/ナデ	沈線、条線	外面煤付着	30	16
149	080	中期 深鉢	D10	II	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	7, 5196/6 10196/4 10195/2		ココナデ/ミガキ	沈線、条線		30	16
150	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10195/3 7, 5195/8 10195/3		ココナデ/ナデ	沈線		30	16
151	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10194/2 10195/3 10195/2		ナデ、指オサエ/ナデ	沈線		30	16
152	044	中期 深鉢	B12	I	-	密(径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む)	良好	7, 5197/6 10194/2 10194/1		ココナデ/ナデ	沈線	内面煤付着	30	16
153	055 089	中期 深鉢	D11	II	-	やや粗(径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	普通	10194/1 5196/6 7, 5194/1		ナデ/ナデ	沈線	内面煤付着、副代直	30	16
154	084	中期 深鉢	D10	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを含む)	良好	10195/2 10195/2 10194/2		ナデ、指オサエ/縄文L	沈線、刺突		31	16

表25 縄文土器観察表(7)

掲載 No.	整理 No.	時期 器種	地区 遺構	層 位	口径 底径 器高	胎土	焼 成	色調		成形・調整 内面/外面	文様	備考	排 戻 No.	戻 原 No.
								(内面)	(外面)					
155	009	中期 深鉢	C11	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR5/2 7.5YR5/4 7.5YR6/4	ココナダ/調文LR	沈線、結節調文	内面煤付着	31	16	
156	069	中期 深鉢	C10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む)	良好	5YR5/6 5YR5/4 5YR5/4	ミガキ/縄文LR	沈線、結節調文	外面煤付着	31	16	
157	644	中期 深鉢	E5	II	-	密(径2mm以下の長石、石英を多く含む)	良好	2.5Y7/3 10YR5/4 10YR5/1	ココナダ/ナデ	沈線		31	16	
158	075	中期 把手	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	10YR5/2 10YR5/3 10YR5/3	ナデ/ナデ	刺突		31	16	
159	142	中期 把手	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR7/4 10YR7/4 10YR5/2	ナデ/不明	刺突		31	16	
160	115	中期 把手	C11	II	-	密(径2mm以下の長石、雲母を多く含む)	良好	7.5YR5/4 7.5YR6/6 10YR6/3	ナデ/ナデ	刺突		31	16	
161	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/4 7.5YR6/6 7.5YR4/1	ナデ/ナデ	なし	内面煤付着、網代直	31	16	
162	138	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR6/6 7.5YR5/8 10YR5/3	ナデ/ナデ	なし	網代直	31	16	
163	075	中期 深鉢	C10	II	10.2	- やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10YR6/2 10YR6/4 7.5YR6/3	ナデ/ナデ	なし	網代直、外面煤付着	31	16	
164	009	中期 深鉢	C11	II	9.8	- 密(径6mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR5/4 7.5YR5/4 10YR5/2	ナデ/ナデ	なし	網代直	31	17	
165	075	中期 深鉢	C10	II	14.0	- やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	5YR5/8 5YR5/6 10YR5/2	ナデ/ナデ	なし	網代直	31	17	
166	074	中期 深鉢	C10	II	11.0	- やや粗(径6mm以下の長石、チャートを多く含む)	普通	10YR7/6 7.5YR6/4 10YR6/3	ナデ/ナデ	沈線		31	16	
167	074	中期 深鉢	C10	II	11.0	- やや粗(径5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	普通	10YR7/3 10YR7/4 10YR6/2	ココナダ/ココナデ	なし		31	16	
168	085	中期 深鉢	D10	II	-	密(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR7/6 10YR7/8 10YR7/6	ナデ、指オスエ/ナデ	透孔	脚台部	31	17	
169	085	中期 深鉢	D10	II	12.7	- やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	5YR6/8 7.5YR6/6 10YR6/6	ナデ/ナデ	隆帯	脚台部	31	17	
170	081	中期 浅鉢	D10	II	-	やや粗(径4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR7/8 10YR7/6 10YR5/2	ナデ/ナデ	なし		31	17	
171	069	中期 浅鉢	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6 10YR5/2	ミガキ/ココナデ	なし		31	17	
172	074	中期 浅鉢	C10	II	-	密(径1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む)	良好	10YR5/3 10YR7/4 10YR6/3	ミガキ/ナデ	なし		31	17	
173	075	中期 浅鉢	C10	II	-	密(径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む)	良好	7.5YR6/6 10YR6/4 10YR4/2	ナデ/ナデ	なし	外面煤付着	31	17	
174	545	中期 ミニ チュア	-	I・II	3.0	- 密(径2mm以下の長石、チャートを多く含む)	良好	10YR6/3 10YR5/3 10YR4/3	ナデ/ナデ	なし		31	17	

表26 古墳時代以降の土器観察表

掲載 No.	整理 No.	種別	器種	地区 遺構	層位	口径 底径 高さ	胎土	焼 成	色画	成形・調整 内面/外面 (断面)	備考	採 戻 No. No.
									(内面 外面) (断面)			
213	461	土師器	甕	SK412	a	-	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	7.5YR5/2 10YR5/2 10YR6/3	ハケ、ナデ、指ノサエ/ハケ		40 17
214	074	土師器	甕	C10	II	15.2 -	密(径3mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土、雲母を多く含む)	良好	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/4	ヨコナデ、ハケ、ナデ/ヨコナデ、ハケ		41 17
215	549	須恵器	坏	-	I・II	3.7 -	密(径2mm以下の長石を含む)	良好	10YR5/2 2.5YR/1 10YR5/2	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ		41 17
216	137	須恵器	坏	K8	I	4.0 -	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5YR/1 2.5YR/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕		41 17
217	546	山茶碗	碗	-	I・II	5.7 -	密(径4mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5YR/1 2.5YR/1 2.5YR/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕後ナデ	梅殻痕、自然軸	41 17
218	634	山茶碗	碗	E6	II	5.9 -	密(径1mm以下のチャートを含む)	良好	2.5YR/1 2.5YR/1 2.5YR/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	板圧痕、梅殻痕、自然軸	41 17
219	649	山茶碗	碗	G6	I	5.0 -	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5YR/1 2.5YR/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕ナデ	梅殻痕、自然軸	41 17
220	546	山茶碗	小皿	-	I・II	7.6 4.2 1.6	密(径1mm以下のチャートをわずかに含む)	良好	- 2.5Y7/1 2.5Y7/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	自然軸	41 17
012 451 463		山茶碗	碗	J8	I	13.8 5.0 6.0	密	良好	10YR8/1 10YR8/1 2.5YR/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	梅殻痕	41 18
222	372	山茶碗	碗	J6	I	13.7 5.0 5.9	密	良好	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/4	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	梅殻痕	41 18
223	372	山茶碗	碗	J6	I	14.0 5.0 6.5	密(径0.2mm以下の長石をわずかに含む)	不良	2.5YR/2 2.5YR/2 2.5YR/2	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕後ナデ	梅殻痕、内外面煤付着	41 18
224	388	山茶碗	碗	L7	I	13.6 5.2 5.7	密(径2mm以下のチャートをわずかに含む)	良好	2.5YR/2 2.5YR/2 2.5YR/2	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、回転糸切痕	梅殻痕、自然軸	41 18
225	504	山茶碗	碗	H7	II	4.8 -	密	良好	10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕後ナデ	鉄分付着、梅殻痕	41 18
226	520	山茶碗	碗	H7	II	4.7 -	密	良好	2.5YR/1 2.5YR/1 2.5YR/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	梅殻痕、板圧痕	41 18
227	458	山茶碗	碗	J8	I	4.6 -	密(径4mm以下の、チャートをわずかに含む)	良好	2.5YR/2 2.5YR/2 2.5YR/2	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕後ナデ	自然軸、墨書	41 18
228	006	山茶碗	小皿	-	I	7.0 3.6 1.5	密(径0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕		41 18
229	020	山茶碗	小皿	-	I	7.8 5.2 1.35	密(径0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR7/1 10YR7/1 10YR7/1	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕		41 18
230	221	山茶碗	小皿	D8	I	7.2 4.0 0.8	密	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 N8/0	ロクロナデ、静止指ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	板圧痕	41 18
231	280	山茶碗	小皿	E9	I	8.0 4.8 1.65	密(径0.5mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5Y7/2 2.5Y7/2 2.5Y7/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕		41 18
232	495	山茶碗	小皿	H7	II	7.8 4.0 1.3	密	良好	2.5YR/1 2.5YR/2 2.5YR/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	自然軸	41 18
233	734	山茶碗	小皿	E7	I	8.1 4.8 1.2	密	良好	2.5YR/2 2.5YR/1 2.5Y7/1	ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	板圧痕、自然軸	41 18
234	660	山茶碗	碗	G7	I	3.4 -	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	2.5YR/2 2.5YR/2 2.5YR/2	ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、回転糸切痕	梅殻痕	41 18
235	613	山茶碗	碗	G4	I	5.0 -	密(径1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	ロクロナデ/ロクロナデ、回転糸切痕		41 18
236	578	陶器	丸碗	G2	I	5.3 -	密	良好	- (軸: 5Y3/1) 2.5YR/2 (脚: 5Y3/1) 2.5YR/2	ロクロナデ/ロクロナデ、回転ヘラケズリ	鉄軸	41 18

表27 石礎一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	快深	先端角	折損部位	形態			挿図	図版	備考
												基部	側縁	膝部			
17	683	S101	I	下呂石	1.8	(1.3)	0.4	0.5	0.2	50°	b	1a	1b	2a	14	19	
18	474	S101伊	3	チャート	(1.2)	1.4	0.3	0.5	0.2	-	a	1a	2a	1b	14	19	
19	668	S101	b	チャート	(1.6)	1.7	0.3	0.7	0.5	-	a	1b	1a	1b	14	19	
20	410	S101伊	a	チャート	(1.9)	2.1	0.5	2.1	-	-	a	2	2a	-	14	19	
25	168-1	SK002	I	下呂石	(2.7)	(1.4)	0.3	1.1	-	55°	g	1b	1a	-	15	19	
43	239-1	SK062	a	黒曜石	(1.8)	(1.0)	0.2	0.3	0.8	-	e	1c	1a	1a	20	19	
175	543-3	-	I・II	チャート	1.3	1.1	0.2	0.4	0.1	60°	-	1a	2a	-	32	19	両面に素材面
176	552-1	-	I・II	下呂石	1.4	(1.2)	0.3	0.3	0.2	60°	b	1a	2b	1a	32	19	両面に素材面
177	78-1	D10	II	黒曜石	(1.3)	1.5	0.3	0.2	0.3	55°	a	1b	1a	1a	32	19	
178	50-3	D11	II	チャート	1.9	1.7	0.3	0.9	0.5	65°	-	1b	2a	1b	32	19	
179	59-1	D11	II	黒曜石	(2.2)	(1.8)	0.3	0.9	0.3	40°	e	1b	1a	1a	32	19	
180	249-1	C10	II	チャート	2.0	(1.3)	0.4	0.7	0.5	34°	b	1c	1a	1a	32	19	
181	707-1	F7	I	チャート	2.0	(1.7)	0.4	0.7	0.6	50°	b	1c	1a	1a	32	19	
182	543-4	-	I・II	チャート	(1.8)	(1.3)	0.2	0.4	(0.5)	55°	g	1d	1b	-	32	19	
183	50-2	D11	II	チャート	1.6	1.5	0.4	1.2	-	76°	-	2	2a	-	32	19	両面に素材面
184	543-2	-	I・II	チャート	2.1	1.8	0.4	2.3	-	80°	-	2	2a	-	32	19	両面に素材面
185	722-1	F8	I	チャート	2.2	(1.3)	0.2	0.8	-	60°	f	2	2a	-	32	19	
-	542-132	-	I・II	黒曜石	(0.8)	(1.1)	0.3	0.4	-	-	c	-	-	-	-	-	
-	656-1	S101	a	黒曜石	(1.0)	(1.3)	0.2	0.3	-	-	e	-	1b	-	-	-	
-	688	S101	2	チャート	(1.0)	(0.6)	0.2	0.1	-	-	c	-	-	1b	-	-	
-	673	G7	I	安山岩	(2.0)	(1.7)	0.5	1.7	0.4	-	e	1b	2a	2a	-	-	粗い調整

表28 石礎一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	膝部						素材形状	折損	挿図	図版
									長さ	幅	厚さ	先端角	断面形	摩耗				
26	302	SN010	a	下呂石	1.9	1.2	0.2	0.5	0.9	0.6	0.2	35°	三角形	無	縦長	無	16	19
186	542-131	-	I・II	チャート	3.7	1.8	0.6	4.7	0.6	0.6	0.4	45°	六角形	磨減	縦長	無	32	19
187	87-1	E10	II	チャート	4.1	2.0	1.1	6.2	0.8	1.0	0.4	70°	三角形	無	縦長	無	32	19
188	539-1	G8	I	チャート	(1.4)	0.9	0.3	0.7	(0.5)	0.5	0.3	25°	菱形	無	不明	有	32	19
-	550-2	G8	I	チャート	3.5	1.3	0.4	1.9	0.4	0.5	0.2	55°	菱形	磨減	縦長	無	-	-

表29 スクレイパー一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	刃部				素材形状	挿図	図版		
									数	位置	形態	調整				長さ	刃角
189	494-1	H7	II	チャート	6.6	2.8	0.9	23.0	2	側辺 基部	直線的	背面	4.0	45°	縦長	33	19
190	542-134	-	I・II	チャート	3.2	(2.6)	1.0	9.0	2	側辺 基部	外湾 直線的	裏面	1.6	60°	縦長	33	19
191	640	F6	II	チャート	3.1	6.5	0.8	17.6	1	末端辺	外湾	両面	6.1	55°	横長	33	19
-	78-5	D10	II	チャート	2.9	1.4	0.7	3.0	2	側辺	内湾	背面	0.8	73°	縦長	-	-
-	509-1	-	I・II	チャート	5.7	3.1	1.8	35.1	2	側辺	側辺	背面	2.4	70°	縦長	-	-
										側辺	外湾	両面	4.1	68°			
										側辺	直線的	両面	4.5	66°			

表30 楔形石器一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	階段状刻痕 長さ					押痕	図版	備考
									数	上	下	左	右			
192	225	E8	I	チャート	3.1	2.9	1.3	13.3	1	1.9	-	-	-	33	19	上端に階段状刻痕

表31 打製石斧一覧

掲載No.	整理No.	形態	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	欠損	刃部					押痕	図版	
											形態	幅	刃角	摩耗	刃鋭			磨痕
193	試験9-39	I	TP18	II	泥岩	10.3	2.9	1.2	57.5	無	4	2.9	52°	有	無	無	33	20
194	67	1	C12	I	泥岩	9.1	2.8	0.6	24.1	無	4	2.4	50°	有	有	無	33	20
195	50-1	1	D11	II	泥岩	10.8	4.0	1.3	84.8	無	3	3.4	45°	有	無	無	33	20
196	494-2	1	H7	II	泥岩 (11.1)	4.4	1.4	1.4	81.1	基部	2	4.0	48°	有	有	無	33	20
197	574	1	G8	I	泥岩	10	3.9	1.5	89.2	無	2	3.9	60°	有	有	無	33	20
198	365	1	K7	I	泥岩	9.3	4.0	0.9	56.7	無	1	3.8	55°	有	無	無	33	20
											2	3.8	50°					
199	33	1	B12	I	泥岩 (8.9)	(4.7)	2.1	119.5	刃部	不明	-	-	-	-	-	-	34	20
200	78-4	2	D10	II	泥岩	6.8	3.7	0.9	32.6	無	2	3.4	60°	有	有	無	34	20
201	550-1	0	G8	I	泥岩 (8.8)	(4.0)	(0.8)	43.0	基部	4	4.0	60°	有	有	有	有	34	20
-	試験9-38	0	TP18	II	泥岩 (11.2)	(3.1)	(0.7)	30.0	一部残	不明	-	-	-	-	-	-	-	-
-	19	1	-	I	泥岩 (11.7)	(3.9)	1.8	124.8	基部	4	3.9	65°	有	有	無	-	-	
-	22-1	0	-	I	泥岩 (10.8)	(4.4)	(0.6)	39.1	基部	2	4.5	45°	有	無	無	-	-	
-	22-2	0	-	I	泥岩 (7.0)	(4.1)	1.2	43.0	一部残	不明	-	-	-	-	-	-	-	
-	78-2	1	D10	II	泥岩 (8.5)	4.2	1.2	76.9	刃部	不明	-	-	-	-	-	-	-	
-	83-1	1	C10	II	泥岩	8.3	3.5	0.9	36.8	無	3	3.1	50°	有	無	無	-	-
-	83-2	0	C10	II	泥岩 (6.1)	(3.0)	(0.6)	16.6	一部残	不明	-	-	-	-	-	-	-	
-	206	1	E9	II	泥岩 (9.8)	(3.8)	1.1	68.4	一部残	不明	-	-	-	-	-	-	-	
-	383	0	I5	I	泥岩 (4.1)	(2.6)	(0.6)	6.3	一部残	不明	-	-	-	-	-	-	-	

表32 石核一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	自然面	踏面	打面数	打面の状態	作業面数	素材	押痕	図版
202	373	新	I	黒曜石	1.8	3.0	1.8	8.9	有	無	1	剥離面を打面とし、90°移動させて作業面を2面持つ。	2	剥片	34	19

表33 調整剥離を施す剥片 (RF) 一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	刃部					素材形状	押痕	図版	
									数	位置	調整	形態	長さ				刃角
21	664	SI01	a	チャート	3.9	3.0	0.9	11.3	1	側辺	側面	直線的	1.8	82°	縦長	14	19
77	587	SK299	I	チャート	4.6	2.1	0.7	9.9	1	末端辺	両面	直線的	1.7	60°	不明	27	19
203	50-5	D11	II	チャート	2.2	1.2	0.7	1.8	2	末端辺	側面	外湾	2.2	50°	不明	34	19
										側辺	側面	直線的	1.2	49°			
-	78-6	D10	II	黒曜石	2.1	1.4	0.4	1.6	2	末端辺	側面	外湾	1.1	40°	不明	-	-
-	259-2	SK078	a	チャート	2.3	1.0	0.9	7.6	1	不明	両面	外湾	2.3	72°	不明	-	-
-	370	J7	I	チャート	4.5	1.6	0.8	7.1	1	不明	側面	直線的	0.8	75°	不明	-	-
-	480	18	II	チャート	1.9	2.4	1.5	4.2	2	不明	側面	直線的	1.4	72°	不明	-	-
												外湾	2.4	52°			

表34 微細な剥離痕を有する剥片 (MF) 一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	刃部					素材形状	挿国	図版	
									数	位置	方向	形態	長さ				刃角
56	259-1	SK078	a	チャート	2.5	3.0	1.1	5.7	1	末端辺	両面	外湾	2.4	18°	縦長	22	19
71	171	SK184	a	チャート	3.1	2.4	0.9	4.5	1	側辺	背面	直線的	3.1	25°	縦長	26	19
204	10	-	II	チャート	2.1	1.4	0.3	1.1	2	末端辺	背面	外湾	2.0	19°	縦長	34	19
									側辺	外湾		2.0	20°				
205	87-2	E10	II	下呂石	4.9	1.6	0.9	4.9	1	側辺	腹面	外湾	2.6	37°	縦長	34	19
206	50-6	D11	II	チャート	4.0	3.2	1.1	12.1	1	側辺	両面	内湾	2.2	32°	縦長	34	19
207	127	D11	II	チャート	2.7	3.2	1.2	7.7	2	側辺	背面	直線的	2.6	22°	縦長	34	19
									側辺	外湾		1.3	27°				
208	220-1	D8	I	チャート	2.4	3.6	1.0	7.4	1	末端辺	両面	直線的	3.1	27°	横長	34	19
-	46-1	D11	II	チャート	2.4	2.0	0.5	3.2	1	末端辺	背面	内湾	2.6	22°	横長	-	-
-	50-4	D11	II	チャート	3.9	4.5	1.0	15.3	1	側辺	両面	外湾	1.5	44°	横長	-	-
-	78-3	D10	II	チャート	4.1	4.3	1.4	22.9	1	末端辺	両面	直線的	2.5	32°	横長	-	-
-	87-3	E10	II	チャート	2.3	2.2	0.5	3	1	末端辺	両面	直線的	2.4	43°	縦長	-	-

表35 磨石類一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	形状	使用痕		折損	挿国	図版
										平坦面	側面			
29	291	SK027	I	砂岩	11.9	10.3	4.9	892.5	円形	磨面	無し	完形	17	20
209	290	C11	I・II	安山岩	12.5	10.4	6.8	1,159.0	楕円形	敲打痕	潰れ状の敲打痕	完形	35	20
210	143	C10	II	安山岩	12.3	12.1	6.5	1,400.0	円形	磨面	敲打痕	完形	35	20
211	116-2	C11	II	安山岩	5.9	4.8	2.8	125.5	楕円形	無し	敲打痕	完形	35	20
212	116-1	C11	II	安山岩	11.1	5.9	4.7	442.5	楕円形	敲打痕	無し	完形	35	20
-	140-1	D10	II	砂岩	(3.1)	(4.3)	(1.9)	23.3	不明	磨面	敲打痕	破片	-	-

表36 銭貨一覧

掲載No.	整理No.	地区遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	挿国	図版
237	593	G3	I	2.6	2.6	0.1	3.1	「寛永通宝」孔(10.6cm×0.6cm)の方形	41	18

## 第4章 総括

今回の発掘調査では、縄文時代から近世に至る遺構や遺物を検出した。この中で、遺構数や遺物量が多かった縄文時代中期後葉について、堅穴建物の特徴や石器について検討し、各時代の土地利用の変遷を概観して総括とする。

### 1 堅穴建物

瑞浪市内では初めての検出例となる、縄文時代中期後葉の堅穴建物を1軒検出した。この堅穴建物(SI01)は、長軸長3.75m、短軸長2.94mとやや小型で、平面形と柱穴の配置に特徴がある。石囲炉が平面形に対してやや北側に位置することから、入り口が南辺側に位置すると想定し、南北方向の長軸がこの堅穴建物の主軸と考える。平面形は、よく見られる円形や方形ではなく、両者を合わせたような形で、東半分が円形、西半分が方形となるような、やや歪な形である。円形の一部を直線的にする事例はよく見られるが、主軸に対して非対称な平面形となるものは、あまり多くない。また、柱穴はP1~P4の4箇所と考えられるが、この配置が長方形とはならず、P4が南側にずれた位置となる。しかし、P1とP3、P2とP4を結ぶ線は、主軸と並行している。

岐阜県美濃地方では、この時期の堅穴建物は数多く確認されている<sup>1)</sup>が、SI01との比較検討のため、あらためて木曾川流域、土岐川流域の堅穴建物を集成した(図52、表37・38)。その結果、発掘調査に

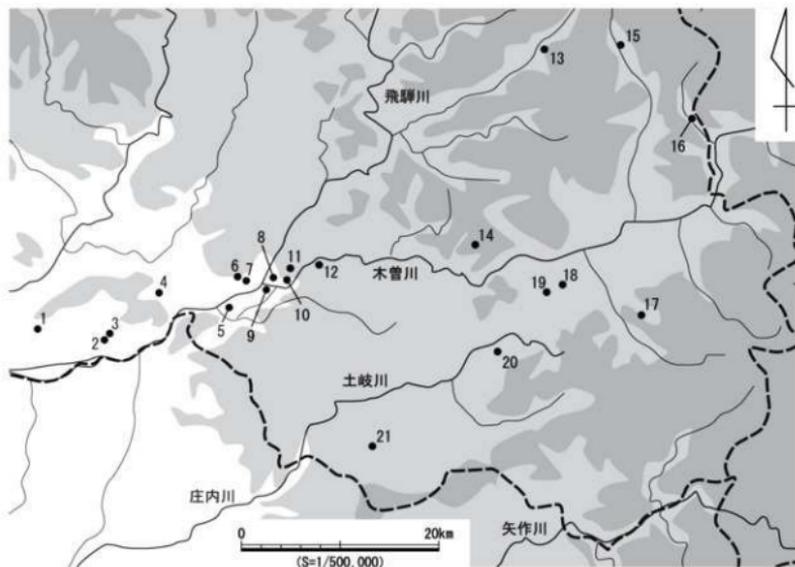


図52 堅穴建物検出遺跡位置図

表37 縄文時代中期後葉の竪穴建物一覧(1)

No.	遺跡名	所在地	遺構番号	平面形	規模(m)	柱穴数	柱穴配置	伊	備考
1	六軒	各務原市郡加町	1号住	方形	3.3 × 3	2以上	e	土器敷伊	竪穴周囲に小穴あり
			2号住	多角形	3.5 × 3.6	4?	e	地床伊	2軒重複の可能性
2	三ツ池	各務原市鶴留	1号住	方形	4.7 × 4.6	4	a1	方形石圍伊	
3	伊畑	各務原市鶴留	1号住	円形	6.9 × 7.2	6	b1	石圍伊	伊内土器敷
			2号住	不整形	6 × 5.5	4	b1	方形石圍伊	
			3号住	不整形円形	4.5 × 4.5	5	e	方形石圍伊	
			4号住	長方形	7 × 6	6	b1	方形石圍伊	埋燬、拡張住居、副伊に埋燬伊
			5号住	方形	3.2 × 3.9	4	e	地床伊	地床伊2ヶ所
			6号住	方形	6 × 5	4	a1	石圍伊	埋燬、伊内土器敷、西壁近くにも伊
			7号住	方形	5.5 × 6	不明	d	地床伊	8号住より古
			8号住	方形	5.7 × 5.7	2以上	d	方形石圍伊	拡張住居
			9号住	長方形	6 × 5	2以上	d	不明	
			10号住	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	敷石住居?プラン不明
4	東野	加茂郡坂祝町	SB1	不明	5.45 × 不明	4?	d	不明	拡張住居
			SI01	長方形	4.55 × 4.04	4?	d	石圍伊	壁際に立石
			SI06	方形	4.64 × 4.61	4	a1	地床伊	埋燬
			SI36	方形?	不明 × 不明	1以上	d	不明	
			SI39	方形?	4.77 × 不明	1以上	d	不明	
			SI40	方形	4.92 × 4.48	3以上	d	方形石圍伊	埋燬
			SI43	不明	不明 × 不明	1以上	d	不明	
			SI46	方形?	不明 × 不明	2以上	d	石圍伊?	
			SB1	方形?	不明 × 不明	2以上	d	円形石圍伊	埋燬
			SB2	方形	6.28 × 6.08	3以上	d	方形石圍伊	埋燬2基
5	宿	可児市土田	SB1	方形?	不明 × 不明	2以上	d	円形石圍伊	埋燬
6	特迫岡	美濃加茂市田島町	住居址	楕円形	3.5 × 3	6	e	方形石圍伊	伊内土器敷
7	野嶽	美濃加茂市野嶽町	SB14	楕円形	4.5 × 3.8	4	a1	地床伊	
			SB16	不明	不明 × 不明	4以上	d	方形石圍伊	
8	牧野小山	美濃加茂市牧野小山	1号住	不整形円形	6.1 × 5.9	5	e	地床伊	
			3号住	円形	3.3 × 3.3	3	d	方形石圍伊	埋燬
			4号住	不明	4 × 不明	不明	d	不明	一部のみ検出
			5号住	不明	不明 × 不明	不明	d	不明	一部のみ検出
			6号住	円形	不明 × 不明	4	e	方形石圍伊	
			7号住	不整形円形	3.4 × 不明	4	e	方形石圍伊	8号住と重複
			8号住	不整形方形	4.5 × 3.5	4	a1	方形石圍伊	7号住と重複
			9号住	方形	5.6 × 不明	2以上	d	石圍伊	伊内土器敷、埋燬
			10号住	不明	不明 × 不明	不明	d	不明	一部のみ検出
			11号住	円形	4.2 × 4.2	不明	d	なし	
9	宮之脇	可児市川合	19号住	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	
			SB4	不整形円形	5 × 5.2	4	b1	方形石圍伊	B地点、埋燬、副伊
			SB5	不整形円形	5 × 5	4	e	方形石圍伊	B地点、副伊
			SB6	長方形	5.6 × 4.8	4	a1	円形石圍伊	B地点
			SB7	円形	6.4 × 6.4	4	a2	円形石圍伊	B地点
			SB8	円形	5 × 5	4	c	不明	B地点
			SB9	不整形方形	5.9 × 5.6	4	a1	石圍伊	B地点、埋燬2基
			SB10	長方形	4.6 × 4.1	4	a1	方形石圍伊	B地点、埋燬
			SB11	長方形	4.8 × 4.3	4	b1	円形石圍伊	B地点
			SB12	長方形	5.7 × 4.1	6	b1	方形石圍伊	B地点、埋燬、拡張住居
			SB13新	楕円形	5.6 × 5.8	4	a1	石圍伊	B地点、立石
			SB13中	円形	5.6 × 5.8	4	a1	石圍伊	B地点、SB13古と同じ伊、立石
			SB13古	円形	5 × 5.6	4	a1	方形石圍伊	B地点、埋燬、立石
			SB15	不整形方形	4.2 × 4	4	b1	円形石圍伊	B地点、埋燬
			SB16古	方形	5.3 × 4.8	4	e	不明	B地点、埋燬
			SB16中	方形	6.7 × 6.2	4	b1	石圍伊?	B地点、埋燬
			SB16新	方形	6.7 × 6.2	6	b1	円形石圍伊	B地点、埋燬、副伊
			SB21	不明	不明 × 不明	5以上	e	地床伊	B地点、一部検出、壁際に柱穴
			SR22古	円形	5.2 × 5.2	4	a1	方形石圍伊	B地点
			SR22新	円形	5.2 × 5.2	5	b1	方形石圍伊	B地点
SR23	楕円形	3.8 × 3	4	e	方形石圍伊	B地点			

表38 縄文時代中期後葉の竪穴建物一覧(2)

No.	遺跡名	所在地	遺構番号	平面形	規模(m)	柱穴数	柱穴配置	伊	備考
9	宮之島	可児市土川	SR24	円形?	不明 × 不明	4	c	地床伊	B地点、埋燬
			SR26	楕円形	5.4 × 4.42	不明	d	円形石圍伊	B地点、柱穴なし
			SR27	円形	4 × 4	1	c	なし	B地点、竪穴外に小穴巡る
			SR28	方形	4.5 × 4.3	4	a1	方形石圍伊	B地点
			SR19	不整形円形	4 × 3.8	4	a2	方形石圍伊	A地点
			SR25古	方形	3.8 × 3.5	4	a1	方形石圍伊	A地点、伊内竪敷
			SR25新	不整形方形	4.3 × 4	4	b1	方形石圍伊	A地点、伊内竪敷
			SBS3	方形	2.9 × 2.9	4?	c	地床伊	A地点
10	神明	美濃加茂市牧野	第1号竪穴	円形?	不明 × 不明	不明	d	円形石圍伊	部分調査
			第2号竪穴	不明	不明 × 不明	不明	d	不明	部分調査、埋燬
			第3号竪穴	円形?	不明 × 不明	不明	d	円形石圍伊	部分調査
			第4号竪穴	方形?	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	部分調査
11	造道	加茂郡八百津町	住居址	楕円形	5.6 × 4.6	2?	c	なし	竪穴外に小穴巡る
			加茂郡八百津町	住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊
13	隙地	加茂郡東白川村	1号住居跡	円形	4.7 × 4.6	4	a1	方形石圍伊	埋燬
			2号住居跡	多角形	3.4 × 3.3	4	a1	方形石圍伊	
14	鹿路山	恵那市飯地町	竪穴住居址	円形	5 × 不明	2以上	d	地床伊	喪失住居
15	尾ヶ平	中津川市付知町	4号住居址	円形	3.6 × 3.6	4以上	d	方形い	竪穴外に小穴巡る
			10号住居址	不整形方形	4 × 4	不明	d	なし	
			11号住居址	方形?	4 × 不明	2以上	d	不明	
16	門垣戸	中津川市坂下町	1号住居址	円形	4 × 4	4?	d	方形石圍伊	埋燬
			2号住居址	円形	4.7 × 4.7	不明	d	方形石圍伊	埋燬
			3号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	
			4号住居址	不整形方形	4 × 4	2以上	d	方形石圍伊	
			5号住居址	円形	6.7 × 6.1	6	b1	方形石圍伊	筋張りあり
17	阿曾田	中津川市阿木	18号住居址	不明	不明 × 不明	1以上	d	円形石圍伊	
			11号住居址	円形	3.2 × 3.2	3以上	c	方形石圍伊	
			12号住居址	方形	3.3 × 3.1	4	a1	方形石圍伊	
			13A号住居址	円形?	不明 × 不明	4	b1	方形石圍伊	埋燬
			13B号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	地床伊?	伊内に土器と竪
			13C号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	地床伊?	伊内竪敷
			14号住居址	方形?	不明 × 不明	3以上	d	方形石圍伊	
			15号住居址	円形?	不明 × 不明	3以上	d	地床伊	
			16号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	
			17号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊	
			18号住居址	円形?	不明 × 不明	3以上	e	方形石圍伊	
			19号住居址	不整形円形	3.6 × 3.4	6	c	方形石圍伊	埋燬
			20号住居址	不整形方形	4 × 不明	2以上	d	石圍伊?	伊内土器敷
			26号住居址	不整形円形	5.2 × 5	4	b1	方形石圍伊	
			28号住居址	円形?	不明 × 不明	3以上	c	方形石圍伊	
			29A号住居址	楕円形	4.8 × 4	4以上	e	石圍伊	29B号住居址建替之
29B号住居址	楕円形	4.8 × 4	4以上	d	不明	埋燬			
33号住居址	円形?	不明 × 不明	2以上	d	方形石圍伊				
37号住居址	楕円形	4.3 × 2.9	2以上	d	不明				
41A号住居址	方形	4.8 × 4.6	4	b1	方形石圍伊	41B号住居址建替之			
41B号住居址	方形	4 × 4	4	b1	不明	埋燬			
43A号住居址	不整形方形	4.7 × 4.5	4	b1	円形石圍伊	43B号住居址建替之			
43B号住居址	不整形方形	4.7 × 4.5	3以上?	d	石圍伊?				
47A号住居址	円形?	4 × 不明	4	c	円形石圍伊	伊内土器敷			
48号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	方形石圍伊				
61号住居址	楕円形?	4.4 × 3.9	5	c	円形石圍伊				
66号住居址	不明	不明 × 不明	不明	d	埋燬伊	伊内土器敷			
18	埋燬見	恵那市長島町	第2号住居址	楕円形	6.1 × 5.3	6	b1	方形石圍伊	
			恵那市三郷町	住居址	円形	5.2 × 4.8	5以上	e	方形石圍伊
19	下田	恵那市三郷町	S101	不整形長方形	3.75 × 2.94	4	b2	方形石圍伊	
21	養木平	土岐市養木町	S801	楕円形	8.12 × 6.72	不明	d	方形石圍伊	副伊、試験調査
			S802	不明	不明 × 不明	不明	d	不明	試験調査

よって検出された堅穴建物（堅穴住居）を21遺跡、114軒確認した<sup>2)</sup>。発掘調査件数の多寡によると思われるが、木曾川流域が最も多く19遺跡、111軒であった。土岐川流域では2遺跡、3軒と少なく、矢作川流域では、今のところ確認されていない。

表37・38には、平面形、規模、柱穴数、柱穴配置、炉について、各発掘調査報告書の記述を参考に記載した<sup>3)</sup>。この時期の堅穴建物の柱穴は、4本のものが多いが、5本以上となるもの、堅穴外に配置するものなどが確認できる。柱穴配置は、a～dに記号化して表に記載した。4本柱で長方形に配置されるものをa、4本以上の柱で長方形に配置されないが、2本の柱穴を結ぶ線が平行するものをb、aとb以外の不規則な配置をc、不明なものをdとした。なお、aとbは次のように細分した。

- a：建物の主軸に対して横長の長方形をa1、建物の主軸に対して縦長の長方形をa2とした。
- b：2本の柱を結ぶ線が平行し、その平行線が建物の主軸に対して直交するものをb1、建物の主軸に対して平行するものをb2とした。

4本柱で長方形の配置となるもの（a）が19軒、4本～6本の柱で柱間を結ぶ線が平行となるもの（b）が19軒、不規則な配置となるもの（c）が25軒、柱配置が不明なものが51軒であった。これらの柱配置は、同じ遺跡や同じ時期のものであってもばらつきがあり、今のところ小地域や時期的なまとまりを把握することができない。

堅穴建物の平面形を見ると、形状をある程度判断したもの94軒のうち、円形や楕円形など円形基調のものが51%、方形や長方形など方形基調のものが47%、多角形が2%であり、円形基調のものが僅かに多い。円形基調となる平面形の柱穴配置では、不規則となるものが方形基調の堅穴建物よりもかなり多い。岐阜県美濃地方では、規則的に配置される4本柱の堅穴建物は、中期後葉になって増加し主体的となるが、円形基調の堅穴建物では柱穴が不規則となる配置が、依然として採用されていたと思われる。

SI01や各柱穴配置の代表的な堅穴建物の平面図を図53に示し、その平面形に長方形及び同心円を重ねた<sup>4)</sup>。陰地遺跡1号住居跡は平面形が円形で、4本の柱が主軸に対し横長の長方形に配置され、柱穴配置がa1となる。重ねた同心円の中心は、方形石囲炉の西辺中央になる。こうした柱穴配置は、平面形が方形基調のものも含めて、三ツ池遺跡第1号住居址や阿曾田遺跡SB12など17軒を確認した。宮之脇遺跡A地点SB19は平面形が円形で、4本の柱が主軸に対し縦長の長方形に配置され、柱穴配置がa2となる。重ねた同心円の中心は、方形石囲炉の南辺中央になる。こうした柱配置は、他に宮之脇遺跡B地点SB7だけである。阿曾田遺跡41A号住居址は、平面形が方形で、4本の柱のうち主軸の西側と東側にある柱を結ぶ2本の線が平行し、その平行線は主軸に対し直交する配置となり、柱配置がb1となる。重ねた同心円の中心は、方形の石囲炉の南辺の中央になる。門垣外遺跡5号住居址は平面形が円形で、6本の柱のうち主軸の北側と南側にある柱を結ぶ3本の線が平行し、その平行線は主軸に対し直交する配置となり、これも柱配置がb1となる。重ねた同心円の中心は、中央にある小穴になる。こうした柱穴配置は18軒確認した。阿曾田遺跡61号住居址は平面形が不整形円形で、6本の柱が不規則に配置されており、柱穴配置がcとなる。重ねた同心円の中心は、円形石囲炉の南側にある。

縄文時代中期後葉に増加する規則的な柱穴配置は、aやbであるが、中でもa1やb1の柱穴配置が一般的で、a2やb2の柱穴配置は非常に少ない。釜戸上平遺跡のSI01は、柱間が主軸に対して並行する方向が長くなる、縦長の配置であり、さらに一つの柱穴の位置がずれて長方形配置とならないとい

う特徴がある。なお、阿曾田遺跡41A号住居址などの横長の配置で長方形とならない例は、柱穴が主軸に対して線対称の位置関係となるものが多い。

SI01に類似する柱穴配置は確認できず、この地域では特異な柱穴配置と思われる。また、縄文時代中期後葉の方形石囲炉では、コーナーの何箇所かに棒状の川原石を立てて置く例がある。しかし、SI01の石囲炉は4つの川原石を方形に組むだけで、コーナー部分にそうした礎は置かれておらず、これもこの堅穴建物の特徴の一つと言えるかもしれない。

縄文時代中期後葉の堅穴建物の柱穴配置の多くは、主軸に対して横長の長方形配置となるものが多い。しかし、今回の発掘調査において検出したSI01は、主軸に対して柱穴配置が縦長となり、かつ、長方形とはならない特徴がある。こうした例は、今回集めた堅穴建物では確認できなかった。縄文時代中期後葉の堅穴建物の分析例では、堅穴建物の類型化が行われ、設計仕様が検討されている<sup>5)</sup>。今回検出したSI01は、岐阜県美濃地方の縄文時代中期後葉の堅穴建物の中では、他に例のない柱穴配置をとる堅穴建物であることがわかった。今回の調査は、推定される釜戸上平遺跡範囲の北西端の一部を対象としたに過ぎない。集落城の一端を垣間見ただけであれば、未調査の範囲にどのような遺構が残されているのか、今後の調査に期待したい。

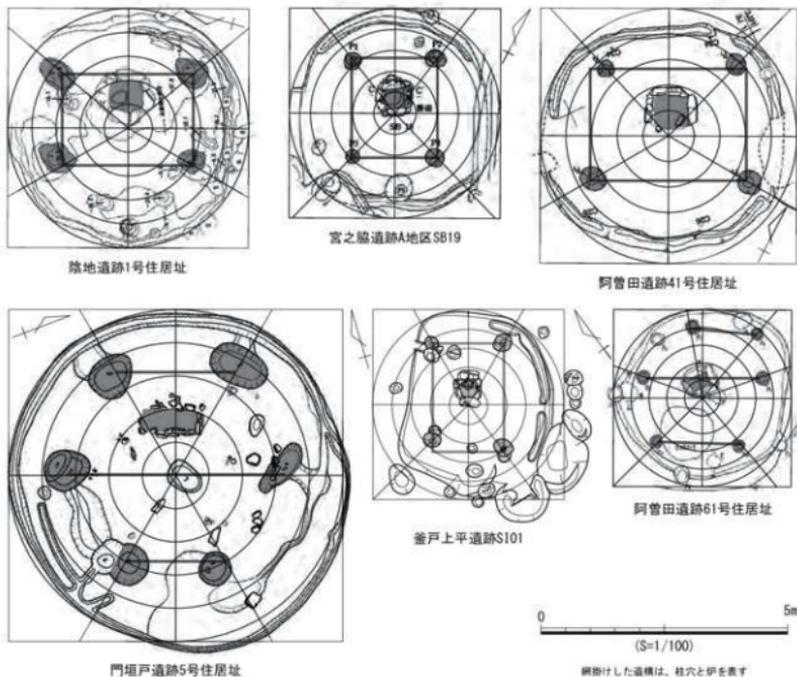


図53 堅穴建物の柱穴配置例

## 2 石器について

発掘調査で出土した石器の器種別数量は、表5のとおりである。この中で、石鏃と打製石斧、磨石類の出土数量を比較すると、石鏃が21点と最も多い。打製石斧は18点であり、石鏃と大きな差はないが、磨石類は少なく6点である。しかし、昭和50年に採集された数<sup>6)</sup>を加えると、打製石斧が最も多く216点となり、石鏃はその半以下の101点である。磨石類は採集された資料が4点と少なく、合わせても10点である。資料採集の条件が異なるため、一概に比較できないし、両者を合計したものが、釜戸上平遺跡の様相を示すとも言えない。しかし、岐阜県内の縄文時代中期後葉の遺跡においては、打製石斧が増加する傾向が見られ、同時期の集落遺跡である坂祝町東野遺跡<sup>7)</sup>では、打製石斧が石鏃の1.6倍以上出土している。発掘調査では、打製石斧の出土点数は石鏃より少ないが、採集資料も合わせると、打製石斧が多い集落遺跡としての特徴を持つと思われる。ただし、出土した打製石斧は、表採資料も合わせて長さが10cm、幅が5cmに満たないものが多い。

ところで、岐阜県内から出土する打製石斧には、2種類の形態があると言われている<sup>8)</sup>。岐阜県掛斐川町所在の尾元遺跡発掘調査で出土した打製石斧の分析では、打製石斧の長さとの幅の比を横軸に、重さを縦軸に散布図を作成すると、A群とB群の二つのグループに区分することが可能であった。A群は、比較的薄く細長い形態で、あまり重さがない打製石斧で、B群は、幅や厚みがA群よりもあり、重くなる打製石斧である。この散布図に、今回の調査資料及び昭和50年の採集資料のうち、ほぼ完形と思われる打製石斧<sup>9)</sup>の数値を重ねたところ、すべてA群の散布域に重なることが判明した(図54)。

尾元遺跡の打製石斧の観察では、打製石斧A群の使用痕は、刃部に直交するものが多く、掘り棒としての用途を推測させるものであった。釜戸上平遺跡で出土した打製石斧は、刃部が摩耗していることは確認できるものの、線状痕が確認できた資料は限られた。しかし、形態による類似性から、掘り棒として使用された可能性が高いと思われる。A群とした打製石斧の出土点数が多いことは、食料資

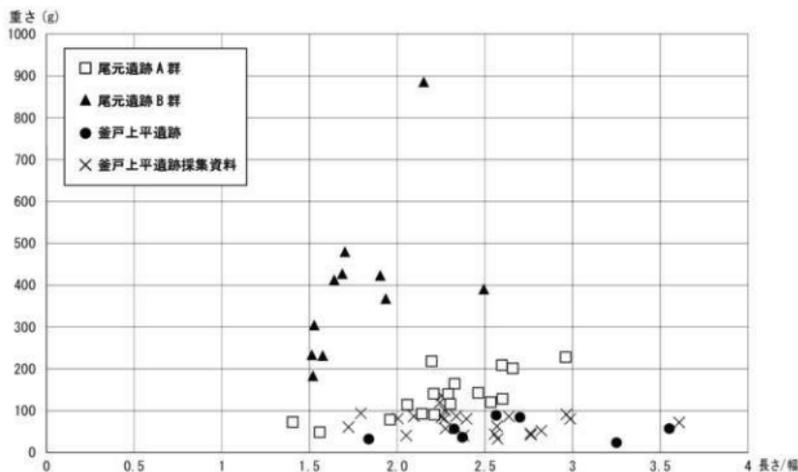


図54 打製石斧計測値相関図

源としての根茎類活用の多さを示すものと思われる。

### 3 土地利用の概要

釜戸上平遺跡では、昭和50年に行われた圃場整備事業の際に多数の遺物が採集され、地形の差からA地点からD地点の採集地点が示されている<sup>10)</sup>。今回の発掘区は、このB地点に含まれるが、採集された遺物が最も多いのはA地点であり、旧石器時代や縄文時代前期から晩期までの遺物が報告されている。この報告では、採集された石器の分析により、居住域としての土地利用が推定されているが、今回の発掘調査で、B地点において、居住のための遺構を確認したことになる。

今回の発掘調査では、釜戸上平遺跡の北西部の一部を調査したに過ぎないが、縄文時代から近世の遺構や遺物を確認した。時代（時期）ごとに、確認した遺構や遺物の概要を示す。

**縄文時代早期** 今回の調査で確認した最も古い時期の遺物は、縄文時代早期である。遺物量は少ないが、この時期の土坑10基を検出した。SK042やSK098、SK100などである。土坑内からは立野式や大川式といわれる時期の押型文土器が出土し、この段階から土地利用が始まっていることが判明した。

**縄文時代前期** 土坑2基と少量の土器を確認した。SK108やSK159である。土器は、縄文時代前期後葉に位置付けられ、東海地方の土器とともに、信州地方でよく見られる諸磯式土器が出土した。

**縄文時代中期** 竪穴建物1軒、土坑40基を確認した。SI01やSK002、SK078などである。土器は、中期前葉から中葉のものが少量ながら出土しているが、遺構と遺物が最も多くなるのは中期後葉で、当遺跡での最盛期といえる。SI01は、炉内から出土した土器が、東海地方西部では取組式といわれる時期のものと思われる。昭和50年の採集遺物においても、縄文時代中期後葉の土器が最も多いことから、発掘区よりも南東側のA地点とされた採集地点側に、集落が展開していることが予測される。土坑の中には、SK078のように遺物の出土状況や埋土の堆積状況から、墓の可能性が考えられるものもある。縄文時代後期や晩期、弥生時代の遺物は、昭和50年の採集資料に含まれているようであるが、今回の発掘調査では確認できなかったことから、時期によって利用される場所が異なることが考えられる。

**古墳時代後期～古代** 土坑3基と少量の土器を確認した。出土した土師器や須恵器は、発掘区全体に散在して出土した。

**中世～近世** 土坑6基と遺物を確認した。SK106やSK180などである。この時期の遺物の出土傾向として特徴的なのが、他の時代の遺物が比較的少ない調査グリッドG3～G8において、多く出土していることである。この場所は、圃場整備による攪乱がⅢ層とした基盤層よりも下層の砂礫層まで及んでおり、表土層の下は整地層となると発掘調査では認識された。この整地層から、中世から近世の陶磁器類が多く出土しているが、中世の遺物の残存状況は比較的良好で、強い攪拌を受けず、あまり移動していないと思われる。このことから、整地層若しくは攪乱として扱った堆積層の一部が、中世から近世における土地利用による影響を受けた堆積の可能性があると思われる。そのため、Ⅱ層が残存せず、Ⅲ層よりも下層に存在した砂礫層が露出した帯状の範囲は、中世から近世における土地利用の痕跡を示す可能性があるものと思われる。SA01の方位は、調査グリッドG4からG7に渡る帯状の攪乱部分の方向性に近いと言え、少し方位は異なるものの、時期不明とした掘立柱建物も含めて、中世～近世に構築された可能性を考えておきたい。

このように、今回の発掘調査区において、縄文時代早期から始まった土地利用は、近世に至るまで断続的に行われ、縄文時代中期後葉には集落を営んでいたことが判明した。

注

- 1) 2003年の集成では縄文時代中期後葉の竪穴建物は175軒確認されていた(春日井・長谷川2003)。その後、塚原山遺跡や東野遺跡、榎原村平遺跡などでも確認されており、230軒以上となる。
- 2) 確認できなかった発掘調査報告書もあり、遺漏もあると思われる。また、発掘調査報告書が刊行されておらず、市町村史に記載されただけのものは割愛した。
- 3) 原則として、発掘調査報告書の記載に準じたが、掲載された図を確認し、一部変更したものがある。
- 4) 長谷川豊氏の分析方法(長谷川1994「唐草文土器分布図における竪穴住居地の一類型」『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』)を参考にして、長方形と同心円を重ねた。
- 5) 注4の文献の他、長谷川1995「飛騨における縄文時代中期後葉の竪穴住居地について」『飛騨と考古学』(飛騨考古学会20周年記念誌)など。
- 6) 近藤行仁2012「釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪市陶磁資料館研究紀要』第14号による。
- 7) 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター『東野遺跡』(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第104集)
- 8) 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『尾元遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第82集)において確認された。尾元遺跡だけでなく、掛変川町上原遺跡、岩井谷遺跡、郡上市勝更白山神社周辺遺跡、下呂市湯屋遺跡、中津川市落合五郎遺跡などの資料とも比較し、2種の打製石斧の存在を指摘している。また、中津川市教育委員会1988『落合五郎遺跡発掘調査報告書』では、前期の打製石斧について「肉厚の「斧」になりそうなものと、薄身のいわゆる土掘り具になるものに分かれる。」と報告されている。
- 9) 採集資料は、近藤行仁2012「釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪市陶磁資料館研究紀要』第14号、瑞浪市陶磁資料館の表4～表9の観察データを利用した。
- 10) 注6に同じ

### 参考・引用文献

- 内堀信雄・井川祥子1996「美濃における古代煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 春日井恒・長谷川幸志2003「岐阜県美濃地方における縄文時代建物遺構の変遷」『関西縄文時代の集落・墓地と生業』（関西縄文論集1）、関西縄文文化研究会
- 加藤寛治1982『からむし』第2号
- 上矢作町教育委員会1999『上矢作町内遺跡発掘調査報告書上村川下流域の考古学的調査』
- 岐阜県企画部地域振興課1989『岐阜県土地分類基本調査「恵那」、「中津川」』
- 岐阜県教育委員会2004『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第3集（可茂地区・東濃地区）
- 岐阜県文化財保護センター2023『公文垣内南遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第159集）
- 近藤行仁2012「釜戸上平遺跡における旧石器～縄文時代遺物の詳細報告」『瑞浪市陶磁資料館研究紀要』第14号、瑞浪市陶磁資料館
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『尾元遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第82集）
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『東野遺跡』（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第104集）
- 城ヶ谷和広1996「総論 東海地方の古代煮炊具の様相と諸問題」『鍋と甕そのデザイン』、第4回考古学フォーラム実行委員会
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター2004『江戸時代の瀬戸・美濃窯』（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター企画展図録）
- 多治見市教育委員会1993『美濃窯の焼物』（多治見の古窯第3号）
- 多治見市教育委員会1993『小名田小滝古窯跡群』（多治見市埋蔵文化財調査報告書第39集）
- 土岐市教育委員会・財団法人土岐市埋蔵文化財センター2006『窯ヶ根窯跡発掘調査報告書—平成13年度・14年度の調査成果—』
- 中津川市教育委員会1988『落合五郎遺跡発掘調査報告書』
- 長野県1988『長野県史 考古資料編第1巻（4）遺構・遺物』社団法人長野県史刊行会
- 長谷川豊1994「唐草文土器分布圏における竪穴住居地の一類型」『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会
- 長谷川豊1995「飛騨における縄文時代中期後葉の竪穴住居地について」『飛騨と考古学』（飛騨考古学会20周年記念誌）、飛騨考古学会
- 藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」三重県埋蔵文化財センター編『研究紀要』第3号
- 三島誠2003「岐阜県の縄文時代前期・中期の石器概要」『第5回関西縄文文化研究会縄文時代の石器—関西の縄文前期・中期』関西縄文文化研究会
- 瑞浪市1974『瑞浪市史』歴史編
- 瑞浪市教育委員会1966『岐阜県瑞浪市釜戸町字吉原津島古墳発掘調査報告書』（瑞浪市史学研究報告書第4号）
- 瑞浪市教育委員会1981『瑞浪市中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 瑞浪市教育委員会2014『瑞浪市遺跡地区』（瑞浪市文化財調査報告書第6集）

矢野健一1993「押型土器の起源と変遷に関する新視点」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第2号、三重県埋蔵文化財センター

山内伸浩2008「東濃地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一樣相一窯の分布とその変遷からの視点」『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会

山岸洋一1996「縄文前期「特殊凸帯土器」細分の可能性一文様の施文技法の検討を中心に」『信濃』第48巻4号、信濃史学会

#### 第4章 竪穴建物集成参考・引用文献

六軒遺跡：岐阜県教育委員会1981『三井遺跡・六軒遺跡—一般国道21号線那加バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

三ツ池遺跡：各務原市教育委員会2018『畑畑遺跡C地区（三ツ池遺跡）発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告書第51集）

畑畑遺跡：各務原市教育委員会1973『畑畑遺跡—第1・2・3・4・5次発掘調査報告書—』

東野遺跡：財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『東野遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第104集）

岐阜県文化財保護センター—2016『東野遺跡II』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第136集）

宿遺跡：可見市文化スポーツ部文化財課2020『宿遺跡及び可見市市内遺跡発掘調査報告書（H28～29年度）』（可見市埋文調査報告56）

仲泊間遺跡：美濃加茂市教育委員会1995『仲泊間遺跡発掘調査報告書』、

野佐遺跡：財団法人岐阜県文化財保護センター2000『野佐遺跡I』（岐阜県文化財調査報告書第66集）

牧野小山遺跡：美濃加茂市教育委員会・岐阜県教育委員会1973『牧野小山遺跡—県道七宗可児線道路工事埋蔵文化財調査報告書—』

宮之脇遺跡：可見町教育委員会1976『宮之脇遺跡発掘調査報告書』

可見町教育委員会1994『川合遺跡群—「川合北部土地区画整理事業」に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書—』

神明遺跡：美濃加茂市教育委員会1971『神明遺跡』

造道遺跡：八百津町教育委員会1991『和知城跡・造道遺跡（縄文）—公園造成工事に伴う事前の発掘調査報告書—』

立壁A遺跡：八百津町教育委員会1975『立壁A遺跡調査報告』

陰地遺跡：財団法人岐阜県文化財保護センター1994『陰地遺跡』（岐阜県文化財調査報告書第15集）

鹿路山遺跡：恵那市教育委員会1974『鹿路山遺跡発掘調査報告書』

尾ヶ平遺跡：付知町教育委員会1981『尾ヶ平遺跡—国道257号線バイパス道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

門垣戸遺跡：坂下町教育委員会1976『門垣戸遺跡』

阿曾田遺跡：、中津川市教育委員会1985『阿曾田遺跡発掘調査報告書—阿木川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—』

祖里見遺跡：恵那市教育委員会1984『祖里見遺跡—県営恵南第一ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書』

下田遺跡：恵那市教育委員会1982『下田遺跡—県営ほ場整備事業恵南地区事業に伴う緊急発掘調査報告書—』

妻木平遺跡：土岐市教育委員会・公益財団法人土岐市文化振興事業団2018『平成23～27年度妻木平遺跡試掘確認調査報告書』



発掘区遠景（西から）



発掘区北部近景（西から）

図版 2 発掘区近景



発掘区北東部近景（北から）



発掘区中央部近景（西から）



S101 検出状況 (西から)



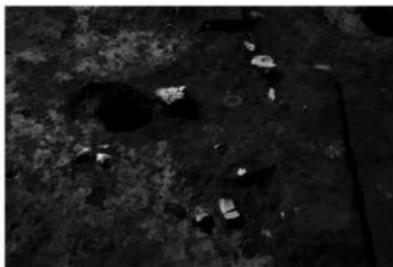
S101 (北西から)



S101 (北東から)



S101 炉 (東から)



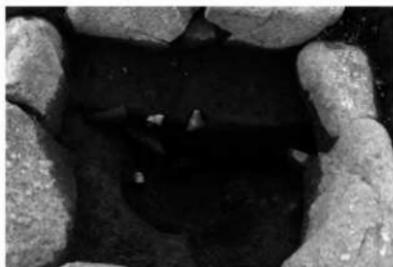
S101 遺物出土状況 (南東から)



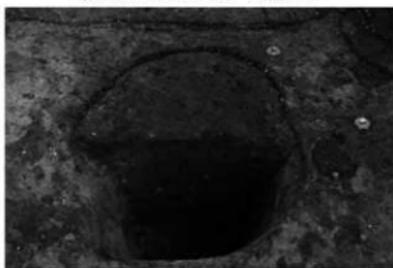
S101 炉内遺物出土状況 (南西から)



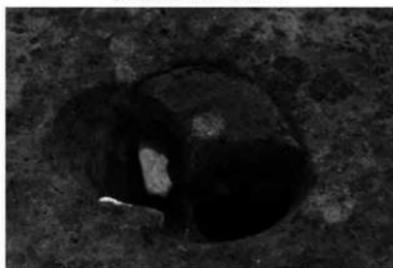
S101 床面遺構検出状況 (北東から)



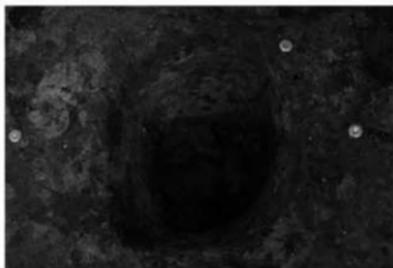
S101 炉土層断面 (南から)



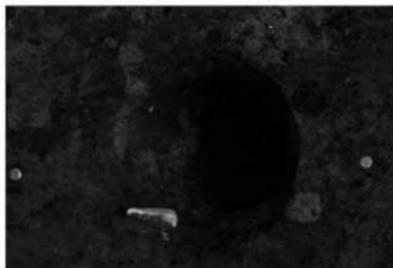
S101-P2 土層断面 (南西から)



S101-P3 土層断面 (北西から)

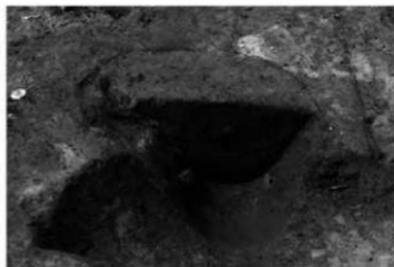


S101-P2 (南西から)



S101-P3 (北西から)

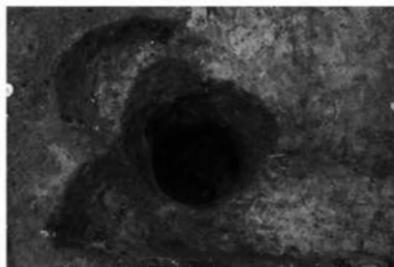
図版6 単独柱穴・土坑 (1)



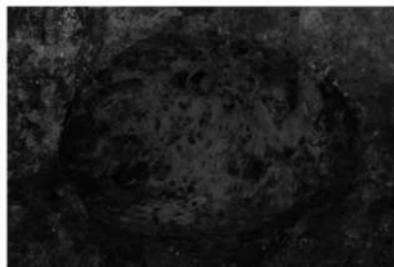
SP01 土層断面 (北東から)



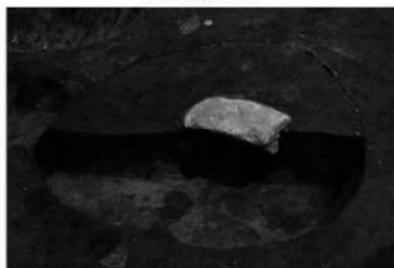
SK002 土層断面 (南西から)



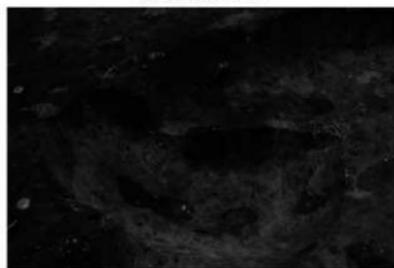
SP01 (北東から)



SK002 (南西から)



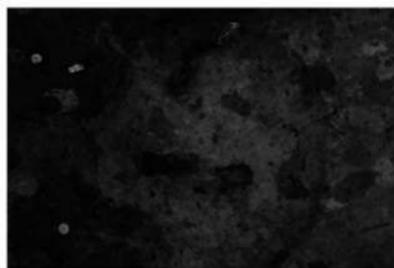
SK004 土層断面 (南西から)



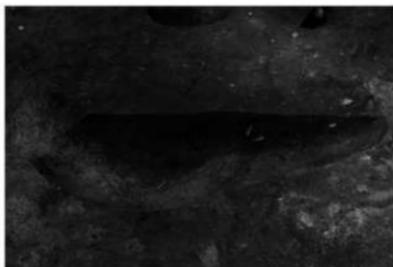
SK023 土層断面 (南西から)



SK004 (南西から)



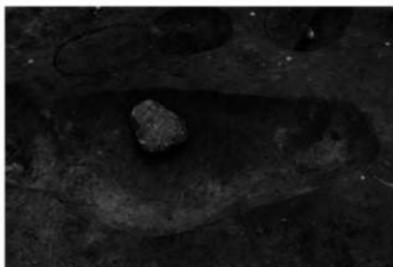
SK023 (南西から)



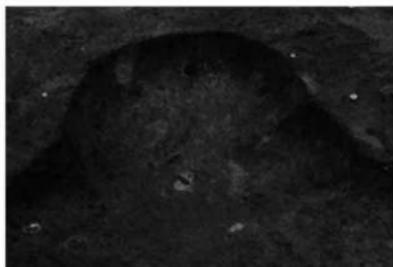
SK053 土層断面 (南西から)



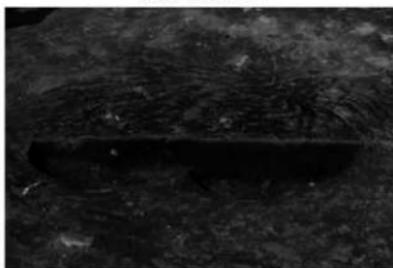
SK054 土層断面 (西から)



SK053 (南西から)



SK054 (西から)



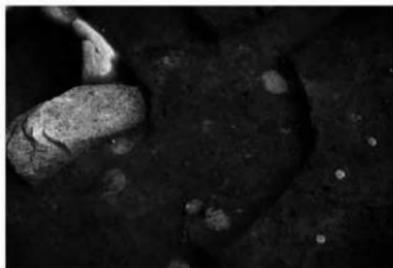
SK062 土層断面 (南西から)



SK069 土層断面 (南西から)

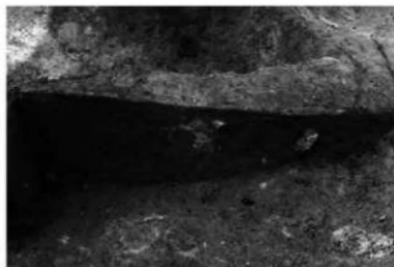


SK062 (南西から)



SK069 (南西から)

図版8 土坑(3)



SK073 土層断面 (北西から)



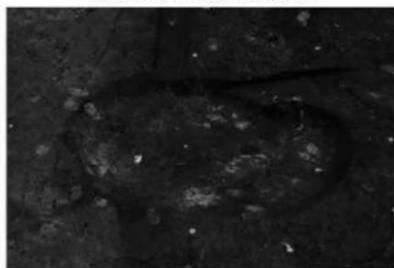
SK078 土層断面 (南西から)



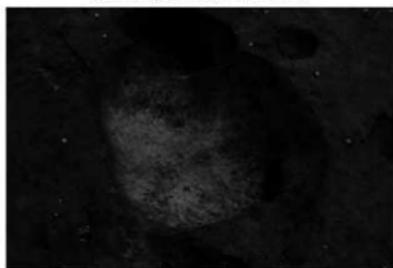
SK073 遺物出土状況 (南東から)



SK078 遺物出土状況 (南西から)



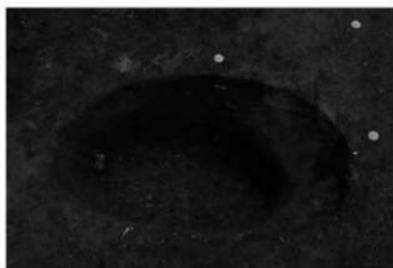
SK073 (南東から)



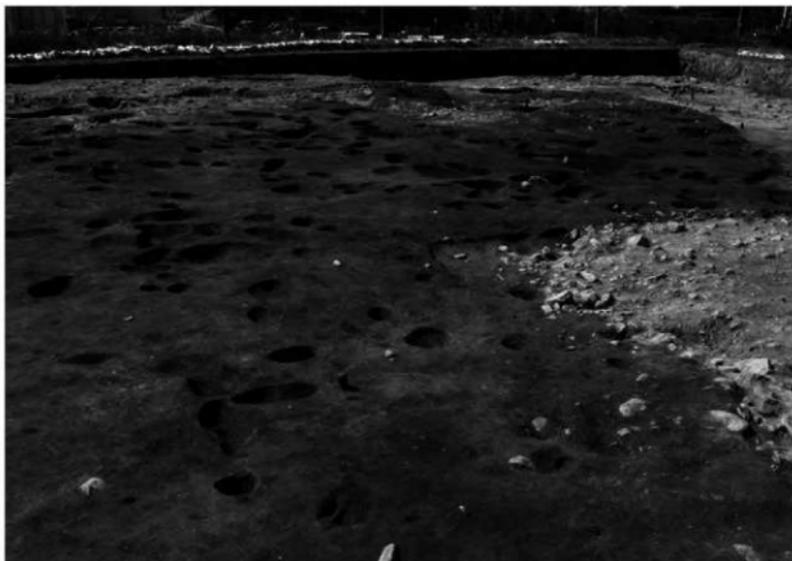
SK078 (南西から)



SK098 土層断面 (南西から)



SK098 (南西から)



SB01、SB02、SA01 (東から)



SB01、SB02 (北東から)



SB02（北東から）



SA01（北東から）



SK005（南東から）



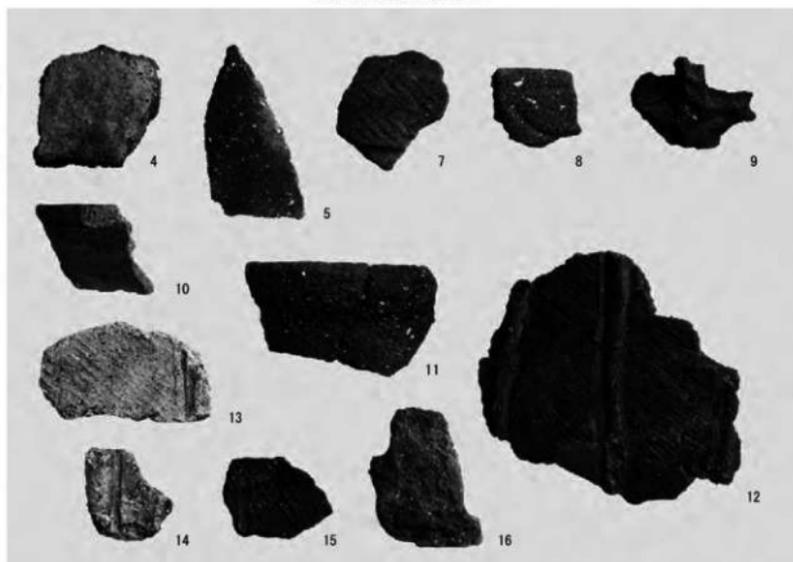
SK118（南西から）



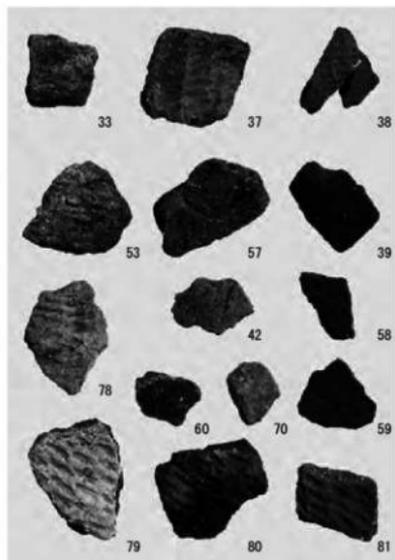
調査グリッドG列の溝状の擾乱（東から）



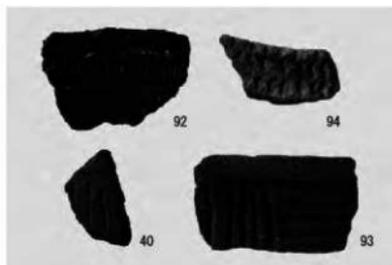
SI01 出土縄文土器 (1)



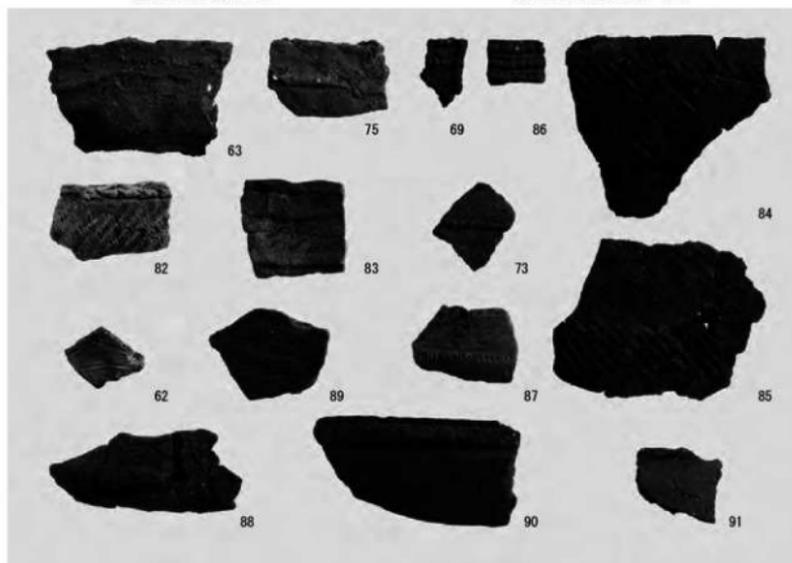
SI01 出土縄文土器 (2)



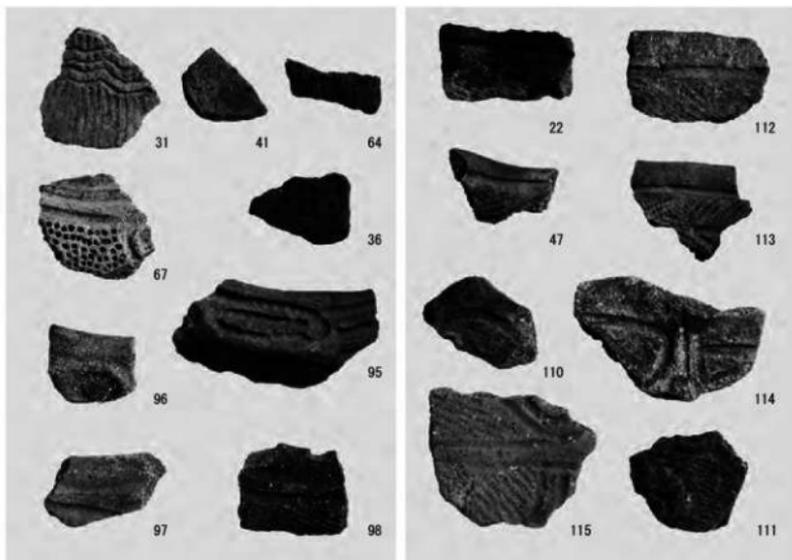
縄文時代早期の土器



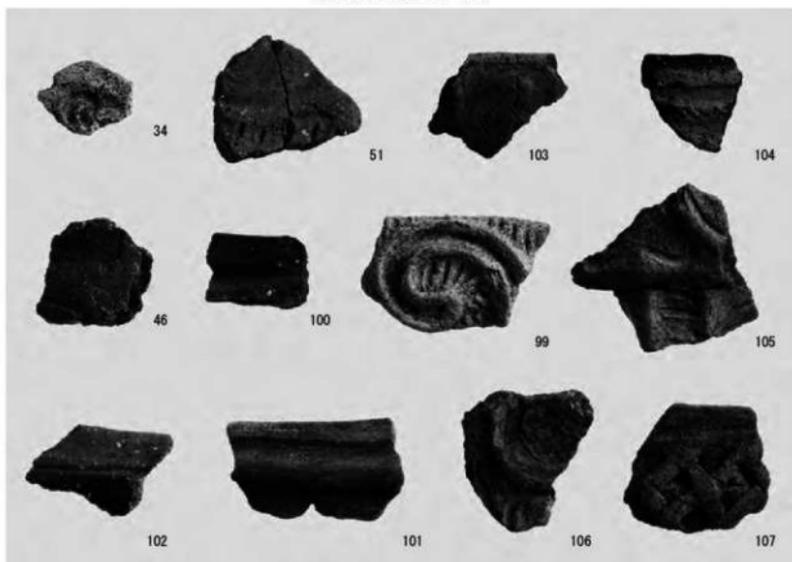
縄文時代中期の土器 (1)



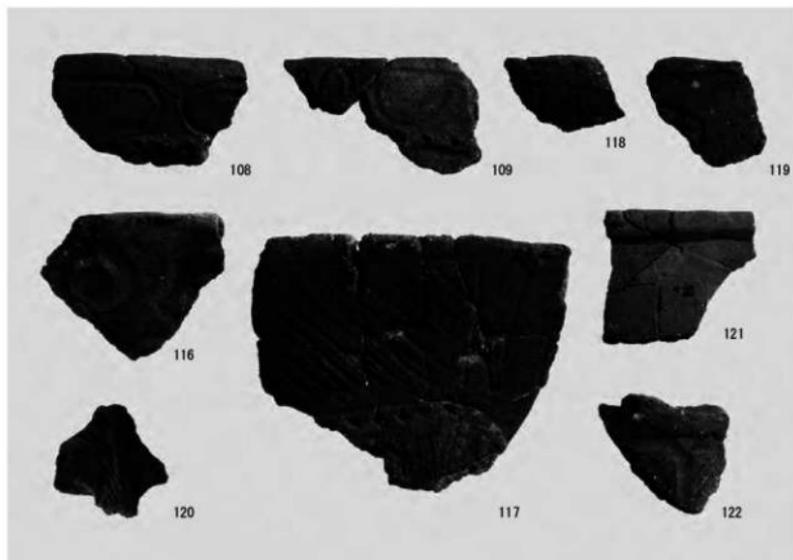
縄文時代前期の土器



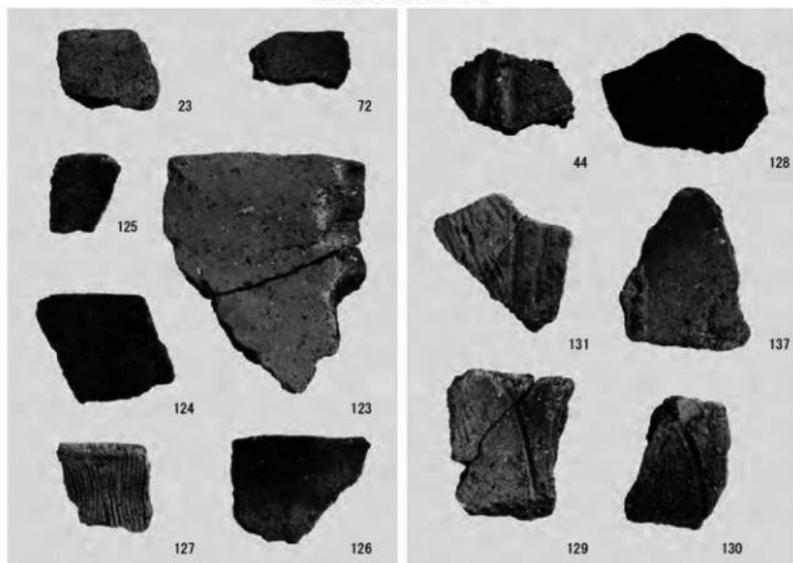
縄文時代中期の土器 (2)



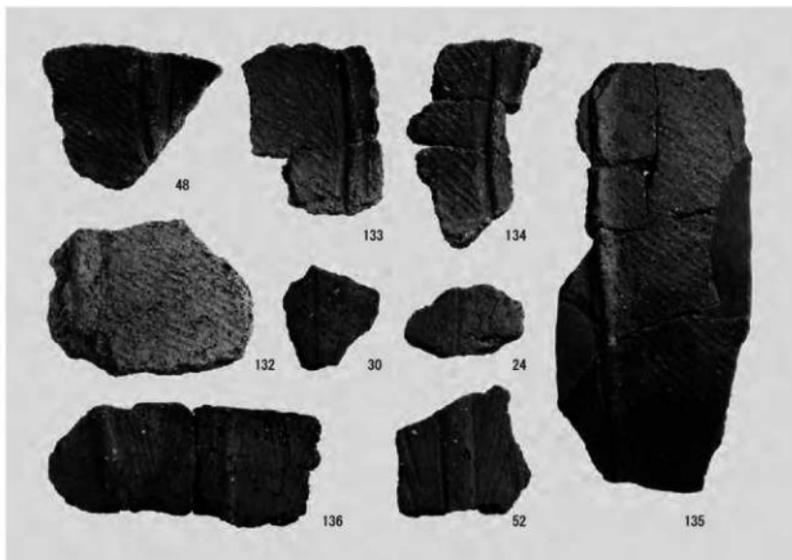
縄文時代中期の土器 (3)



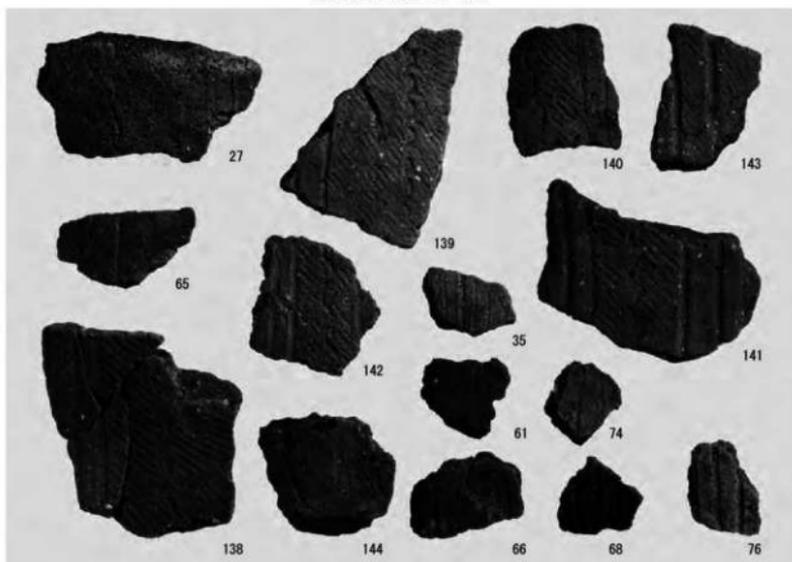
縄文時代中期の土器 (4)



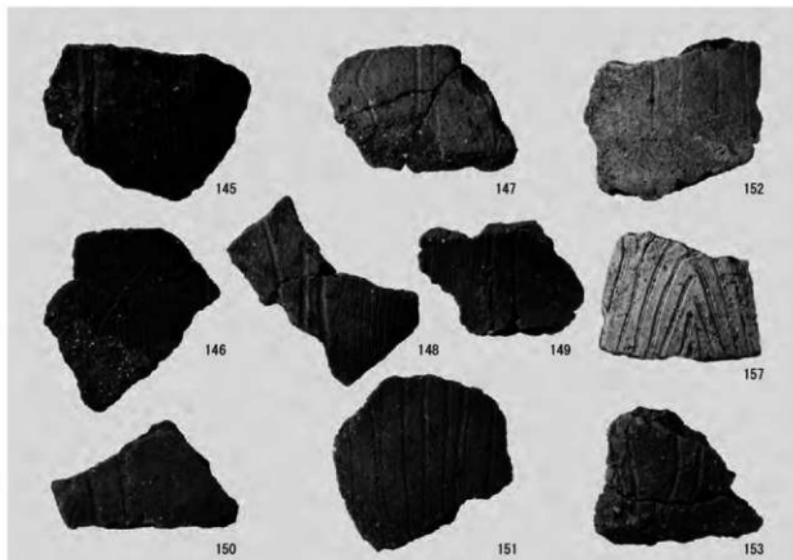
縄文時代中期の土器 (5)



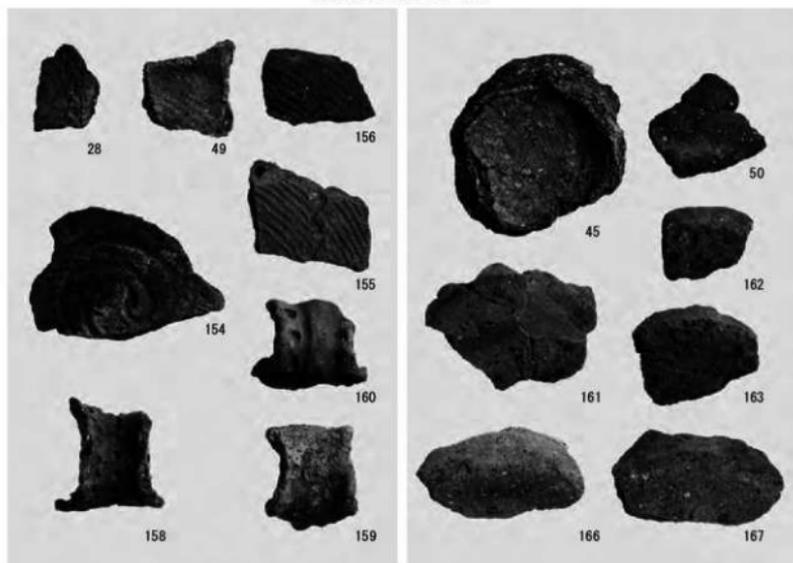
縄文時代中期の土器 (6)



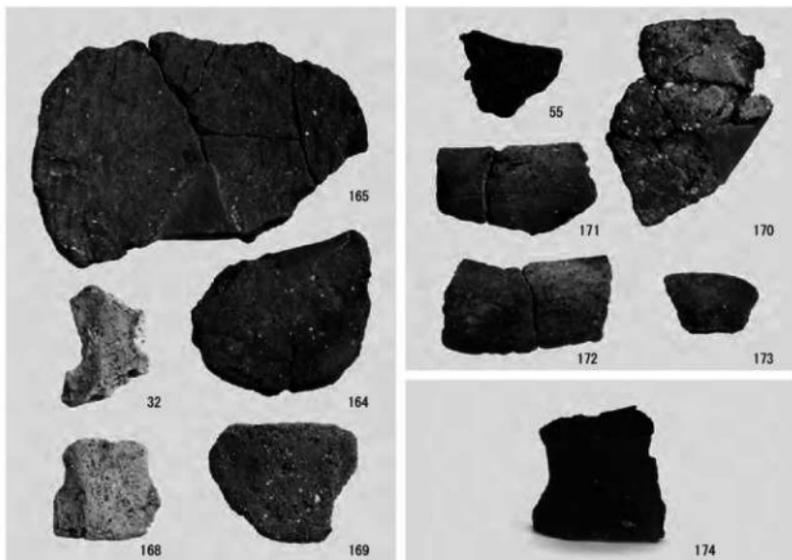
縄文時代中期の土器 (7)



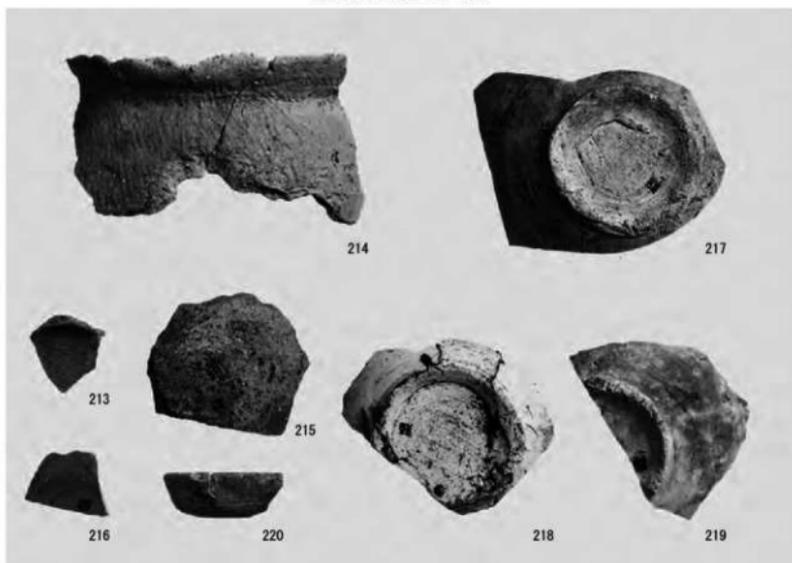
縄文時代中期の土器 (8)



縄文時代中期の土器 (9)



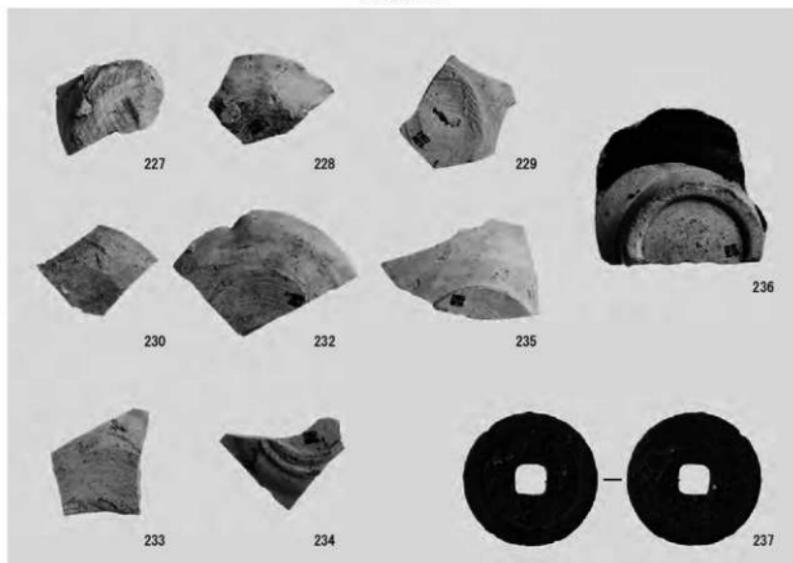
縄文時代中期の土器 (10)



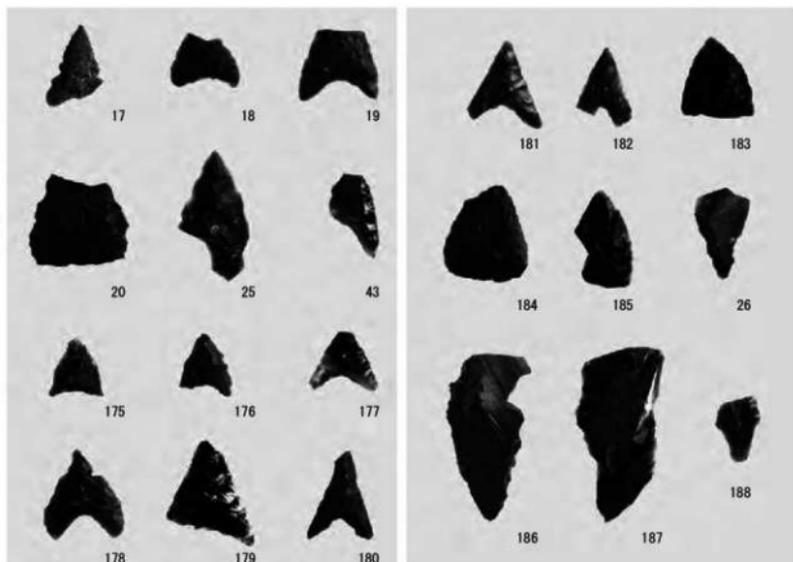
土師器・須恵器・山茶碗 (1)



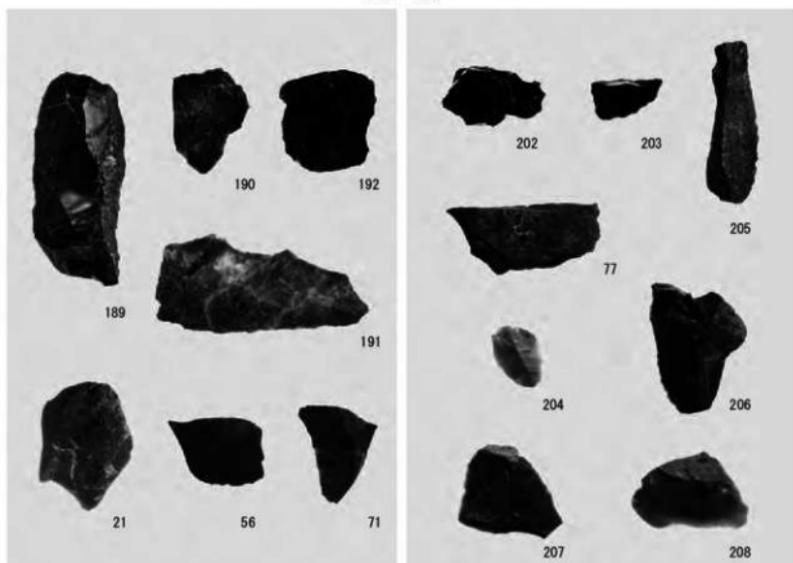
山茶碗 (2)



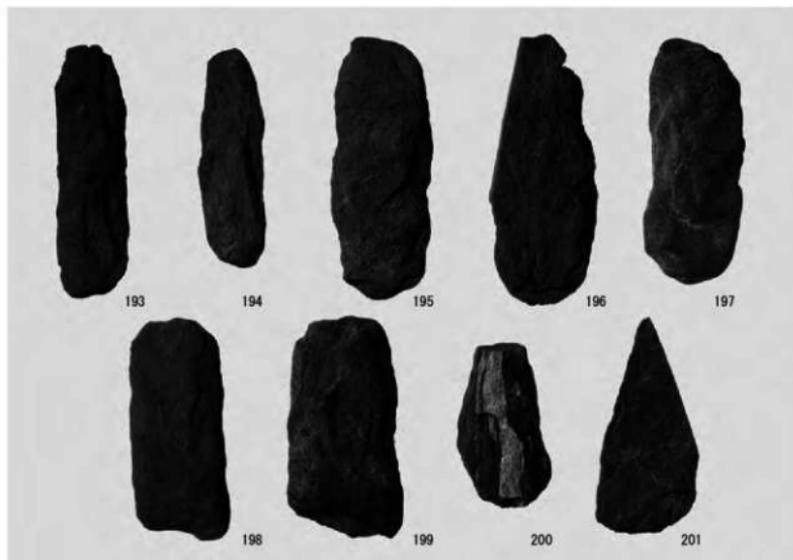
山茶碗 (3)・近世陶器・錢貨



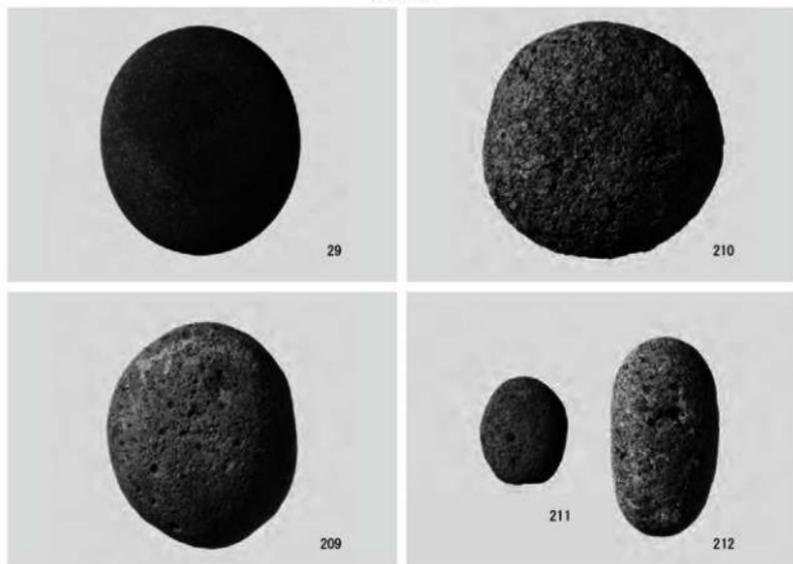
石鏃・石錐



スクレイパー・楔形石器・石核・RF・MF



打製石斧



磨石類

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	かまどうえだいらいせき							
書名	釜戸上平遺跡							
副書名								
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書							
シリーズ番号	第163集							
編著者名	春日井恒・中野真吾							
編集機関	岐阜県文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL058-237-8550 FAX058-237-8551							
発行年月日	2024年3月8日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘 原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かまどうえだいらいせき 釜戸上平遺跡	岐阜県 瑞浪市 釜戸町	21208	06160	35° 24' 22"	137° 18' 15"	20210506～ 20211030	1,436.3	記録保 存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
釜戸上平遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 古代 中世	竪穴建物1軒 掘立柱建物2棟 柵 1列 土坑 412基 など	縄文土器 土師器 須恵器 山茶碗 中近世陶磁器類 石器 金属製品 など	4,179点 69点 9点 290点 146点 351点 1点 など	縄文時代中期後葉 の竪穴建物や時期 不明であるが掘立 柱建物、柵など確 認した。		
要 約	<p>釜戸上平遺跡は、瑞浪市の中央部を東西に流れる土岐川左岸の河岸段丘上に立地する。今回の発掘調査では、縄文時代（早期・前期・中期）や古墳時代～古代、中世の遺構を検出した。</p> <p>中心となるのは縄文時代中期後葉で、竪穴建物1棟の他多くの土坑を検出した。昭和50年に実施された圃場整備事業の際に、多量の縄文時代の遺物が採集されており、その散布域を考慮すると、今回の発掘区は、集落域の北端部に位置すると思われる。</p> <p>数量は少ないが、縄文時代早期や縄文時代前期、古墳時代～古代、中世の土坑を検出しており、それらの時期にもこの地での活動痕跡が認められた。</p>							

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第163集

## 釜戸上平遺跡

2024年3月8日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター  
岐阜市三田洞東1-26-1

印刷 株式会社もとすいんさつ



